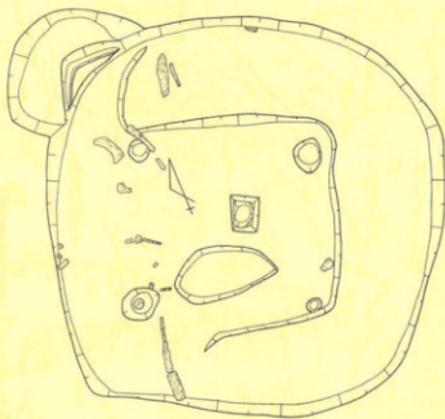


太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五冊

ひっこん ばら い せき
凹 原 遺 跡



2001年12月

高松市教育委員会

例 言

- 1 本報告書は、太田第2上地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第五冊で、高松市多肥下町に所在する凹原遺跡の調査報告を収録した。
- 2 発掘調査および整理作業については、高松市教育委員会が実施した。
- 3 調査から報告書作成に至るまで、下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 讃岐文化遺産研究会
石上英一(東京大学史料編纂所教授) 金田章裕(京都大学文学部部長)
上楽善通(元奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長)
寒川 旭(関西センター大阪大手前サイト主任研究員) 高橋 学(立命館大学文学部教授)
外山秀一(皇學館大学文学部教授) 月羽佑一(香川大学経済学部教授)
- 4 凹原遺跡の調査は、平成元年度に文化振興課文化財専門員川畑聰が試掘調査を実施し、本調査を平成2年度に川畑が行った。整理作業は川畑および同専門員大嶋和則が行った。
- 5 本報告書掲載の写真撮影は、楠華堂(代表楠本真紀子)に委託した。
- 6 本報告書の編集・執筆は、川畑が行った。
- 7 本文の挿図として、国土地理院発行2万5千分の1地形図「高松南部」および高松市都市計画図「2千5百分の1「太田」」を一部改変して使用した。
- 8 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会が保管している。
- 9 本報告書の高度値は海拔高を表し、方位は第47・83・84・86図が磁北を、これら以外は座標北を表す。
- 10 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SA…溝列 SH…竪穴住居 SD…溝 SK…土坑 SP…柱穴 SX…不明遺構

目 次

例言・目次	1
第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査の経緯	2
第2節 調査の経過	2
第2章 地理的環境・歴史的環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	
第1節 調査区の設定と遺構番号	5
第2節 遺跡の概要と基本層序	5
第3節 弥生時代前期末～中期前葉の遺構と遺物	12
第4節 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺構と遺物	16
第5節 古墳時代後期後半～鎌倉・室町時代の遺構と遺物	50
第6節 江戸時代の遺構と遺物	54
第7節 その他の遺構と遺物	55
第8節 廃土置場の遺構と遺物	59
第4章 まとめ	
第1節 遺構の変遷	63
第2節 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭における集落の変遷	63
第3節 凹原遺跡周辺における弥生集落の動向	66

第1章 調査の経緯と経過

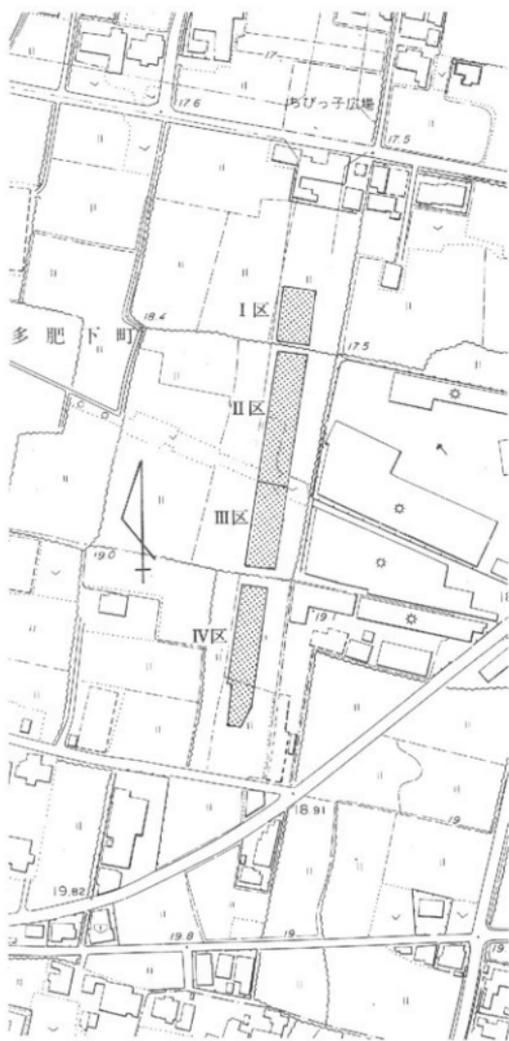
第1節 調査の経緯

凹原遺跡は、高松市多肥下町に位置し、太田第2土地区画整理事業の中で整備が進められている都市計画道路福岡多肥上町線の予定地にあたる。

太田第2土地区画整理事業は、昭和62年2月2日の香川県都市計画審議会による都市計画決定を受けて、昭和63年度から実施されている。事業区域は、高松市街の南郊約6kmの田園地帯で、林、木、太田、多肥の4地区に及ぶ360.6haは全国有数の事業規模である。この地域には、一般国道11号高松東道路ならびに四国横断自動車道の建設が予定され、これによる急速な市街化が予想されるため、路線沿線の市街化ならびに都市基盤整備を計画的に進める目的で事業計画がなされたものである。

第2節 調査の経過

発掘調査も含めて区画整理事業にかかる施工は、所有者の土地使用権を一定期間停止するための仮換地指定の後に行われる。凹原遺跡の場合は、平成元年度の都市計画道路側溝工事に伴う立会時に土器出土が確認されたことから、同年度に試掘調査を実施した。この結果、試掘対象地全域が埋蔵文化財包蔵地と認められたため、包蔵地を字名から凹原遺跡と命名し、発掘調査を実施することとなった。平成2年11月5日から平成3年2月28日にかけて、高松市教育委員会の直管で発掘調査を実施した。航空写真測量は、写測エンジニアリング(株)に発注した。



第1図 調査区位置図 (縮尺1/2,500)

第2章 地理的環境・歴史的環境

第1節 地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に、低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地、東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km、南北16kmの範囲に及んでいる。また、この平野は、讃岐山脈から流下し、北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川などによって形成された扇状地でもある。

さて、現在石清尾山塊の西を直線に北流する香東川は、17世紀初頭の河川改修によって一本化されたもので、古代以前においては香川町大野付近から東へ分岐した後、石清尾山塊の南側を回り込んで平野中央部を東北流する別の主流路があった。この旧流路は、現在では水田及び市街地の地下に埋没してしまったが、空中写真等から複数の旧河道が知られており、発掘調査によってもその痕跡が確認されている。なお、17世紀の廃川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

第2節 歴史的環境

高松平野中央部で、最古の遺跡は、縄文時代草創期の有矢尖頭器が表採された大池遺跡である。しばらくの空白後、晩期の遺跡が発掘されており、木製農具が出土した林・坊城遺跡やさこ・長池遺跡、東中筋遺跡、木器加工場であった居石遺跡等をあげることができる。

弥生時代前期に移ると、天満・宮西遺跡、汲仏遺跡で集落をめぐる環壕が発掘されるとともに、上西原遺跡、さこ・長池遺跡、さこ・長池Ⅱ遺跡で不定形小区画水田が見つかっている。中期になると、さこ・長池遺跡、さこ・長池Ⅱ遺跡、井手東Ⅰ遺跡、多肥松林遺跡で住居跡、周溝墓等を伴う集落の一部が調査されているが、規模・密度は総じて希薄である。

弥生時代後期になると遺跡は数・規模ともに爆発的に増加し、上天神遺跡、天満・宮西遺跡、凹原遺跡、空港跡地遺跡のように十数棟の住居跡と大量の廃棄土器を伴う集落が出現する。

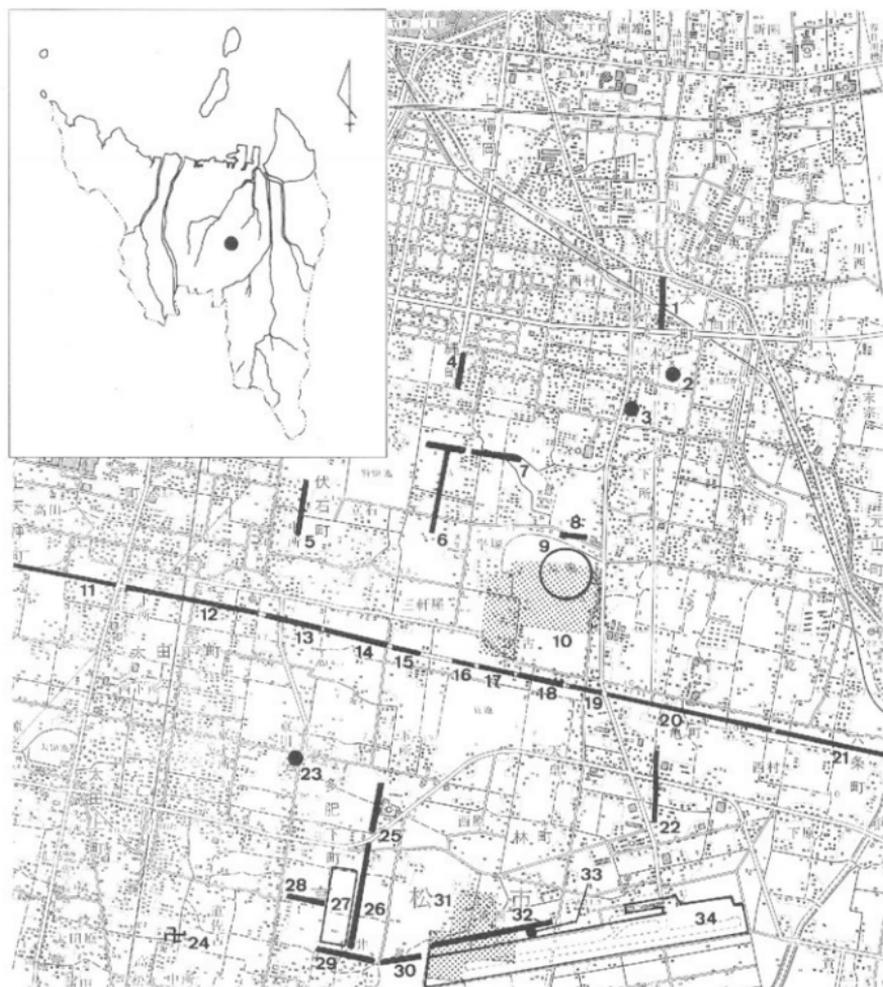
古墳時代では、これら弥生時代後期の遺跡のうち上天神遺跡、凹原遺跡、空港跡地遺跡が前期初頭に至るまで集落が存続する。また、太田下・須川遺跡では古墳時代中期の集落を検出している。一方、古墳の分布状況を概観すると、石清尾山古墳群をはじめ、主に丘陵上に築造されている。

古代では条里遺構が目立される。各遺跡で、条里界線にあたる遺構を検出しており、平安時代から現代に至るまで時代は様々であるが、条里地割施行が段階的に進んだことが明らかになりつつある。中でも、松縄下所遺跡は現地表面の条里とは10数メートルずれた位置にありながら地表条里と同方向の道路側溝を検出し、時期も7世紀代にまで遡り得るなど高松平野の条里施行に関わる可能性がある重要な遺跡である。また、さこ・長池Ⅱ遺跡では旧香川・山田郡界線にあたる部分に幅6mの間隔で並行する道路側溝を検出している。

中世では、さこ・長池遺跡、さこ・松ノ木遺跡で、旧河道が埋没していく過程の凹地に小規模な区画の水田面が検出されている。また、空港跡地遺跡では、溝に囲まれた屋敷跡を確認している。



第2図 遺跡位置図



- | | | | | |
|-----------------|------------|-----------------|-------------|------------|
| 1 木太中村遺跡 | 2 白山神社古墳 | 3 木太本村Ⅱ遺跡 | 4 天満・宮西遺跡 | 5 キモンドー遺跡 |
| 6 松縄下所遺跡 | 7 塚目・下西原遺跡 | 8 上西原遺跡 | 9 大池遺跡 | |
| 10 弘福寺領田図比定地北地区 | 11 上天神遺跡 | 12 太田下・須川遺跡 | 13 蛙股遺跡 | |
| 14 屠石遺跡 | 15 井手東Ⅱ遺跡 | 16 井手東Ⅰ遺跡 | 17 さこ・長池Ⅱ遺跡 | 18 さこ・長池遺跡 |
| 19 さこ・松ノ木遺跡 | 20 林・坊城遺跡 | 21 六条・上所遺跡 | 22 宗高坊城遺跡 | 23 波仏遺跡 |
| 24 多肥廃寺 | 25 凹原遺跡 | 26 日暮・松林遺跡 | 27 多肥松林遺跡 | 28 松林遺跡 |
| 29 多肥松林遺跡 | 30 多肥宮尻遺跡 | 31 弘福寺領田図比定地南地区 | 32 宮西・一角遺跡 | |
| 33 一角遺跡 | 34 空港跡地遺跡 | | | |

第3図 周辺主要遺跡分布図 (縮尺1/25,000)

第3章 調査の成果

第1節 調査区の設定と遺構番号

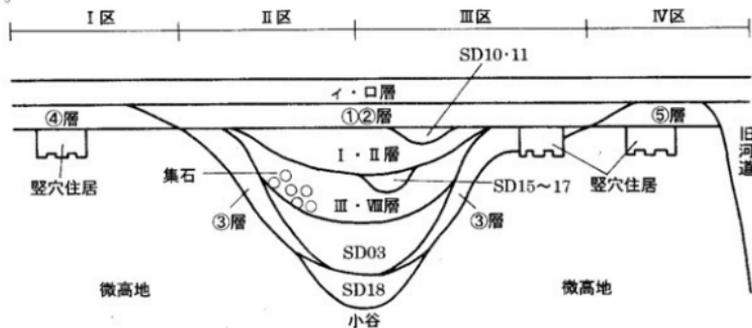
凹原遺跡の調査は、水路の保全や廃土処理スペースの確保を図るため、調査対象地を4区画に分割して行った。調査区は、北から順にⅠ～Ⅳ区と呼称した(第1図)。また、遺構番号については、調査時に検出した順に付けており、本報告でも原則として調査時の遺構番号を踏襲した。柱穴を除く検出した遺構一覧については、第1表のとおりである。

第2節 遺跡の概要と基本層序

調査前の対象地は、水田として利用されていた。都市計画道路福岡多肥上町線では24m幅員の道路予定地のうち総長225m分が調査対象となり、面積は約5,400㎡を測る。そのうち、現有道路や用水路部分などを除くと、実際の掘削面積は3,274㎡となった。

さて、凹原遺跡は高松平野の中央部に位置する。この平野には香東川の旧河道が幾本も埋没しており、これら流路の沖積作用によって形成された微高地が数多く点在している。凹原遺跡は二つの微高地を南北にまたぐ形で立地しており、南北二つの微高地間には小谷が存在する(第5図)。調査区のうちⅠ～Ⅱ区が北微高地に、Ⅲ～Ⅳ区が南微高地に該当し、Ⅱ・Ⅲ区間に小谷が存在する。さらに、南微高地の南側すなわちⅣ区南端には、香東川の埋没旧河道が存在する。

遺跡の基本層序は、略図で表すと第4図のとおりである。調査区全体は、近世～近代の耕作土層と考えられるイ・ロ層および①②層によって覆われている。南北微高地は、頂上部では削平を受けて厚い堆積層は見られないが、縁辺部では④層(Ⅰ区)・③層(Ⅱ・Ⅲ区)・⑤層(Ⅳ区)といった褐色または黒褐色の上炭化層が見られる。凹原遺跡でもっとも多い弥生時代後期末の遺構は、③層より上で④・⑤層より下に存在する。一方、Ⅱ・Ⅲ区間の小谷では厚い堆積層となっており、最上部にⅠ・Ⅱ層が、その下にⅢ・Ⅳ層がある。Ⅰ・Ⅱ層の上に中世～近世と考えられるSD10・11があり、Ⅲ・Ⅳ層の上に古墳時代後期末のSD15～17が掘削されている。また、Ⅲ層下部には集石(橋状遺構)があり、このⅢ層を埋土とするSD24からは古墳時代後期後半の須恵器が出土している。さらに、谷底を縫うようにして弥生時代後期末にSD03が掘削されており、Ⅲ区ではSD03および③層より下に弥生時代前期末のSD18が掘削されている。微高地は浅黄色シルト質極細砂等で形成されており、標高は16.9～17.8mを測り、南から北に向かって傾いている。小谷底は、標高16.4～16.8mを測り、同じく南から北に傾いている。



第4図 基本層序略図

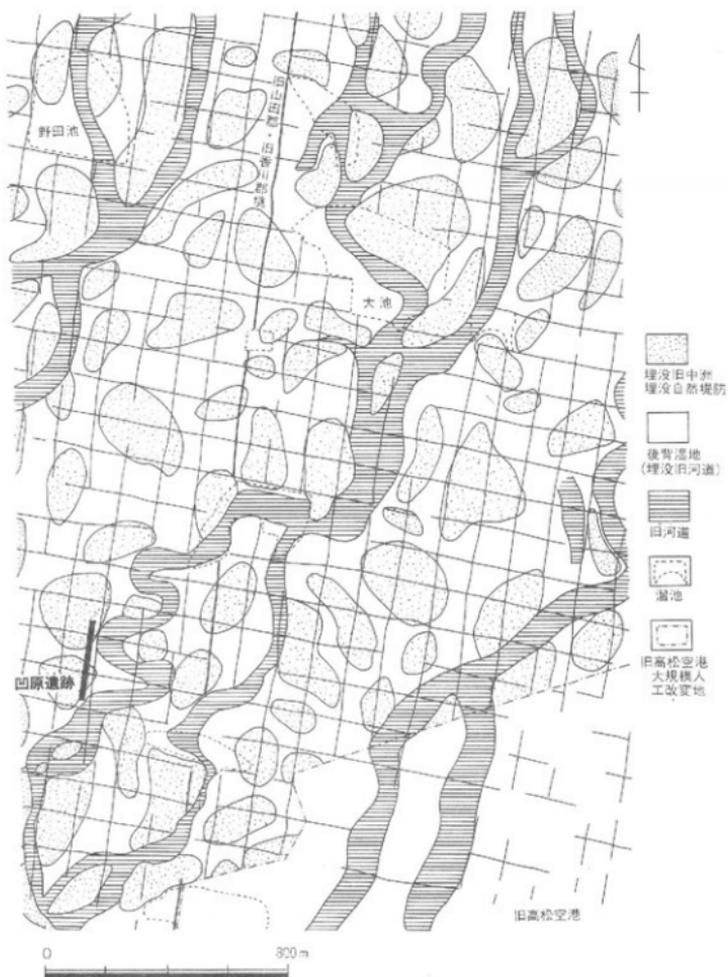
微高地および小谷で検出した遺構は、弥生時代前期末～中期前葉、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭、古墳時代後期後半、鎌倉～室町時代、江戸時代のものである。これらの遺構は、竪穴住居15棟、井戸1基、溝25条、柵列7列、柱穴87基（竪穴住居・柵列の柱穴を除く）、集石（橋状遺構）、土器棺墓1基（麻土置場を除く）、土坑24基、不明遺構4基を数え、遺構および包含層から30%コンテナ約100箱分の遺物が出土した。出土遺物のうち、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属する土器が大部分を占めるが、この時期の土器を時代別に「弥生土器」「土師器」と厳密に分けることは不可能であることから、「弥生土器」で呼称を統一した。また、この時期の土器を検討するにあたって、大久保徹也氏作成による下川津遺跡での土器編年（大久保徹也1990）を参考にした。本文中に記載されている「下川津Ⅳ式」や「下川津Ⅴ式」といった表記は、すべて下川津遺跡での土器編年に従っている。なお、微高地上の遺構は、後世の削平を受けているものが多く、本文中に記載されている遺構の法量は現存の値を示す。

参考文献

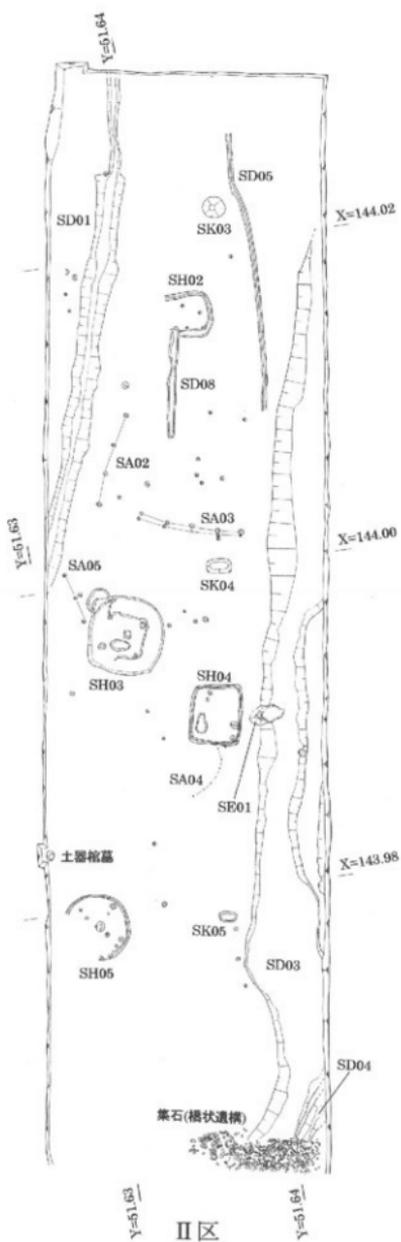
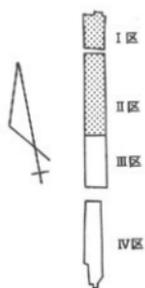
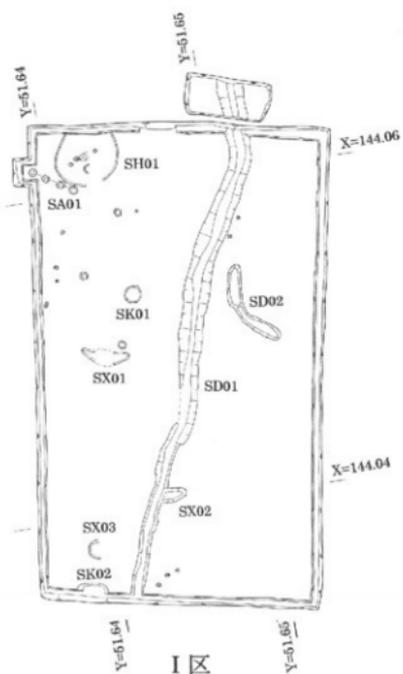
大久保徹也1990「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『下川津遺跡』香川県教育委員会ほか
高橋 学1992「高松平野の地形環境」『讃岐国弘福寺額の調査』高松市教育委員会

遺構名	調査区	出土遺物	法量	備考	遺構名	調査区	出土遺物	法量	備考
SH 01	I	—	16	—	SA 01	I	—	55	—
SH 02	II	—	16	—	SA 02	II	—	55	—
SH 03	II	弥生土器、石器	16	—	SA 03	II	—	55	—
SH 04	II	弥生土器	16	—	SA 04	II	—	55	—
SH 05	II	弥生土器	19	—	SA 05	II	—	53	—
SH 06	III	弥生土器	19	—	SA 06	III	—	55	—
SH 07	III	弥生土器	19	—	SA 07	III	—	55	—
SH 08	III	—	19	—	SK 01	I	—	55	—
SH 09	IV	弥生土器	19	—	SK 02	I	—	54	—
SH 10	IV	弥生土器、石器	13	—	SK 03	II	—	54	—
SH 11	IV	弥生土器	23	—	SK 04	II	—	54	—
SH 12	IV	弥生土器	23	—	SK 05	II	弥生土器、瓦	54	—
SH 13	IV	弥生土器	23	—	SK 06	III	—	54	—
SH 14	IV	弥生土器	23	—	SK 07	III	弥生土器	55	—
SH 15	IV	弥生土器、石器	23	—	SK 08	IV	弥生土器	55	—
SE 01	II	弥生土器	26	—	SK 09	IV	弥生土器	55	—
SD 01	I・II	弥生土器、石器	26	—	SK 11	IV	—	34	—
SD 02	I	弥生土器	30	—	SK 12	IV	—	54	—
SD 03	II・III	弥生土器、石器	38	—	SK 13	IV	—	55	—
SD 04	II・III	弥生土器、石器	38	—	SK 14	IV	弥生土器	55	—
SD 05	III	—	34	—	SK 15	IV	弥生土器	55	—
SD 06	III	弥生土器	30	—	SK 16	IV	弥生土器	55	—
SD 07	III	弥生土器	30	—	SK 17	IV	—	35	—
SD 08	III	—	55	—	SK 18	IV	弥生土器	55	—
SD 09	III	弥生土器	30	—	SK 19	IV	弥生土器	55	—
SD 10	III	弥生土器、石器	32	—	SK 20	IV	弥生土器、石器	55	—
SD 11	III	弥生土器	54	—	SK 21	IV	弥生土器	55	—
SD 12	III	弥生土器、石器	54	—	SK 22	IV	—	55	—
SD 13	III	弥生土器	55	—	SK 23	IV	弥生土器	35	—
SD 14	III	弥生土器	51	—	SK 24	IV	弥生土器	55	—
SD 15	III	弥生土器、須恵器	52	—	SK 25	IV	弥生土器	14	—
SD 16	III	弥生土器	52	—	SX 01	I	—	54	—
SD 17	III	—	52	—	SX 02	I	—	54	—
SD 18	III	弥生土器、石器	14	—	SX 03	I	—	34	—
SD 19	III	弥生土器	30	—	SX 07	IV	—	55	—
SD 20	IV	弥生土器	55	—	集石	II	—	50	—
SD 21	IV	弥生土器	30	—	土器類意	II	弥生土器	36	—
SD 22	IV	弥生土器	55	—	土器類意1	麻土置場	弥生土器	59	—
SD 23	IV	—	35	—	土器類意2	麻土置場	弥生土器	59	—
SD 24	IV	須恵器	50	—	小谷	II・III	弥生土器、須恵器、石器	53	—
SD 25	III	—	51	—	旧河道	IV	弥生土器	58	—
SP 22	IV	弥生土器	13	—	噴砂	IV	—	59	—

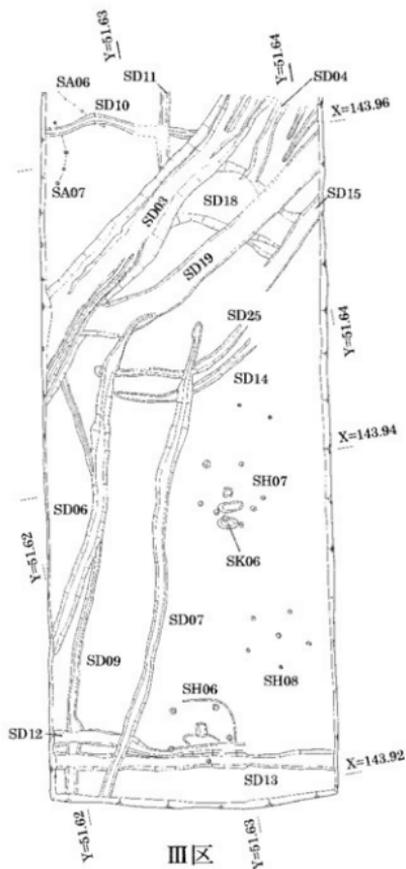
第1表 巴原遺跡遺構一覧



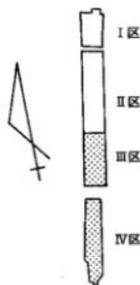
第5図 凹原遺跡周辺の微地形 (高橋孝1992をもとに作成)



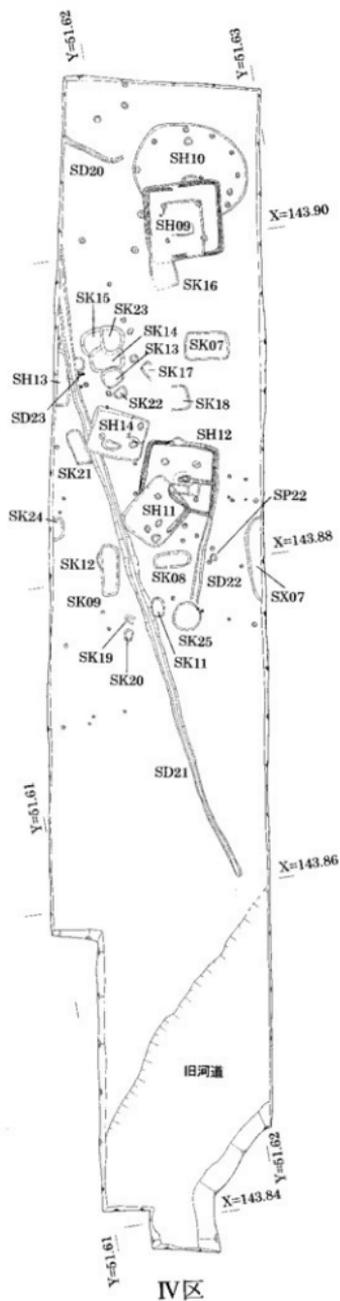
第6图 I·II区遺構配置图(縮尺1/300)



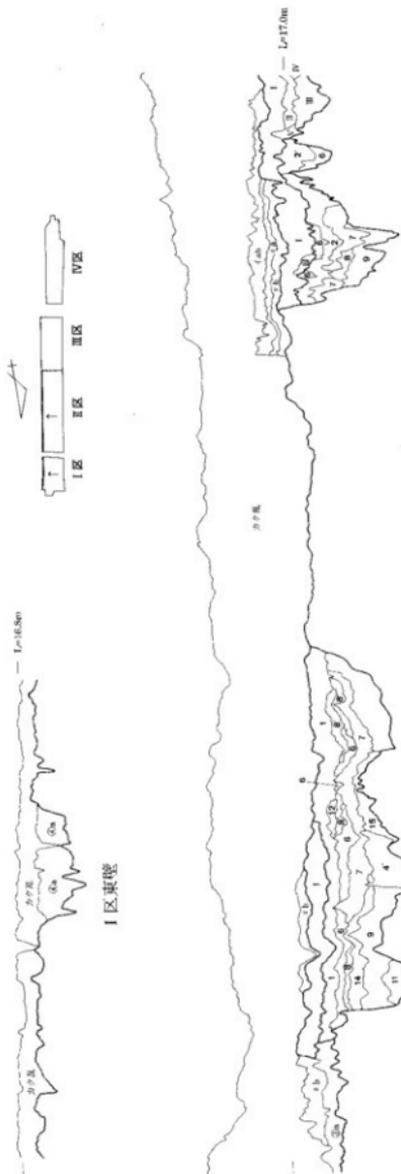
III区



第7图 III·IV区遺構配置図(縮尺1/300)



IV区



I 区東壁

II 区東壁

浜田区横土層名

- 4a. 灰白色シルト質堆積砂 (SV7/2, Fe を含む)
 - 4b. 灰白色シルト質堆積砂 (2.5V6/2)
 - 5a. 灰白色シルト質堆積砂 (7.5V7/2, Fe を含む)
 - 5b. 灰白色シルト質堆積砂 (10YR5/1)
 - 6. 灰白色シルト質堆積砂 (10YR4/1)
- 小谷野交土層名
- I 灰白色シルト質堆積砂 (7.5YR6/2, Fe を含む)
 - II 灰白色シルト質堆積砂 (7.5YR5/2)
 - III 白灰色細一中粒砂 (5YR/1)
 - IV 細灰黄色シルト質堆積砂 (2.5Y4/2, 礫砂を含む)
 - V 細砂一中砂 (礫砂を含む)

SDO3土層名

- 1. 褐色シルト質堆積砂 (7.5YR5/1, Fe を含む)
- 2. 褐色シルト質堆積砂 (10YR4/1, Fe を含む)
- 2'. 褐色シルト質堆積砂 (10YR4/1, 明褐色粘土を含む)
- 3. 細砂一中砂
- 4. 灰黄色シルト質堆積砂 (7.5YR5/1)
- 5. 灰黄色シルト質堆積砂 (10YR2/2, 礫りがない)
- 6. 灰白色細砂一中粒砂 (7.5Y7/2)
- 7. 灰白色細砂一中粒砂 (7.5Y7/2)
- 8. オリーブ黄色シルト質堆積砂 (7.5Y7/2, 礫りがなく細砂を含む)
- 9. オリーブ黄色シルト質堆積砂 (7.5Y7/2, 礫りがなく細砂を含む)
- 10. オリーブ黄色シルト質堆積砂 (7.5Y7/2, 礫りがなく細砂を含む)
- 11. 灰黄色シルト質堆積砂 (2.5Y3/2)
- 12. 灰黄色シルト質堆積砂 (10Y6/1, Fe を含む)
- 13. 灰黄色シルト質堆積砂 (7.5Y6/2)
- 14. 灰黄色シルト質堆積砂 (10Y6/1, Fe を含む)
- 15. 灰オリーブ色シルト質堆積砂 (7.5Y6/2)

第8図 I・II区調査区東壁土層図 (縮尺縦1/30・横1/300)



IV区東壁

調査区地層土層名

- 446 灰白色シルト質砂礫層 (537/2, Fe & S₂O₃)
- 44 灰白色シルト質砂礫層 (2330/2)
- 44 灰白色シルト質砂礫層 (7337/2, Fe & S₂O₃)
- ① 灰白色シルト質砂礫層 (10785/1)
- ② 灰白色シルト質砂礫層 (10785/1)

小谷層名土層名

- IV 灰白色シルト質砂礫層 (7537/2, Fe & S₂O₃)
- IV 白砂層—中礫層 (538/1)
- IV 灰白色シルト質砂礫層 (532/1)
- IV 灰白色層 (538/1)

SD03土層名

- 2 細灰色シルト質砂礫層 (10785/1, Fe & S₂O₃)

SN07土層名

- 黒褐色シルト質砂礫層 (10785/1, 粉砂質)

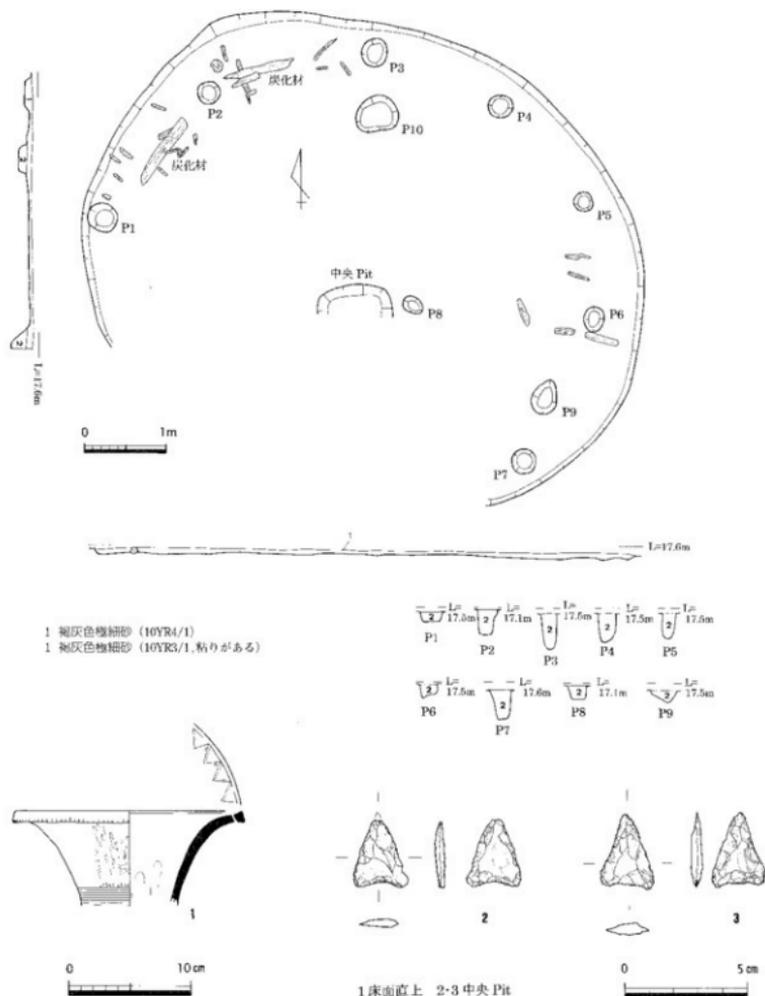
SD18土層名

- 17 明褐色砂礫—粗礫 (5797/1)

第9図 II・IV区調査区東壁土層図 (縮尺縦1/30・横1/300)

第3節 弥生時代前期末～中期前葉の遺構と遺物

弥生時代前期末～中期初頭の環濠と想定される溝1条・柱穴1基・土坑1基，中期前葉の竖穴住居1棟をⅢ・Ⅳ区で検出した。Ⅰ・Ⅱ区ではこの時期の遺構を検出していないことから，南微高地のみに集落が存在していたと考えられる。



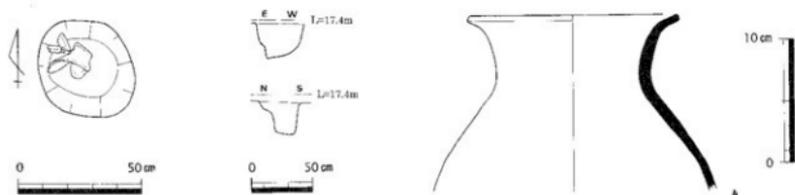
第10図 SH10平面・断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4, 1/2)

SH10 (第10図)

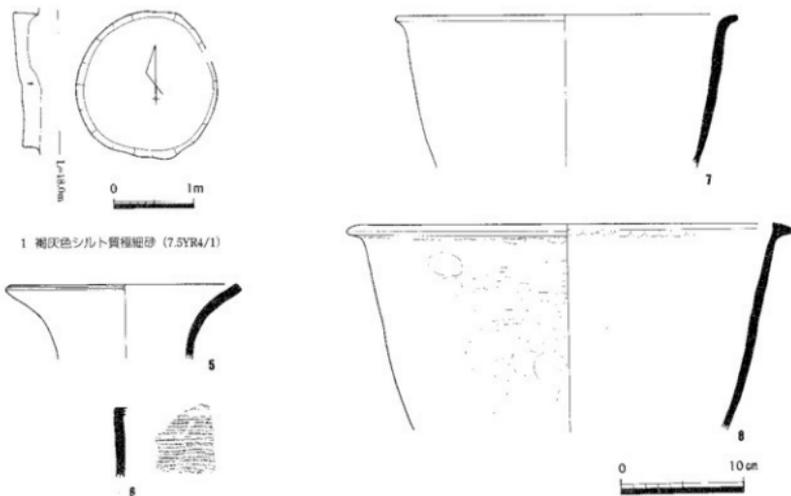
IV区北端で検出した直径約7mを測る円形の竪穴住居である。深さは、後世の削平によるためか約10cmしか残っていなかった。また、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属する竪穴住居SH09によって南西部分約1/4が壊されている。中央に方形の中央ピット(心柱穴)、壁寄りに現存10基の柱穴をめぐらしている。中央ピット付近より石鏃未製品(2, 3)と多量の剥片(チップ)が出土したことから、住居内で石器製作を行っていたと考えられる。さらに、炭化材が壁沿いに散乱しており、いわゆる焼失家屋と呼ばれるものだが、出土土器は図化できるもの1点と少なく、住居が廃棄された後に焼失したと考えられる。出土した弥生土器壺(1)から、弥生時代中期前葉の時期が考えられる。

IV区SP22 (第11図)

IV区中央で検出した円形のピット(柱穴)である。直径40～45cm、深さ約30cmを測る。壁寄りに比較的大きな破片である弥生土器壺(4)が出土しており、弥生時代前期末と考えられる。



第11図 IV区SP22平面・断面図(縮尺1/20,1/40) 出土遺物実測図(縮尺1/4)



第12図 SK25平面・断面図(縮尺1/60) 出土遺物実測図(縮尺1/4)

SK25 (第12図)

Ⅳ区中央で検出した直径約1 m 80cmを測る円形の土坑である。弥生時代後期末～古墳時代前期初頭と考えられる竪穴住居SH15によって上部が削られており、深さ約20cmしか残存していない。弥生土器壺(5)・甕(6～8)が出土しており、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

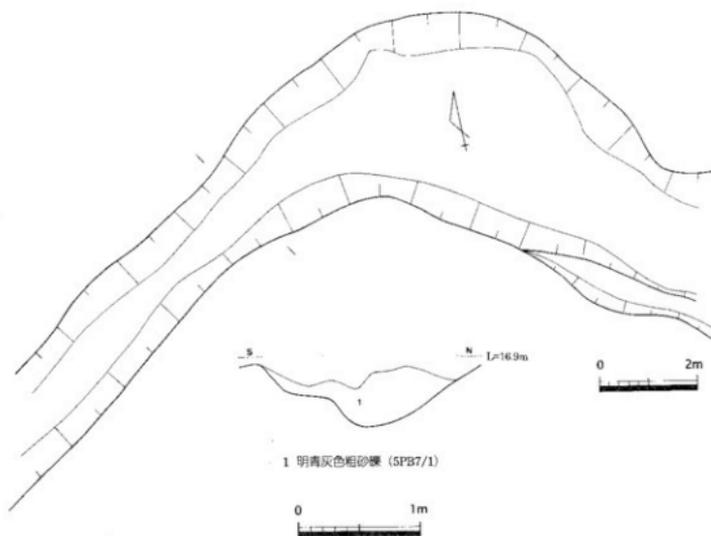
なお、SH15からも同じ時期の土器・石器が出土しており、SH15を掘削する際にSK25上部を壊していることから、これらの土器・石器は本来SK25に帰属するものと考えられる。

SD18 (第13・14図)

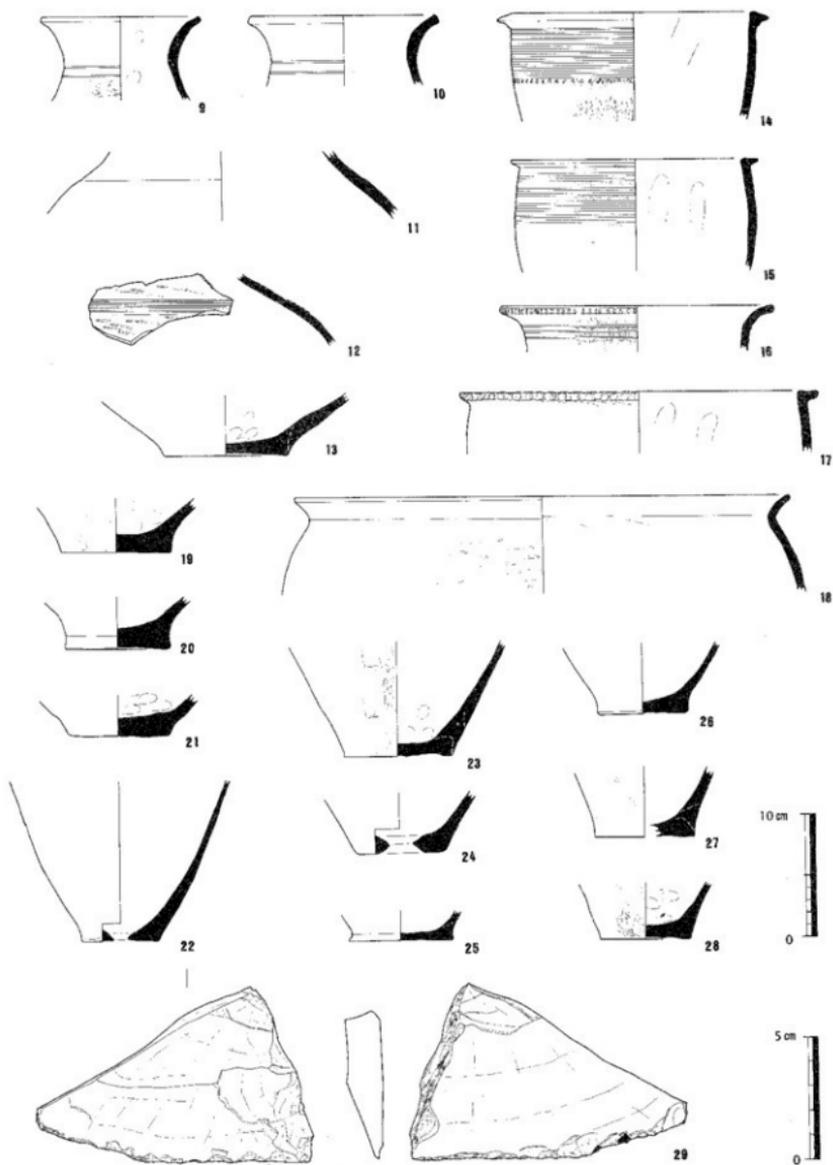
Ⅲ区北部、地形で言えば小谷底で検出した溝である。幅3～4 m、深さ約50cmを測る。溝西半分は、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属するSD03と重複しており、SD03により上部を削られている。埋土は粗砂礫層のみが厚く堆積していることから、おそらく洪水により一気に溝が埋没してしまったものと考えられる。埋土から弥生土器壺(9～13)・甕(14～17)・鉢(18)や石器(29)が出土しており、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

また、検出した範囲では南微高地北辺に沿って弓なりに曲がった平面形態を示している。弥生時代前期末～中期初頭の時期が考えられること、南微高地に同時期の遺構が確認できることを考慮すると、南微高地上にあった集落を取り囲んでいた環濠の可能性が指摘できる。ただし、微高地南辺では環濠は検出しておらず、微高地の南側は規模の大きい旧河道となっている。この旧河道を環濠の代わりに利用したため、微高地南辺つまり集落南端には環濠を掘削しなかったとも考えられる。

最後に、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭のSD03埋土中からも弥生時代前期末～中期初頭の土器片が少数ながら出土している。これは、SD03を掘削する際にSD18上部を壊していることから、本来これらの土器はSD18に帰属するものであったか、調査区外のSD18周辺にあった同時期の遺構に帰属すべきものと考えられる。



第13図 SD18平面・断面図 (縮尺1/100, 1/40)



第14图 SD18出土器物实测图(缩尺1/4,1/2)

第4節 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺構と遺物

弥生時代後期末～古墳時代前期初頭と考えられる堅穴住居14棟・井戸1基・溝8条・土器墓3基を調査区全域で検出した。このうちSD03・04以外の遺構は微高地上に立地し集落を構成しているが、SD03・04のみが小谷底に沿って掘削されており他の遺構と性格を異にすることから、SD03・04は最後に報告する。また、微高地は南北2つに分かれるが、南北微高地にある当該期の遺構から出土する遺物に時期差はなく、微高地間の小谷も幅が狭いことから、南北それぞれ別集落であっても同一集団である可能性が高いことから、ここでは一括して報告するものである。

SH01 (第15図)

I区北端で検出した直径3.5～4.0mを測る円形の堅穴住居である。中央部を試掘トレンチにより南北に削られ、北端は調査区外に及ぶ。深さは、後世の削平によるためか約10cmしか残っていない。中央に楕円形の炉を設け、炉の南に中央ビット(心柱穴)、炉の東西に3基の柱穴を配置している。埋土は2層を確認している。出土遺物はないが、他の堅穴住居との比較検討、特にSH05と同じ規模で類似することから、同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH02 (第16図)

II区北部で検出した南北2.8m、東西2.8m以上を測る方形の堅穴住居である。西端を試掘トレンチにより壊されている。削平が著しく、周溝と柱穴の底しか残っていないが、柱穴(P1～P3)は東西南北の十字に配列されていたと想定される。炉は、壊された西側に設けられていたか削平されたと考えられる。出土遺物はないが、他の堅穴住居との比較検討、特にSH04・11・14と同じ規模で類似することから、同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

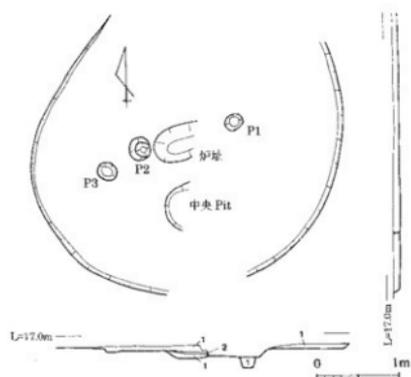
SH03 (第17・18図)

II区中央で検出した南北4.8m、東西4.8mを測る隅丸方形の堅穴住居で、深さ約50cmを測る。北西隅に1×1.7mの落ち込みを付設している。内部構造は、西方向を除く三方にベッド状遺構(約10cmの段差)がめぐり、中央に方形の中央ビット(心柱穴)、中央ビット南側に不整楕円形の炉を設け、中央ビットより斜め四方に4基の柱穴(P1～P4)を配列している。さらに、ベッド状遺構を除去したところ、柱穴を3基(P5～P7)と周溝を検出したことから、少なくともSH03は1回の建替えを行い、その際にベッド状遺構を新設したと考えられる。なお、第1段階はP5～P7の柱穴3基しかないが、北西隅は柱穴P1を2時期にわたって使用したのかもしれない。埋土は8層確認している。このうち、第1～4層は堅穴住居が廃絶後埋没していく過程で堆積した土層で、第5層はベッド状遺構を構成している土層、第8層は掘削した堅穴底を平坦にするための貼床、第6層は柱穴の埋没土、第7層は灰の炭層である。

また、床面には炭化材が散乱していただけでなく、柱穴P4は炭化した柱材を立った状態を検出しており、さらに柱穴P4から折れた柱材が南に倒れた状態にあった。いわゆる焼失家屋である。出土遺物は図化できたものが17点と比較的多いが、完形品がないことから住居廃絶後に焼失したと考えられる。遺物は、第1～3層にあたる埋土上部(30～33)、第4層にあたる埋土下部(34～42)、第8層直上である床面直上(43～46、ただし44は第5層中)から出土している。埋土下部の出土遺物はおおむね下川津V式に、床面直上の出土遺物は下川津IV～V式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。ただし、石剣(40)は弥生時代前期のものであることから混入品である。

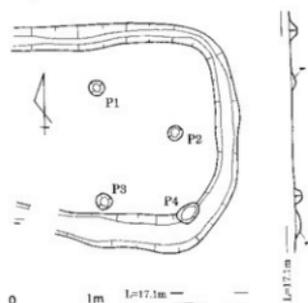
SH04 (第19図)

II区中央で検出した南北3.8m、東西3.1mを測る方形の堅穴住居である。側壁に沿って周溝がめぐり、不整楕円形の炉を南西隅に設けている。柱穴は、北西隅と南東隅に2基ずつ計4基(P1～P4)配列している。埋土は3層確認しており、第1層は住居廃絶後の埋没土、第2層は柱穴の埋没土、第3層は炉の炭層である。埋土第1層から出土した弥生土器(47)・高杯(48・49)はおおむね下川津V式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。また、SH04は水路であるSD03に隣接しているだけでなく、井戸SE01にも隣接するという特異な立地条件をもっている。



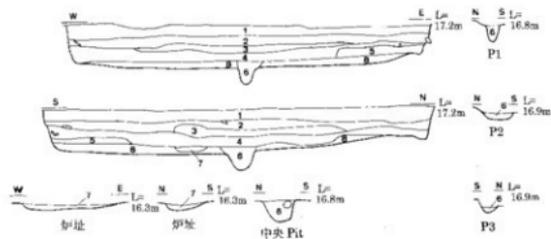
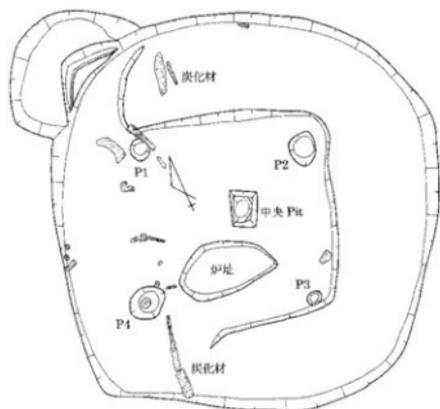
- 1 褐色シルト質礫層砂 (10YR4/1, 系色砂質土をブロック状に含む)
- 2 黒色炭層 (10YR1.7/)

第15図 SHO1平面・断面図 (縮尺1/60)



- 1 褐色シルト質礫層砂 (10YR4/1)

第16図 SHO2平面・断面図 (縮尺1/60)

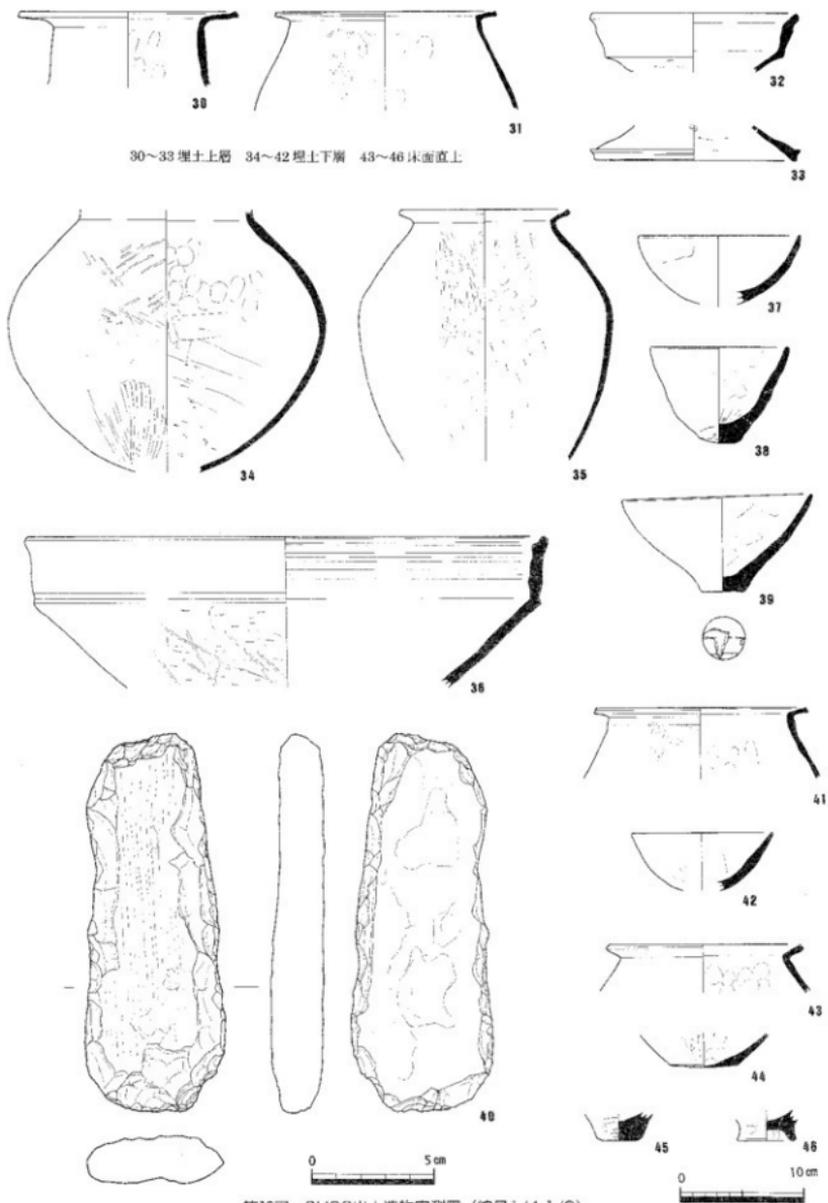


第17図 SHO3平面・断面図 (縮尺1/60)



ベッド状遺構除去後の検出遺構

- 1 褐色シルト質礫層砂 (10YR5/1, Feを含む)
- 2 褐色シルト質礫層砂 (10YR4/1, Feを含む, 浅黄色砂質土をブロック状に含む)
- 3 青灰色シルト質礫層砂 (5F8/1, 浅黄色砂質土をブロック状に多く含む)
- 4 暗青灰色シルト質礫層砂 (5F8/4/1, 浅黄色砂質土をブロック状に含む)
- 5 浅黄色シルト質礫層砂 (5YR/1, 粘りがある)
- 6 オリーブ黒色シルト質礫層砂 (5Y3/1)
- 7 黒褐色シルト質礫層砂 (10YR2/2, 皮を含む)
- 8 明褐色シルト質礫層砂 (5P7/1, 小石・礫の層を多く含む, 黒色土をブロック状に含む)



第18圖 SH03出土遺物実測図 (縮尺1/4, 1/2)

SH05 (第20図)

Ⅱ区南部で検出した直径4.1mを測る円形の竪穴住居で、約20cmの深さが残る。南西1/4を後世の擾乱により壊されている。平面方形の中央ピット(心柱穴)を中心に、柱穴が斜め十字方向に2基ずつ並んでいたと考えられる(P1~4, P6・7)。壊されていた南西1/4部分に、炉と南西方向に並ぶ柱穴2基があったと想定される。周溝が南端で途切れており、南向きに入口があった可能性もある。埋土は4層確認しており、第1層は住居廃絶後の埋没土、第2~4層は柱穴の埋没土である。床面直上から弥生土器小型鉢(50, 51)、埋土第1層から出土した弥生土器壺(52)・壺(55)・底部(53・54)はおおむね下川津Ⅳ式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH06 (第21図)

Ⅱ区南部で検出した南北4.1m以上、東西4.3m以上を測る隅丸方形の竪穴住居である。南端をSD12・13によって、西端を試掘トレンチによって壊されている。深さは、後世の削平によるためか約10cmしか残っていない。平面方形の中央ピット(心柱穴)の南側に楕円形の炉を設け、側壁に沿って柱穴を5基(P1~5)配置している。また、平面では確認できなかったが、断面で周溝がめぐっていることも確認した。埋土は8層確認しており、第1・2層は住居廃絶後の埋没土、第3層は掘削した竪穴底を平坦にするための貼床、第4・5・7・8層は柱穴の埋没土、第6層は炉の炭層である。埋土第1層から出土した弥生土器壺(56・57・59)・小型鉢(58)・底部(60)はおおむね下川津Ⅴ式に相当し、中央ピットから出土した弥生土器底部(61)は下川津Ⅲ~Ⅳ式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。また、炉から珍しい土製勾玉(62)が出土している。

SH07 (第22図)

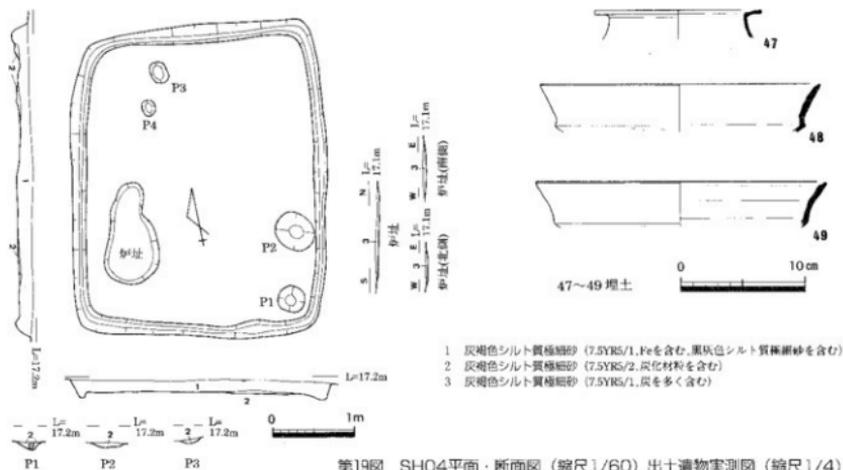
Ⅲ区中央で検出した南北4.3m以上、東西4.1m以上を測る竪穴住居である。調査時、微高地縁辺に堆積していた③a層上面で遺構検出を行い、円形もしくは隅丸方形の竪穴住居があると認識したが、試掘トレンチを設定するも竪穴住居埋土と③a層の違いが把握できず、③a層除去後に炉・中央ピット(心柱穴)・柱穴のみを検出した。平面方形の中央ピット(心柱穴)の南側に楕円形の炉を設け、柱穴を8基(P1~8)おそらく側壁に沿って配置している。柱穴のうち、屋根を支える支柱用として使用されたのは、P1・2・4・7・8の5基と想定される。炉と柱穴の埋土は3層確認しており、第1層が柱穴、第2層が炉の炭層、第3層が炉の埋土である。中央ピットから出土した弥生土器小型鉢(63)・小型鉢(64)、床面直上から出土した弥生土器壺(65)・壺(66)はおおむね下川津Ⅴ式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH08 (第23図)

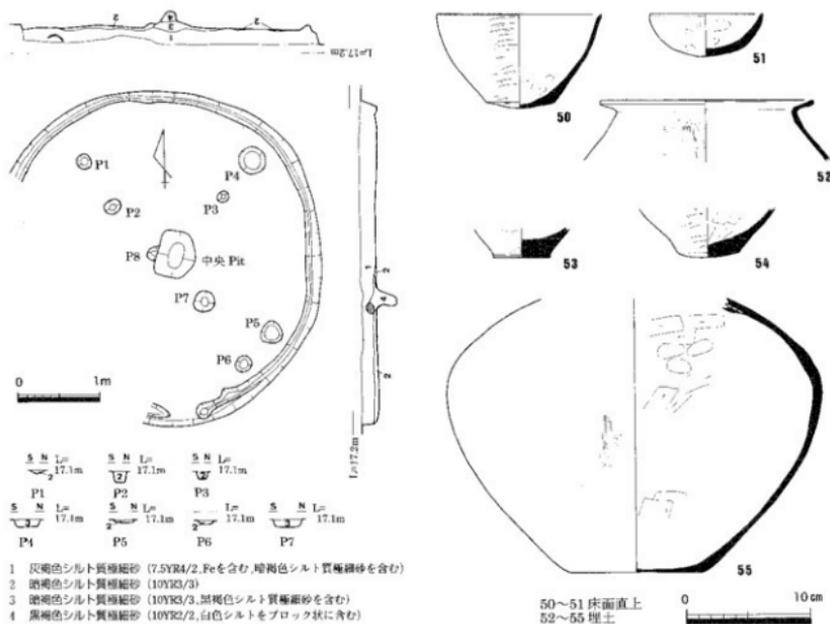
Ⅲ区南部で検出した南北3.6m以上、東西4.0m以上を測る竪穴住居である。調査時、SH07同様に円形もしくは隅丸方形の竪穴住居があると認識したが、結果的には中央ピット(心柱穴)・柱穴のみを検出した。平面方形の中央ピット(心柱穴)を中心に、柱穴を5基(P1~5)おそらく側壁に沿って配置している。出土遺物はないが、他の竪穴住居との比較検討、特にSH06・07と同じ規模で柱穴の配置等が類似することから、同じ弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH09 (第24図)

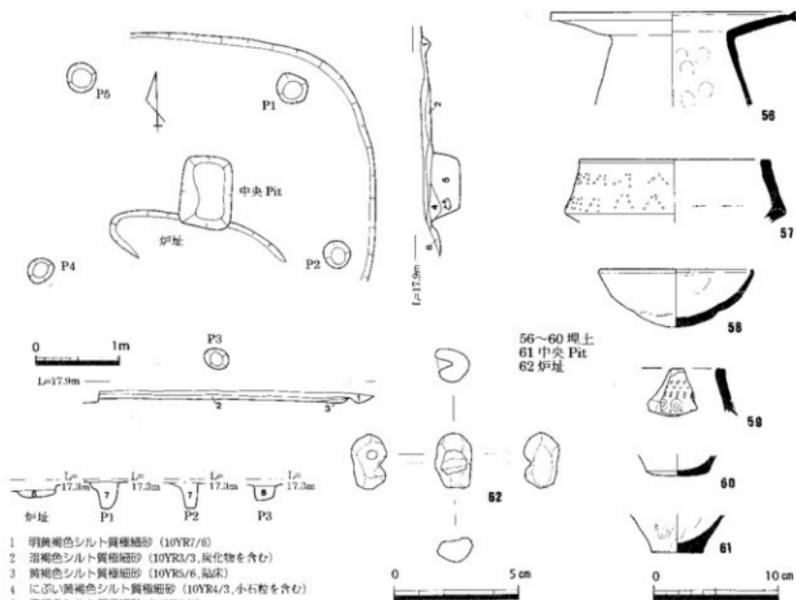
Ⅳ区北部で検出した南北4.7m、東西4.7mを測る方形の竪穴住居で、深さ約30cmを測る。南西隅の一部を試掘トレンチによって壊されている。内部構造は、南を除く三方に地山削り出しによるベッド状遺構(約15cmの段差)を設け、周溝を側壁に沿ってほぼ一周めぐらしている。さらに、ベッド状遺構の内側にも南から東にかけて約5cmの段差が設けられている。一方、ベッド状遺構に沿って柱穴(P1~P4)を配列しているが、規模が大きい割に中央ピット(心柱穴)が認められず、炉も壊された南西部分に存在したのか確認できなかった。埋土は8層確認しており、第1~5層は住居廃絶後の埋没土、第6層は柱穴P3の柱材が土壌化したもの、第7・8層は柱穴の埋没土である。ただし、柱穴P3の第2層は柱を立てた時の埋土と考えられる。遺物は、第1~5層の埋土から出土した弥生土器壺(67)、ベッド状遺構南端直上から出土した弥生土器小型丸底甕(68)・小型鉢(69)はおおむね下川津Ⅴ式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



第19図 SH04平面・断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)

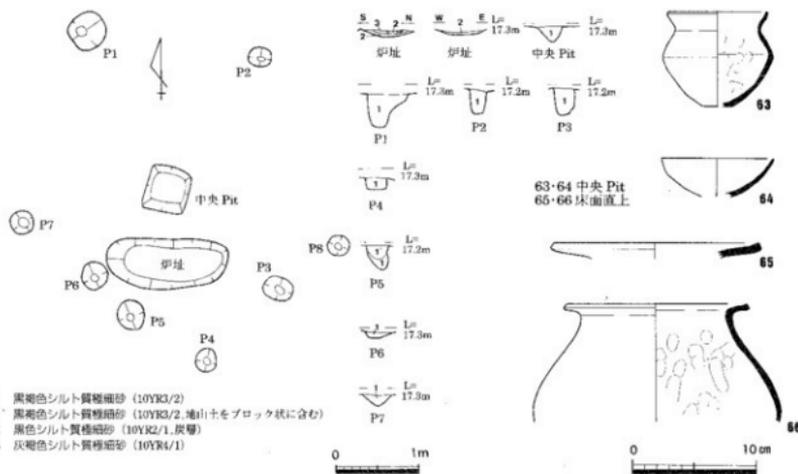


第20図 SH05平面・断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)



- 1 明黄褐色シルト質礫細砂 (10YR7/6)
- 2 沼褐色シルト質礫細砂 (10YR3/3, 炭化物を含む)
- 3 黄褐色シルト質礫細砂 (10YR5/6, 炭灰)
- 4 に少し黄褐色シルト質礫細砂 (10YR4/3, 小石粒を含む)
- 5 黒褐色シルト質礫細砂 (10YR3/1)
- 6 黒色シルト質礫細砂 (10YR2/2, 炭層)
- 7 黒褐色シルト質礫細砂 (10YR3/2)
- 8 褐灰色シルト質礫細砂 (7.5YR4/1)

第21図 SHO6平面・断面図 (縮尺1/60)
出土遺物実測図 (縮尺1/4, 1/2)

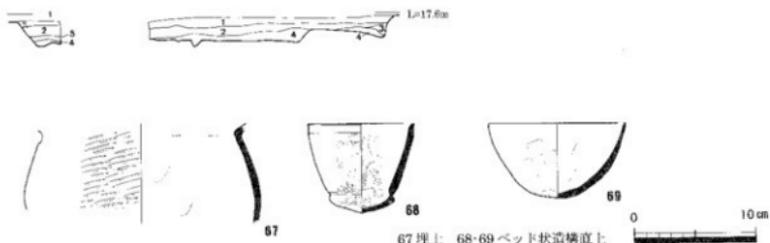
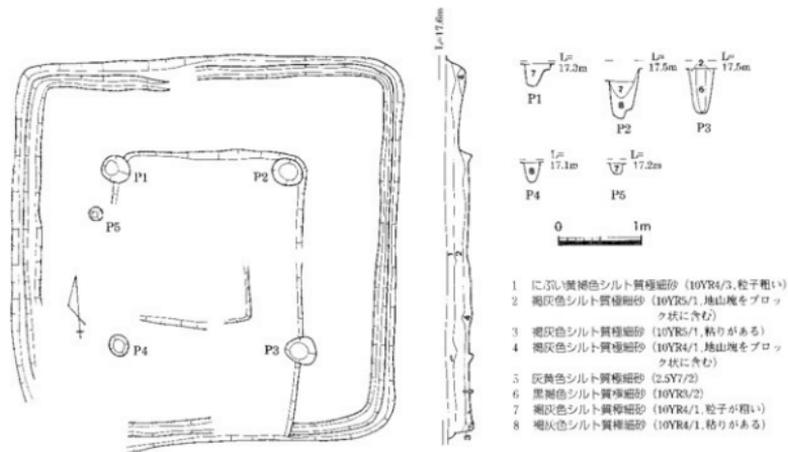


- 1 黒褐色シルト質礫細砂 (10YR3/2)
- 1' 黒褐色シルト質礫細砂 (10YR3/2, 地山土をブロック状に含む)
- 2 黒色シルト質礫細砂 (10YR2/1, 炭層)
- 3 灰褐色シルト質礫細砂 (10YR4/1)

第22図 SHO7平面・断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)



第23図 SH08平面・断面図 (縮尺1/60)



第24図 SH09平面・断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)

SH11 (第25図)

Ⅳ区中央で検出した南北3.1m、東西3.9mを測る方形の竪穴住居で、深さ約50cmを測る。埋土の一部を試掘トレンチにより壊されている。中央より南に炉を設け、南から東にかけ壁に沿って周溝をL字形にめぐらしている。柱穴は全部で4基(P1~4)あるが、南部分に偏っている。埋土は4層確認しており、第1・2層は住居廃絶後および柱穴の埋没土、第3層は周溝および柱穴の埋没土で、第4層は掘削した竪穴底を平坦にするための貼床である。出土遺物には弥生土器小片がある。他の竪穴住居との比較検討、特にSH04・14と同じ規模で類似することから、同じ弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH12 (第26図)

Ⅳ区中央で検出した南北4.3m、東西4.9mを測る方形の竪穴住居で、深さ約40cmを測る。南西部分でSH11によって壊されている。北端中央に約30×70cmの出っ張りをもつ。内部構造は、平面方形の中央ピット(心柱穴)の南側に長方形の炉を設け、中央ピットより斜め四方に柱穴を4基(P1~4)配置している。中央ピットは、SH03同様に上部が平面方形を呈し、下部では円形を呈する。また、周溝を隔壁に沿って一周めぐらしていると想定される。さらに、南東部分にはL字形に約10cmの段差を設けている。埋土は5層確認しており、第1・2層は住居廃絶後の埋没土、第3層は周溝の埋没土、第4層は貼床の可能性があり、第5層は柱穴の埋没土である。遺物は、南東隅の床面直上からほぼ完形の弥生土器甕(70)、第1~2層の埋土から出土した弥生土器甕(71)・高杯(72・73)はおおむね下川津V式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH13 (第27図)

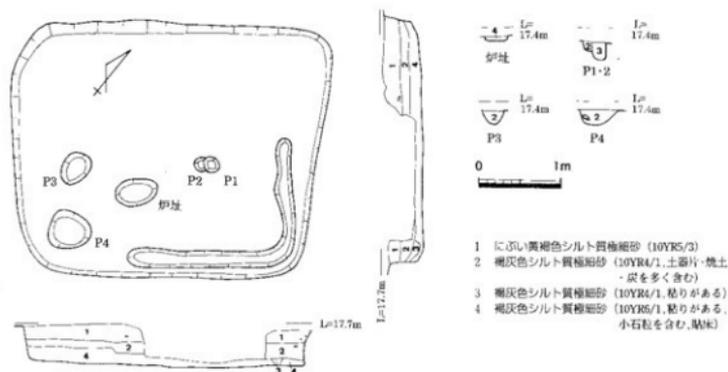
Ⅳ区中央の西壁沿いで検出した南北3.6m以上、東西0.8m以上を測る隅丸方形の竪穴住居で、深さ約65cmを測る。遺構の大部分が調査区外に及ぶため、内部構造は明らかにできなかった。埋土は5層確認している。出土遺物には弥生土器小片がある。他の竪穴住居と比較検討、特に隅丸方形を呈することから、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH14 (第28図)

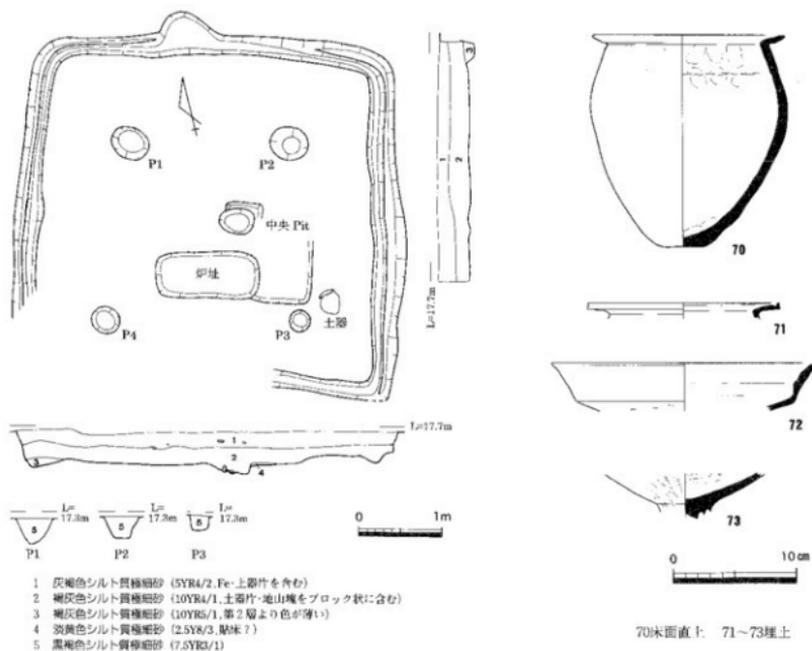
Ⅳ区中央で検出した南北3.0m、東西3.4mを測る方形の竪穴住居で、深さ約30cmを測る。南西部分でSD21と重複しているが、前後関係は不明。中央より南に炉を設け、柱穴を北東・南東・南西の三方に3基(P1~3)配列している。さらに、北東部分には南北1.4m、東西1.0mを測るベッド状遺構(約10cmの段差)を地山削り出しにより設けている。特筆すべきは、このベッド状遺構の西辺に炭化した間仕切り板が残っていたことである。さらに、床面に炭化材が散乱していたことから、いわゆる焼失家屋と考えられる。ただし、完形の土器がないことから、住居廃絶後に焼失したものと考えられる。埋土は7層確認しており、第1・2層は住居焼失後の埋没土、第3層は焼土層、第4層は間仕切り板を立てるために充填した粘土、第5層は炉の炭層、第6・7層は柱穴の埋没土である。第1~3層から出土した弥生土器鉢(74)・甕底部(75・76)はおおむね下川津V式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SH15 (第29図)

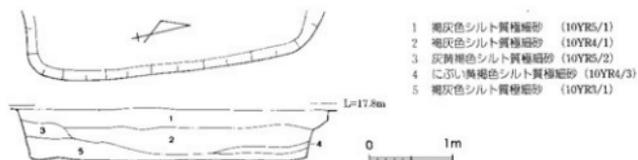
Ⅳ区中央で検出した南北1.5m以上、東西2.5m以上を測る方形の竪穴住居で、深さ約10cmを測る。遺構検出作業では平面方形の竪穴住居として認識できたが、後世の削平が著しく断面観察により埋土の一部と炉のみしか検出できなかった。埋土は3層確認しており、第1層は住居廃絶後の埋没土、第2層は炉の炭層、第3層は炉を成形するための充填土と考えられる。第1層から弥生土器甕(77~79)、第2・3層から扁平片刃石斧(80)が出土しており、これら遺物は弥生時代中期初頭に属するものである。ただし、中期初頭において平面方形の竪穴住居が存在しないこと、14頁で報告したとおりSH15がSK25の上部を削っており弥生時代前期末~中期初頭に属するSK25の遺物を混入している可能性が高いことを考慮すると、SH15の帰属する時代は周辺に密集している弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の竪穴住居と同じ時期と考えられる。



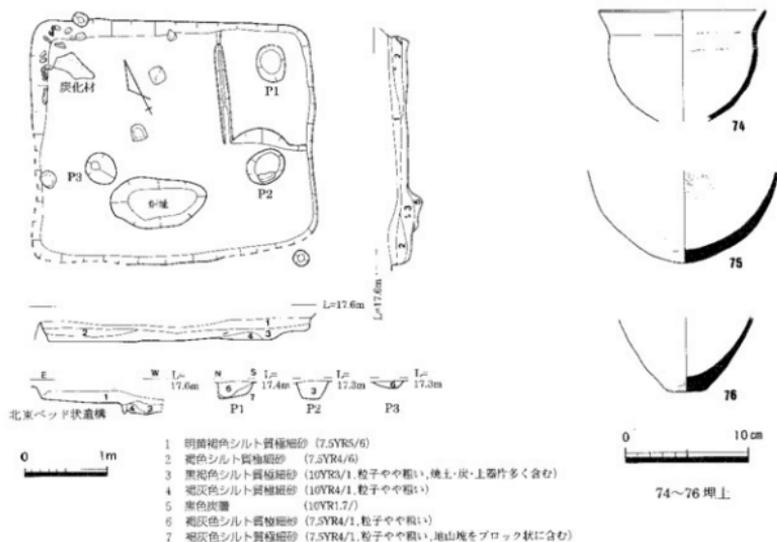
第25図 SH11平面・断面図 (縮尺1/60)



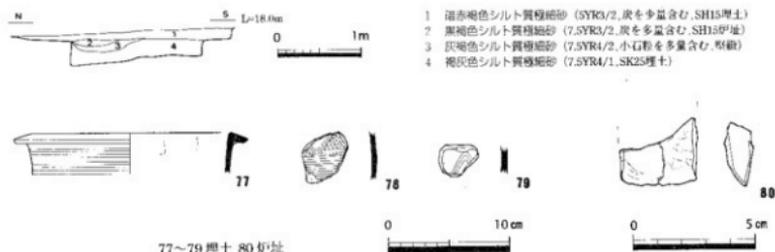
第26図 SH12平面・断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)



第27図 SH13平面・断面図 (縮尺1/60)



第28図 SH14平面・断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)



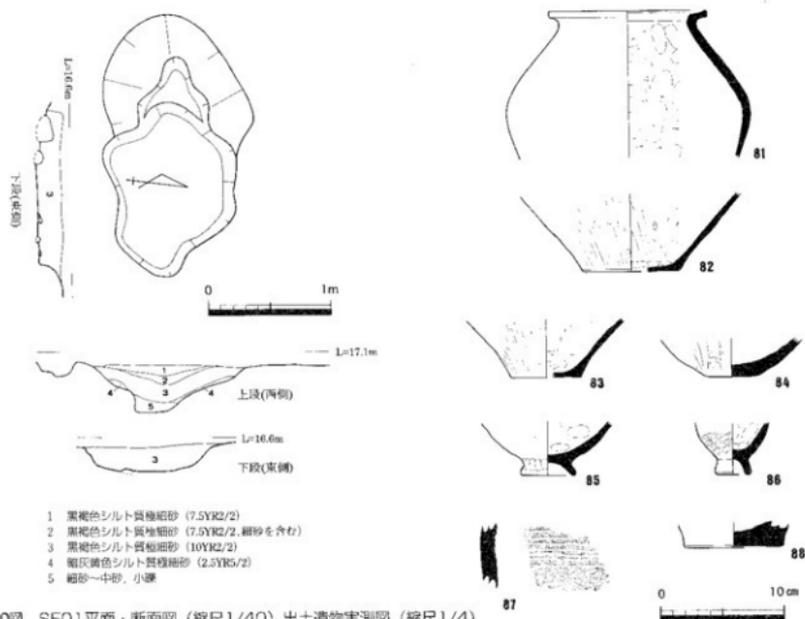
第29図 SH15断面図 (縮尺1/60) 出土遺物実測図 (縮尺1/4.1/2)

SE01 (第30図)

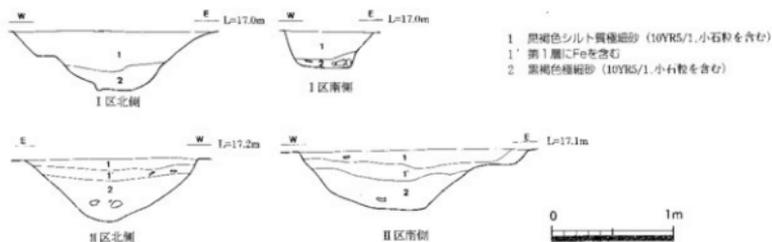
Ⅱ区中央、水路S D03西肩で検出した南北1.2m、東西2.2mを測る素掘りの井戸状遺構である。二重構造となっており、南北1.2m、東西1.1m、深さ約50cmを測る窪みを上段とし、さらに約10cm下に南北1.1m、東西1.4m、深さ約20cmを測る不整形の井戸底がある。井戸底はS D03の底をさらに掘り窪めている。しかしながら、井戸とするには形態が適さなく、深度も浅い。水路であるS D03の肩に設けられていること、堅穴住居S H04がすぐ西に隣接することを考慮すれば、S H04の使用者がS D03より水を容易に汲み上げるために設けたもので、緩やかな傾斜をもつ上段より降り、井戸底はS D03を流れる水を溜め汲み易くしている水汲み施設の可能性がある。埋土は5層確認しているが、S D03と似た土層をもち、S D03と同時に機能を失い埋没していったと考えられる。第5層から弥生土器が出土しているが、中期前葉、後期前葉、後期中葉～古墳時代前期初頭と複数の時期に属する遺物が混在している状況もS D03と共通しており、S D03と同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

S D01 (第6・31～35頁)

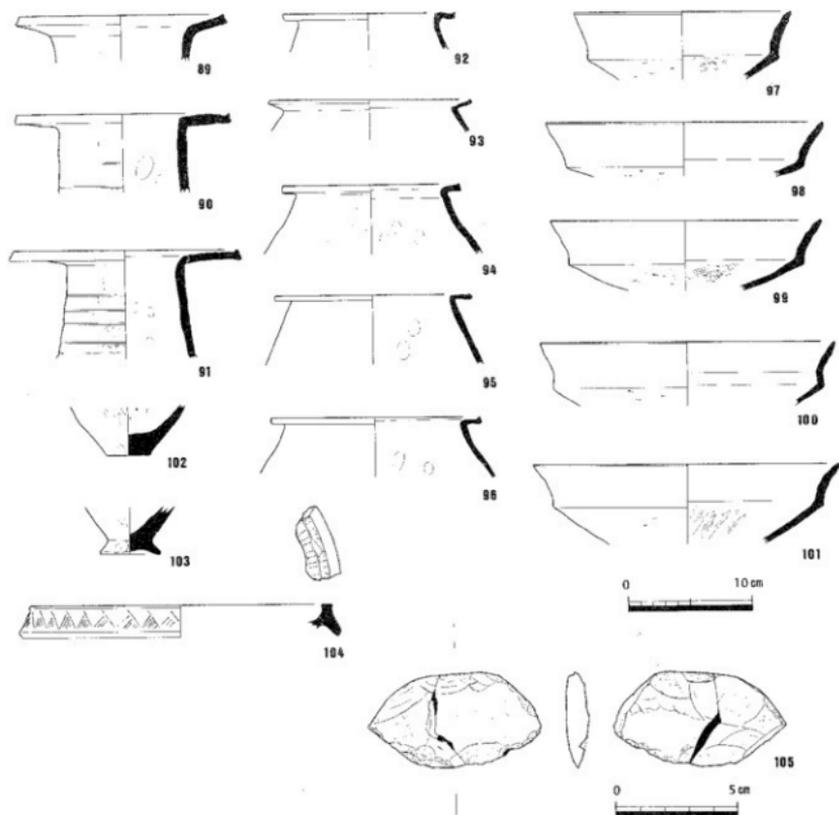
Ⅰ・Ⅱ区で検出した幅約0.7～1.8m、深さ約50cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約64mを測る。Ⅱ区中央西端より調査区内に入り、わずかに蛇行しながら北北東方向に調査区を縦断し、Ⅰ区北端で調査区外に出る。Ⅱ区とⅠ区での溝底の比高差は約20cmであり、緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく2層に分かれ、下層である第2層が細砂であることから、水路として機能していたことが伺える。上層である第1層はシルト質極細砂であり、溝が機能しなくなってから埋没した土層である。この第1層から弥生土器がまとめて出土していることから、機能を失った水路に一括廃棄されたものと考えられる。出土した弥生土器はおおむね下川津V式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。このS D01に隣接して、同時期の堅穴住居が存在することから、集落の排水用に掘削された水路と考えられる。



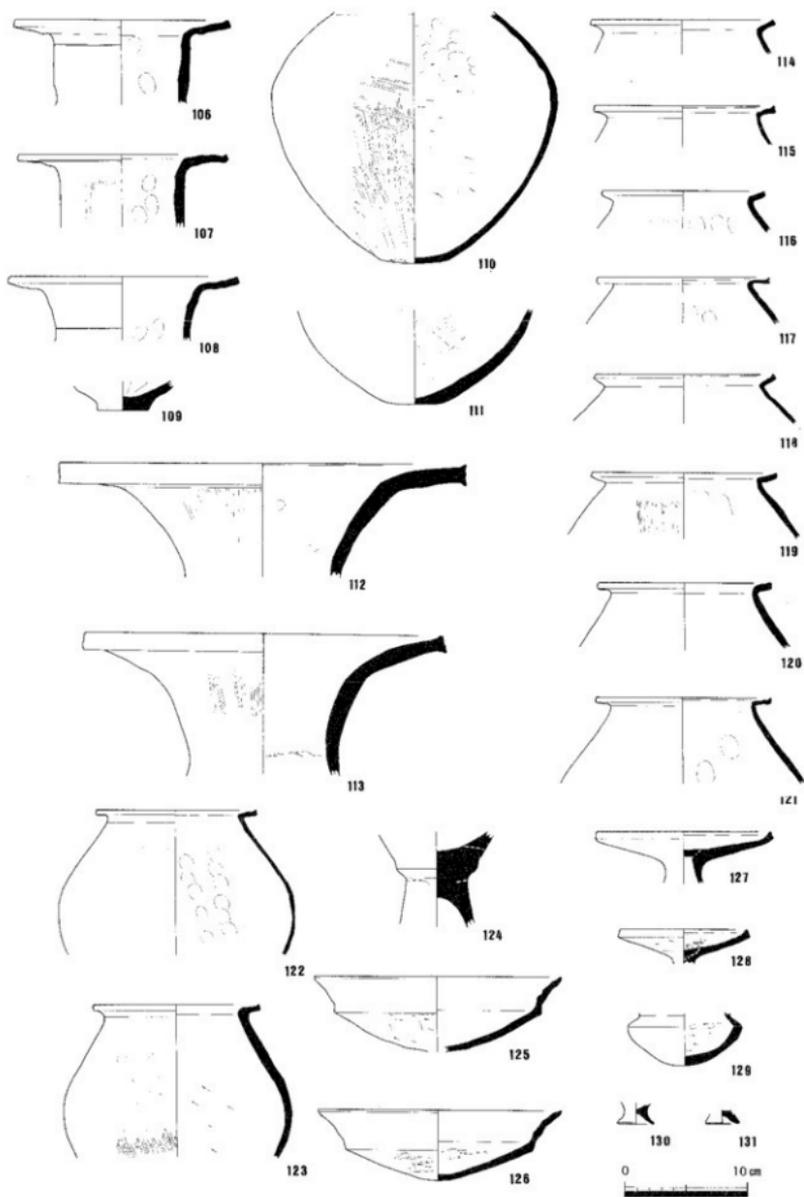
第30図 SE01平面・断面図(縮尺1/40) 出土遺物実測図(縮尺1/4)



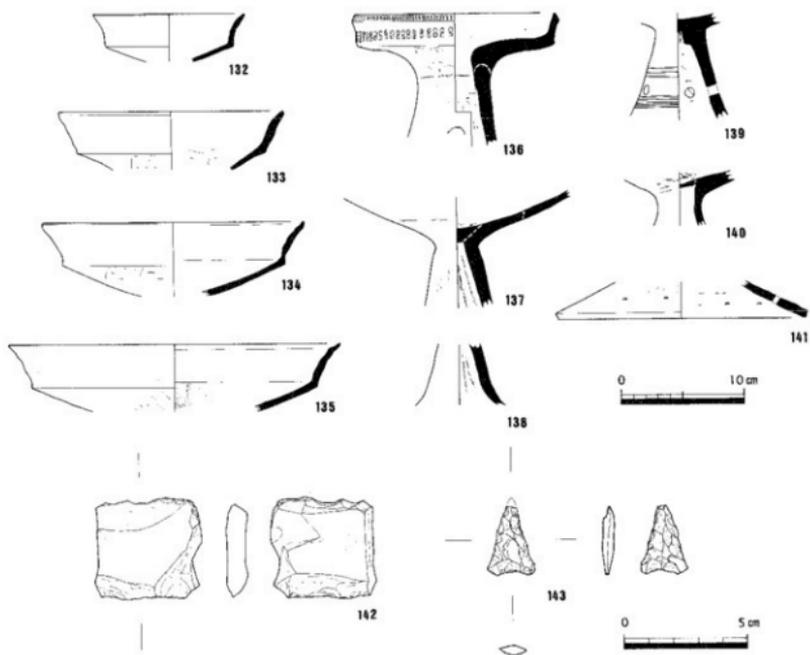
第31図 SDO1断面図 (縮尺1/40)



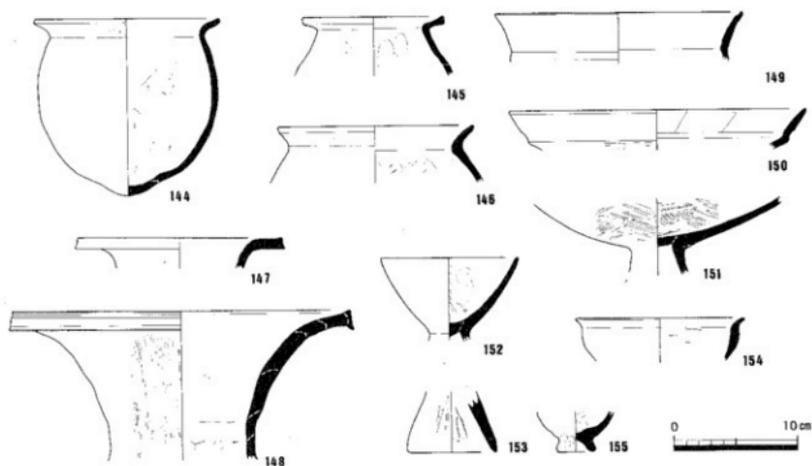
第32図 SDO1下層出土遺物実測図 (縮尺1/4, 1/2)



第33図 SD01上層出土遺物実測図① (縮尺1/4)



第34图 SD01上層出土遺物実測図② (縮尺1/4.1/2)



第35图 SD01上・下層出土遺物実測図 (縮尺1/4)

SD02 (第6・36図)

I区東部で検出した幅0.8m、深さ約20cmを測る断面台形の溝で、平面形態は「く」の字形を呈し、北側の長さ約2.6m、南側の長さ約3.2mを測る。溝として分類したが、土坑または不明遺構として分類すべきものかもしれない。埋土は2層に分かれる。埋土から出土した弥生土器蓋(156)・高杯(157・158)はおおむね下川津Ⅳ式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

SD06 (第7・37図)

Ⅲ区で検出した幅約0.7～1m、深さ約60cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約22mを測る。Ⅲ区南部西端より調査区内に入り、わずかに蛇行しながら北北東方向に調査区を縦断し、Ⅲ区北部で微高地が終わり小谷になる地点で消滅している。南端と北端での溝底の比高差は約10cmと緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく2層に分かれ、下層である第3層が礫を多く含む極細砂であることから、水路として機能していたことが伺える。上層である第1・2層はシルト質極細砂であり、溝が機能しなくなってから埋没した土層である。上層から弥生土器がまとめて出土していることから、機能を失った水路に一括廃棄されたものと考えられる。出土した弥生土器はおおむね下川津Ⅳ式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。並行して存在するSD07同様、集落から小谷に向けて水路があることから、集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路と考えられる。なお、このSD06はSD14・25と交差しており、SD14・25はSD06を壊して掘削されているが、同じく交差するSD09との前後関係は明らかにできなかった。

SD07 (第7・38～43図)

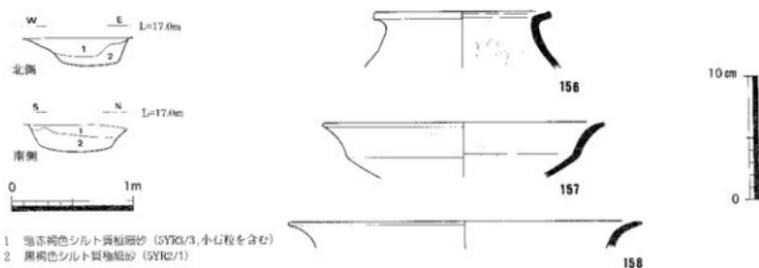
Ⅲ区で検出した幅約0.5～1m、深さ約50cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約30mを測る。Ⅲ区南端西側より調査区内に入り、わずかに蛇行しながら北北東方向に調査区を縦断し、Ⅲ区北部で微高地が終わり小谷になる地点で消滅している。南端と北端での溝底の比高差は約30cmとやや緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく2層に分かれ、下層である第3層が極細砂であることから、水路として機能していたことが伺える。上層である第1・2層はシルト質極細砂であり、溝が機能しなくなってから埋没した土層である。上層から弥生土器がまとめて出土していることから、機能を失った水路に一括廃棄されたものと考えられる。出土した弥生土器は、下層がおおむね下川津Ⅳ～Ⅴ式、上層がおおむね下川津Ⅴ式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。このSD07に隣接して同時期の堅穴住居が存在することや、集落から小谷に向けて水路があることから、並行して存在するSD06同様、集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路と考えられる。なお、このSD07はSD12～14・25と交差しており、SD12～14・25はSD07を壊して掘削されている。

SD09 (第7・44図)

Ⅲ区で検出した幅約0.4m、深さ約20～30cmを測る断面U字または台形の溝で、調査区内で検出した長さは約26mを測る。Ⅲ区南端西側より調査区内に入り、蛇行しながら北方向に調査区を縦断し、Ⅲ区北部で微高地が終わり小谷になる地点でSD03と合流する。南端と北端での溝底の比高差は約20cmと緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく2層に分かれる。Ⅳ区で検出したSD21が延長上であり、同じ規模で埋土も類似することから、SD09とSD21は同一の溝である可能性が高い。埋土から弥生土器小片が出土しており、SD21と同一の溝の可能性あることから、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路の可能性もあるが、SD06・07と比べると小規模であり、SD21と同一の溝と想定した場合、集落を区画していた溝の可能性も考えられる。なお、このSD09はSD12・13と交差しており、SD12・13はSD09を壊して掘削されているが、同じく交差するSD06との前後関係は明らかにできなかった。

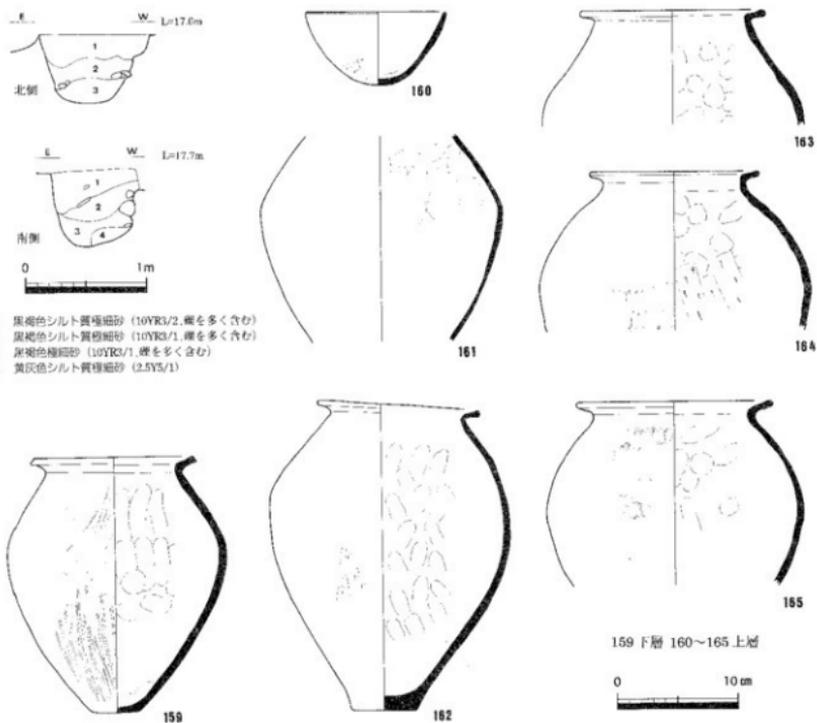
SD21 (第7・45・46図)

Ⅳ区で検出した幅約0.4～0.5m、深さ約15～55cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約40mを測る。Ⅳ区北部西端より調査区内に入り、緩やかに弧を描きながら南南東方向に調査区を縦断し、Ⅳ区南部で微高地が終わり旧河道になる地点で消滅している。北端と南端での溝底の比高差は約10cmと緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく2層に分かれる。Ⅲ区で検出したSD09が延長上であり、同



- 1 塩赤褐色シルト質粘細砂 (5YR3/3, 小石粒を含む)
- 2 黒褐色シルト質粘細砂 (5YR2/1)

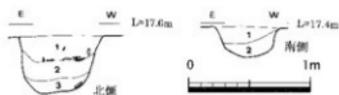
第36図 SDO2断面図 (縮尺1/40) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)



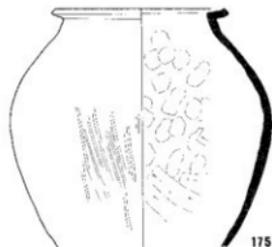
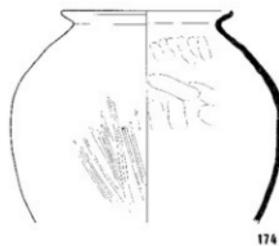
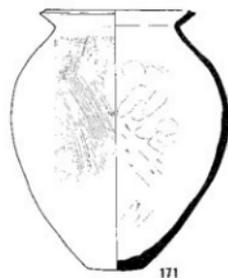
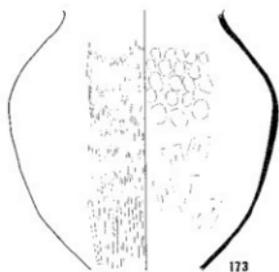
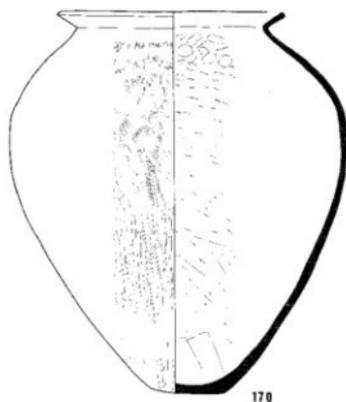
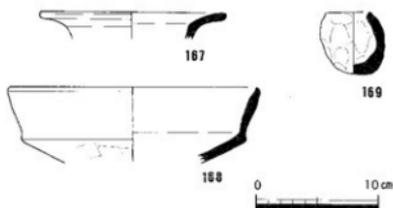
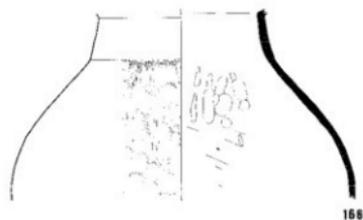
- 1 集褐色シルト質粘細砂 (10YR3/2, 炭を多く含む)
- 2 集褐色シルト質粘細砂 (10YR3/1, 炭を多く含む)
- 3 赤褐色粘細砂 (10YR3/1, 炭を多く含む)
- 4 黄灰色シルト質粘細砂 (2.5Y5/1)

159 下層 160~165 上層

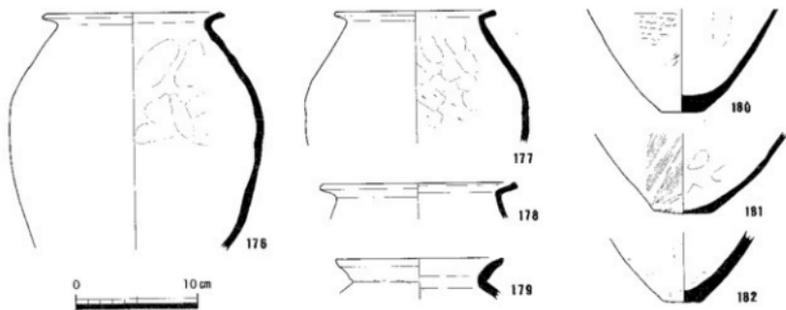
第37図 SDO6断面図 (縮尺1/40) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)



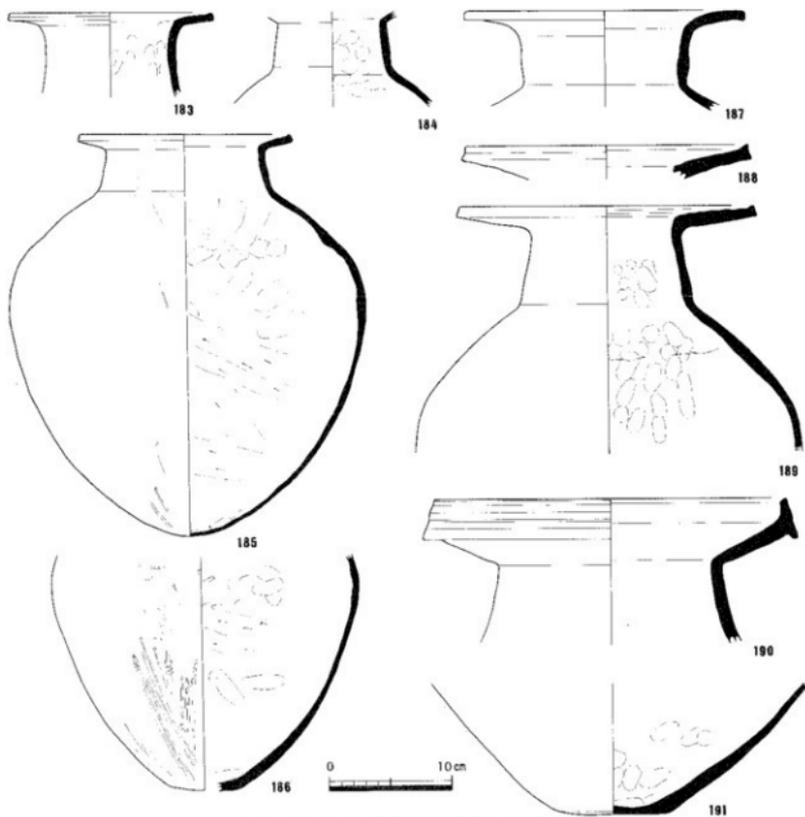
- 1 暗褐色シルト質細砂 (10YR3/4, 礫を含む)
- 2 黒褐色シルト質細砂 (10YR3/2, 礫を多く含む)
- 3 黒褐色極細砂 (10YR3/1)



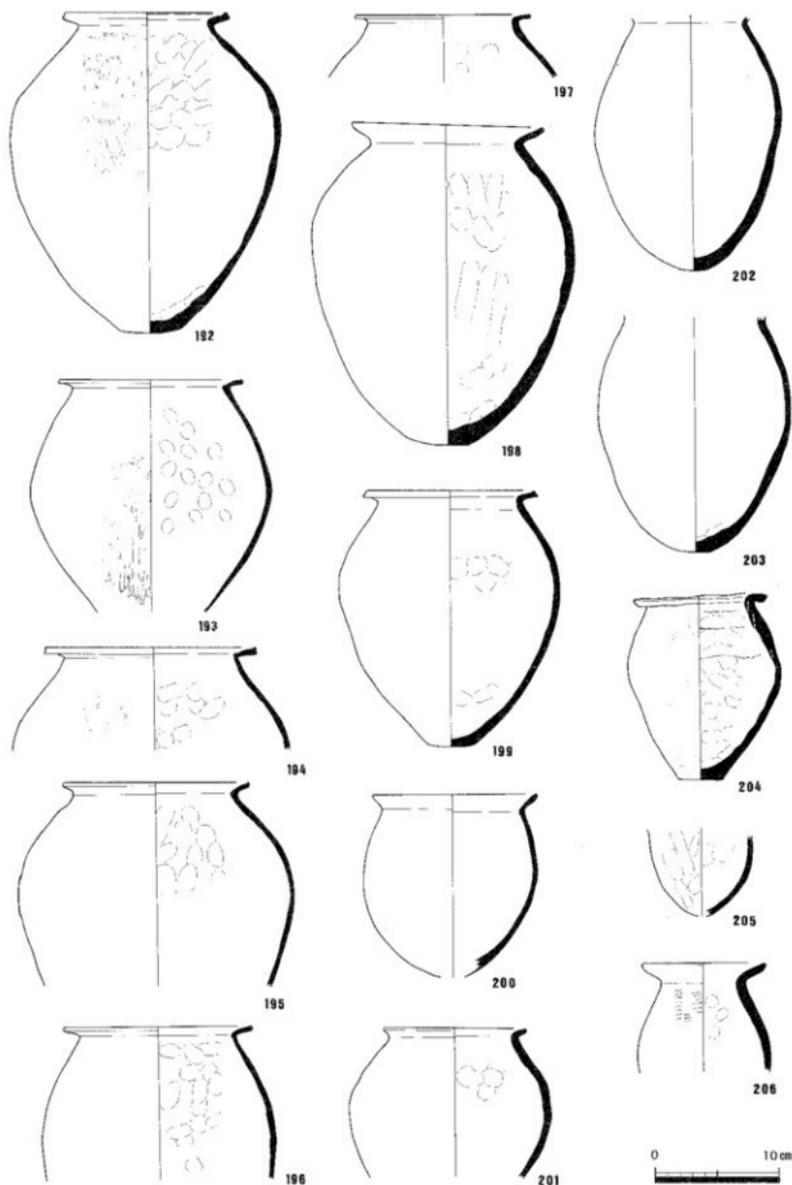
第38図 SD07断面図 (縮尺1/40) 下層出土遺物実測図① (縮尺1/4)



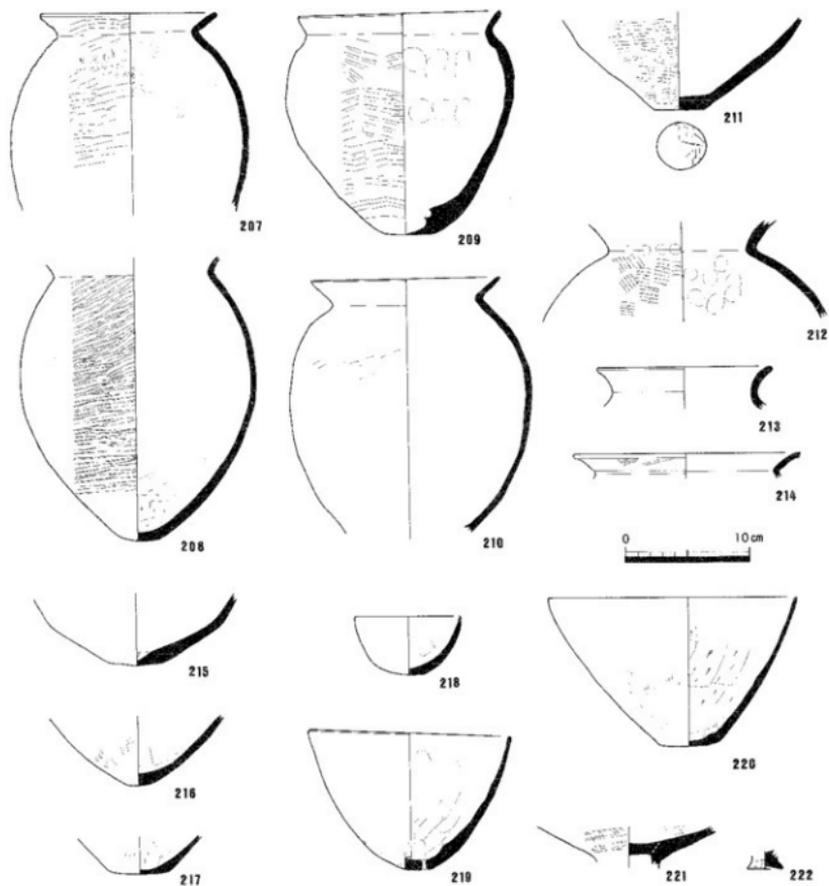
第39图 SD07下層出土遺物実測図② (縮尺1/4)



第40图 SD07上層出土遺物実測図① (縮尺1/4)



第41图 SD07上層出土遺物实测图② (縮尺1/4)



第42図 SD07上層出土遺物実測図③ (縮尺1/4)



第43図 SD07上・下層出土遺物実測図 (縮尺1/4)

じ規模で埋土も類似することから、SD09とSD21は同一の溝である可能性が高い。埋土から出土した弥生土器甕(226~228)・高杯(229~231)はおおむね下川津V式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路の可能性もあるが、SD06・07と比べると小規模であり、SD09と同一の溝と想定した場合、集落を区画していた溝の可能性も考えられる。なお、このSD21はSH11・13・14、SD23と交差するが、前後関係は明らかにできなかった。

土器棺墓 (第47ㄨ)

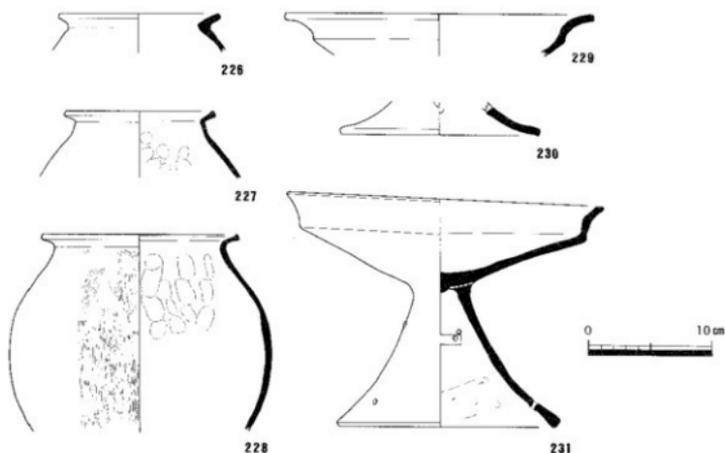
Ⅱ区で検出した小児用土器棺墓である。墓壙は南北60cm、東西45cm以上の楕円形を呈する。上部は後世の削平を受けており、深さ約25cm分が残る。土器棺は壺1点と大型鉢2点を組み合わせている。身である壺は口頸部を欠いており、上を東に向けて墓壙中央に横たえていた。蓋である大型鉢は壺の口を塞ぐ形で1点とその横に1点を墓壙内に入れていた。出土した弥生土器大型鉢(232・233)・大型壺(234)は下川津Ⅳ~Ⅴ式に相当し、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



第44図 SD09断面図 (縮尺1/40)



第45図 SD21断面図 (縮尺1/40)



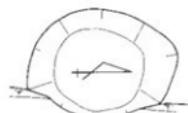
第46図 SD21出土遺物実測図 (縮尺1/4)



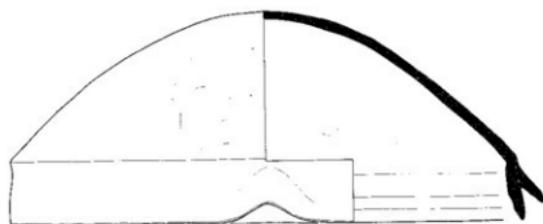
土器棺平面(発出時)



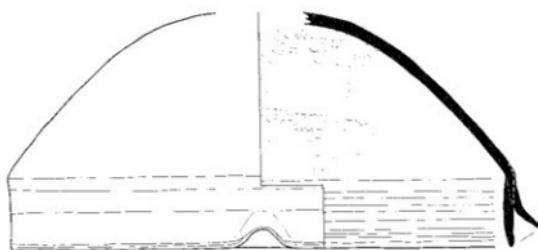
土器棺平面(完成時)



墓床平面



232

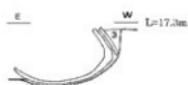


233

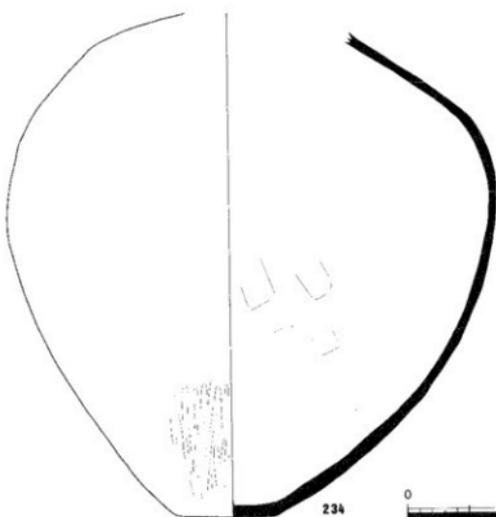


土器棺断面(南北)

- 1 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/1)
- 2 黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR2/2)
- 3 褐色シルト質極細砂 (7.5YR1/1)



土器棺断面(東西)



234



第47図 II区土器棺墓平面・断面図(縮尺1/20) 出土遺物実測図(縮尺1/4)

SD03 (第6・7・48~67図)

Ⅱ・Ⅲ区で検出した溝で、北微高地・南微高地の間に所在する小谷の底を縫うようにして掘削されている。調査区内で検出した長さが約82mにも及ぶため、調査にあたってはSD03を北から順に8区分し、Ⅱ区を1~6区に、Ⅲ区を7~8区に分けた。

SD03の規模は、幅2~3.8m、深さ約40~50cm、長さ約82mを測り、断面はおおむねU字形を呈する。ただし、4・5区では幅が4m以上となり、さらに溝底の凹凸が激しいことから断面もU字形とはならない。Ⅲ区中央西端より調査区内に入り、蛇行しながら北東方向に調査区を縦断し、Ⅱ区北部東端で調査区外にのびている。南端と北端での溝底の比高差は約40cmと緩やかな傾斜をもつ。4~8区では、溝底で東西に並行する2条の窪みが確認されており、東西どちらが先かは断面観察では看取できないが、少なくとも1回の再掘削が行われたと想定される。

埋土は、細分すると15層に分かれる(第48図、ただし第14・15層は第8図を参照)。細分された各土層の堆積状況は、1~8区の各区ごとに微妙な違いがあり、複雑な様相を呈している。遺構掘削時には、細分した土層単位に掘削し遺物を取り上げることは時間的にも技術的にも不可能であったので、これを大きく3層に分けた。上層は、褐灰色シルト質極細砂を主体とする土層で、第1~3・6層が該当し、第7・10・12~13層もこれに含まれる。堆積している厚さは約20~40cmを測る。中層は、灰色細砂~中細砂とオリブ黒色シルト質極細砂で、第8・9層が該当し、第14層もこれを含む。この第8・9層は、2~5区にしか確認されていない土層である。堆積している厚さは、約10~20cmと薄い。下層は、灰色中砂~小石や細砂~中砂を主体とする土層で、第4・5層が該当し、これに第11・15層も含む。堆積している厚さは約20cmを測る。

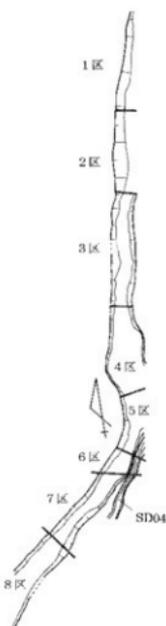
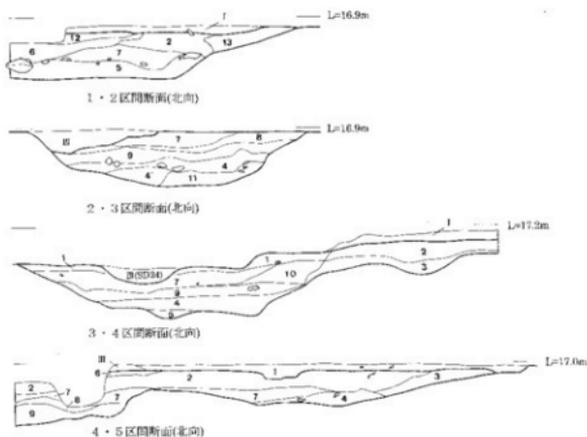
下層が細砂~小石であることから、水路として機能していたことがうかがえる。一方、上層はその特徴から、SD03が機能を失い埋没していく過程で堆積した土層である。上層下部から完形に近い弥生土器が出土していることから、水路としての機能を失った後にSD03が土器の廃棄場所として利用されたと考えられる。さて、中層は細砂~中細砂を含むことから下層より新しい時期の水流である。この中層は、2~5区にしか確認されておらず、4・5区間断面を観察するとSD03本来の溝底とは別に東端に堆積していることを考慮すると、4・5区の所で調査区の東(外)から入ってきた新たな流れで、3区を通って、2区の所で再び調査区の外へ出ていったと考えられる。つまり、第1段階ではSD03は小谷底を縫うように調査区を北東に斜めに縦断していたが、第2段階では調査区の外から5・4・3・2区と続く新たな流れが出現し、第3段階完全に埋没する時期である。第1段階は溝底の再掘削の痕跡を考慮すると、さらに二つの小段階に細分できる。

さて、埋土から出土した弥生土器を概観すると、上・中・下層とも時期差は認められない。これは、水路であるため各土層の遺物が混じたためであり、またSD03が短期間しか機能していなかった可能性も指摘できる。実際、主体を占めるのは下川IV~V式と限られており、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。なお、出土した弥生土器の一部に、前期末~中期前葉の土器を含むが、SD18の項で説明したとおり、SD18やその周辺にあった遺構の弥生土器を混入したものと考えられる。SD03から出土した土器は多量で、凹原遺跡から出土した遺物の約4割をも占め、さらに微高地にあって窪穴住居や溝と同時期であることから、集落からSD03に廃棄されたものと想定される。

また、SD03の具体的な機能として、南微高地にある溝SD06・07が排水をSD03に注いでいることから、集落から小谷にもたらされた排水を下流に向けて流す機能をもっていたと想定できる。これは、第5図の遺跡周辺の微地形を見れば明らかのように、SD03の行く先は香東川の旧河道である。また、調査区が限られており集落全体の内容がつかめないが、南微高地では排水用だが、北微高地では取水としての役割を担っていた可能性もある。

SD04 (第7図、第48図SD03-6・7区間断面)

Ⅱ区南東隅およびⅢ区北東隅でSD03と並行する幅約0.8m、深さ約0.1mを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約11mである。埋土はSD03の第6層と同じであり、SD03同様に小谷埋没土層より下部に位置することから、同じ弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



SD03土層名

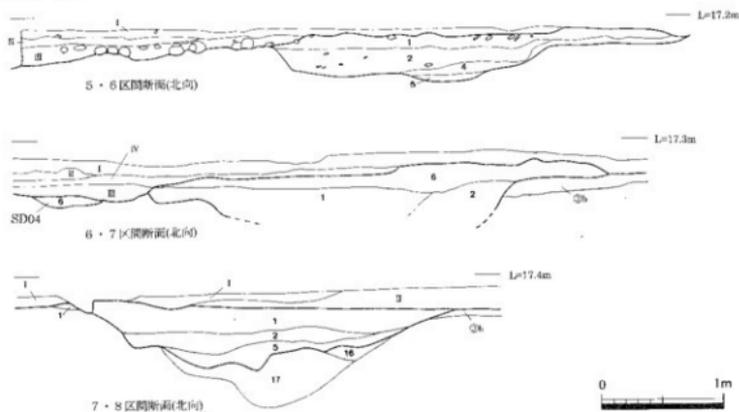
- 1 褐色シルト質粘細砂 (7.5YR5/1, Feを含む)
- 2 褐色シルト質粘細砂 (10YR3/1, Feを含む)
- 3 灰オリーブシルト質粘細砂 (5Y5/2)
- 4 灰色中砂～小石 (Ns/)
- 5 粗砂～中礫
- 6 灰白色砂～中砂 (2.5GY8/1)
- 7 黒褐色シルト質粘細砂 (7.5YR2/1)
- 8 黒地色シルト質粘細砂 (10YR2/2, 礫りがない)
- 9 灰白色細砂～中細砂 (7.5Y7/2, 礫りを含む)
- 10 オリーブ黒色シルト質粘細砂 (7.5Y2/2, 礫りがなく粘砂を含む)
- 11 灰オリーブ色シルト質粘細砂 (5Y5/2)
- 12 オリーブ黒色シルト質粘細砂 (7.5Y3/2, 礫りがなく粘砂を含む)
- 13 黒褐色シルト質粘細砂 (2.5Y3/2)
- 14 シルト質粘細砂～粘砂

小谷埋没土層名

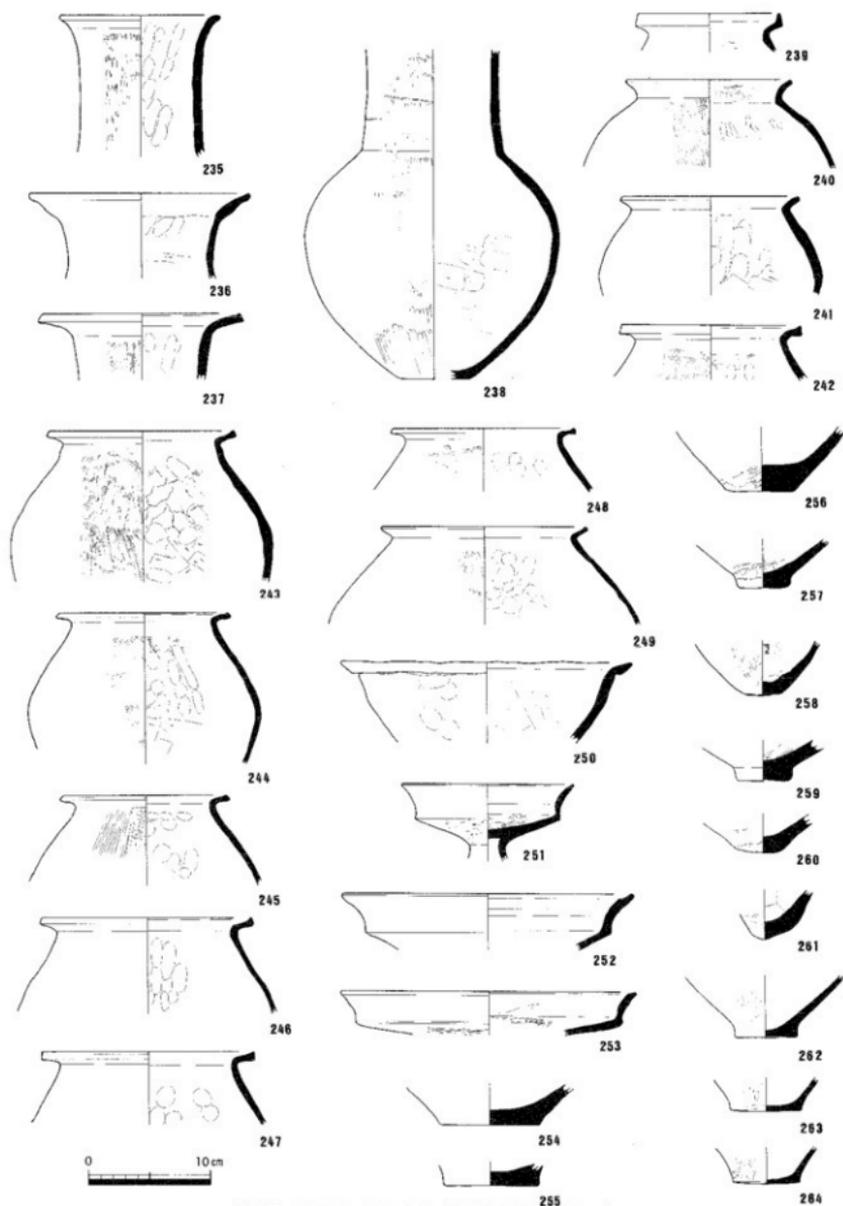
- I 灰褐色シルト質粘細砂 (7.5YR6/2, Feを含む)
- II 灰褐色シルト質粘細砂 (7.5YR5/2)
- III 白灰色泥～中細砂 (5Y8/1)
- IV 細灰黄色シルト質粘細砂 (2.5Y4/2, 粘砂を含む)
- ⑤b 褐色シルト質粘細砂 (10YR5/1)

SD18土層名

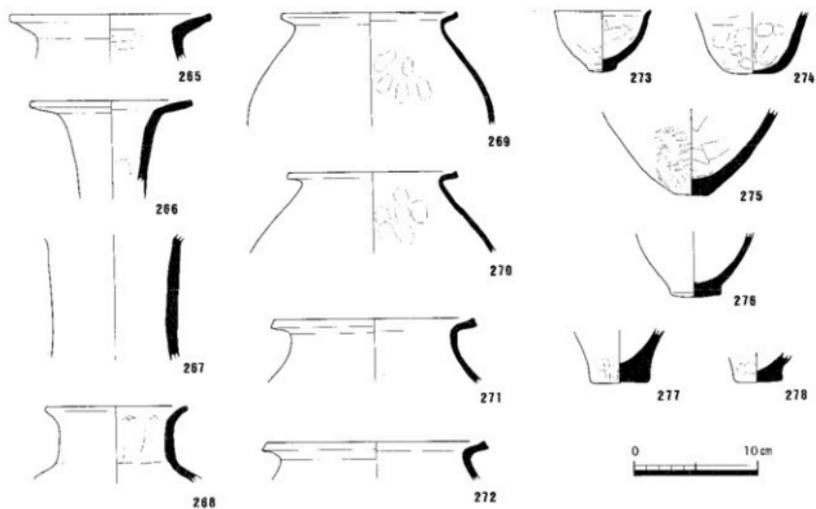
- 16 青灰色シルト質粘細砂 (5PB6/1, 地山塊をブロック状に含む)
- 17 明青灰色粘砂～粘礫 (5P97/1)



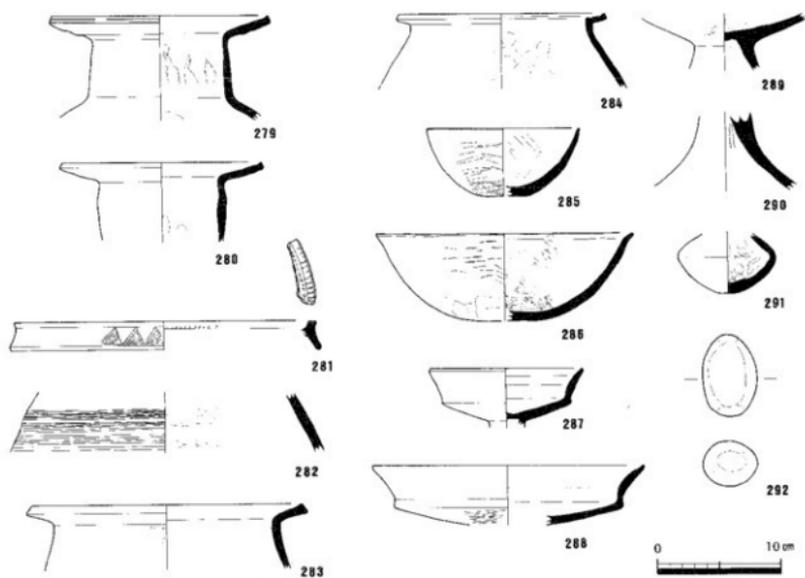
第48図 SD03断面図 (縮尺1/40)



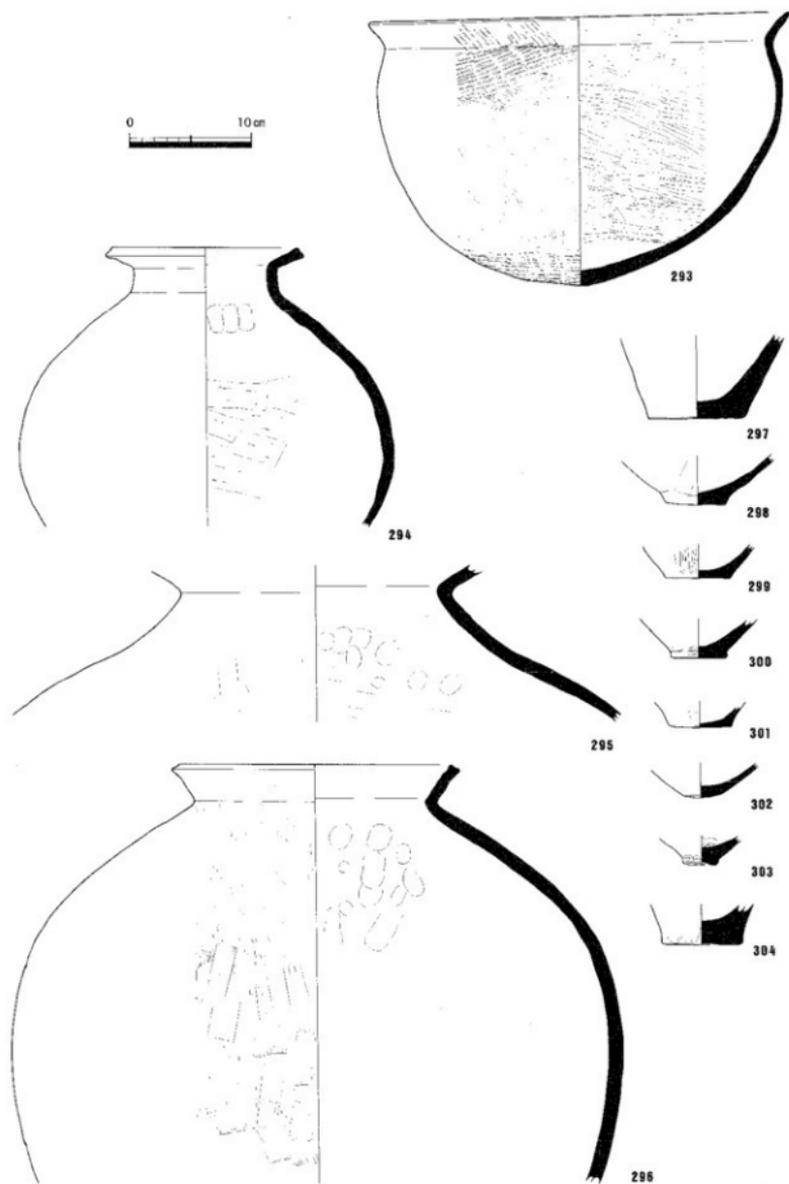
第49图 SD03-1区下層出土遺物実測図(縮尺1/4)



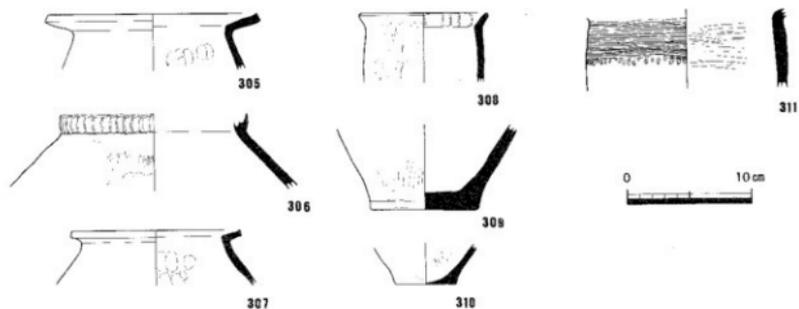
第50图 SD03-2区下層出土遺物実測図(縮尺1/4)



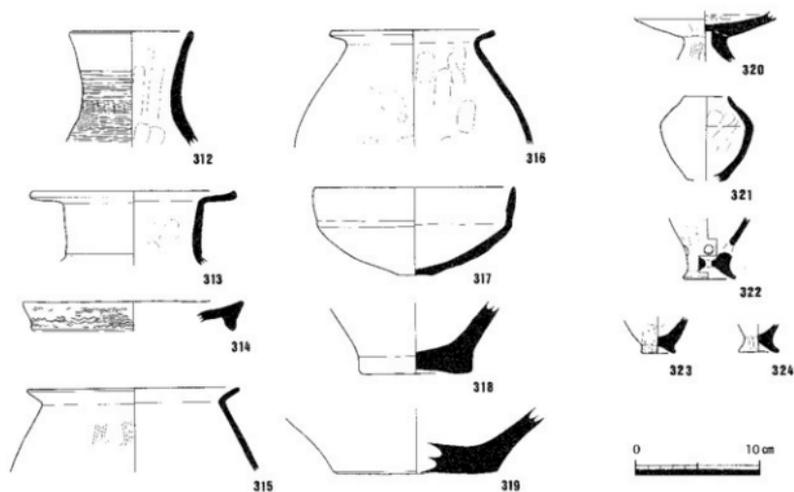
第51图 SD03-3区下層出土遺物実測図①(縮尺1/4)



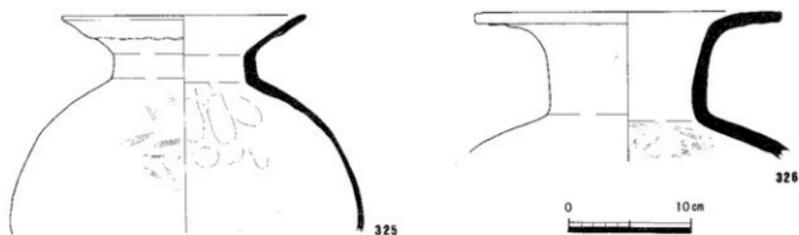
第52图 SD03-3区下隔出土遗物实测图② (箱尺1/4)



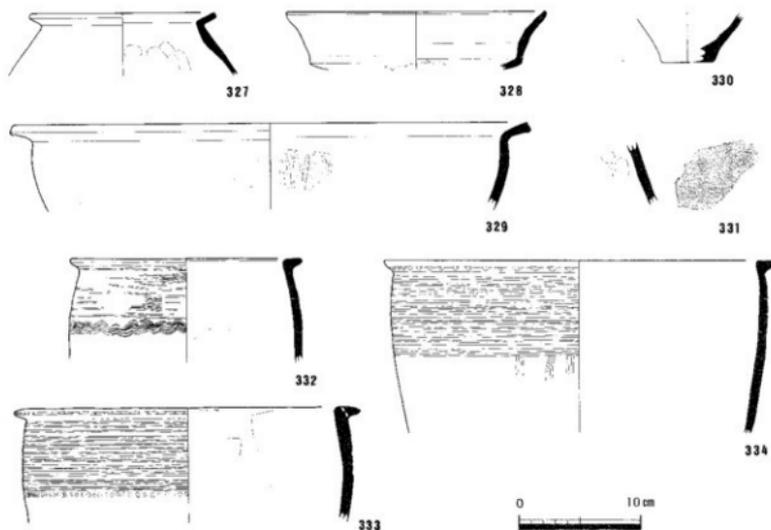
第53图 SD03-4区下層出土遺物実測図 (縮尺1/4)



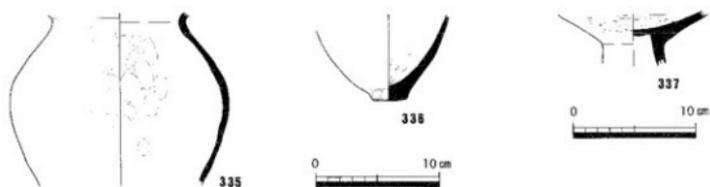
第54图 SD03-5区下層出土遺物実測図 (縮尺1/4)



第55图 SD03-7·8区下層出土遺物実測図① (縮尺1/4)

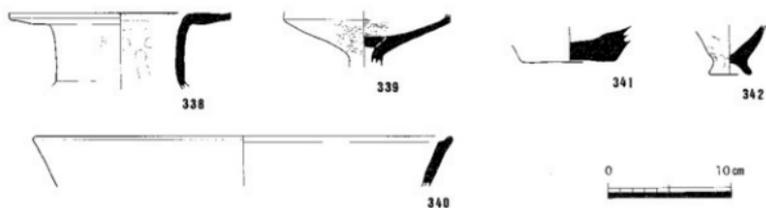


第56图 SD03-7·8区下層出土遺物実測図② (縮尺1/4)

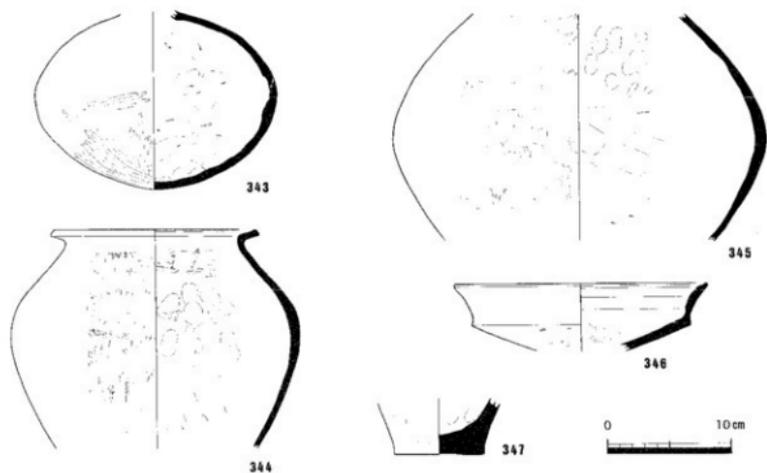


第57图 SD03-2区中層
出土遺物実測図 (縮尺1/4)

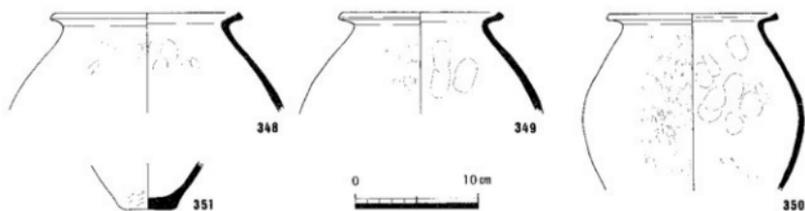
第58图 SD03-5区中層
出土遺物実測図 (縮尺1/4)



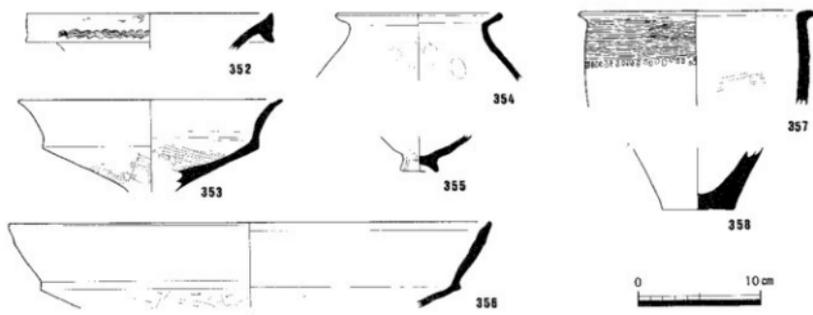
第59图 SD03-4区中層出土遺物実測図 (縮尺1/4)



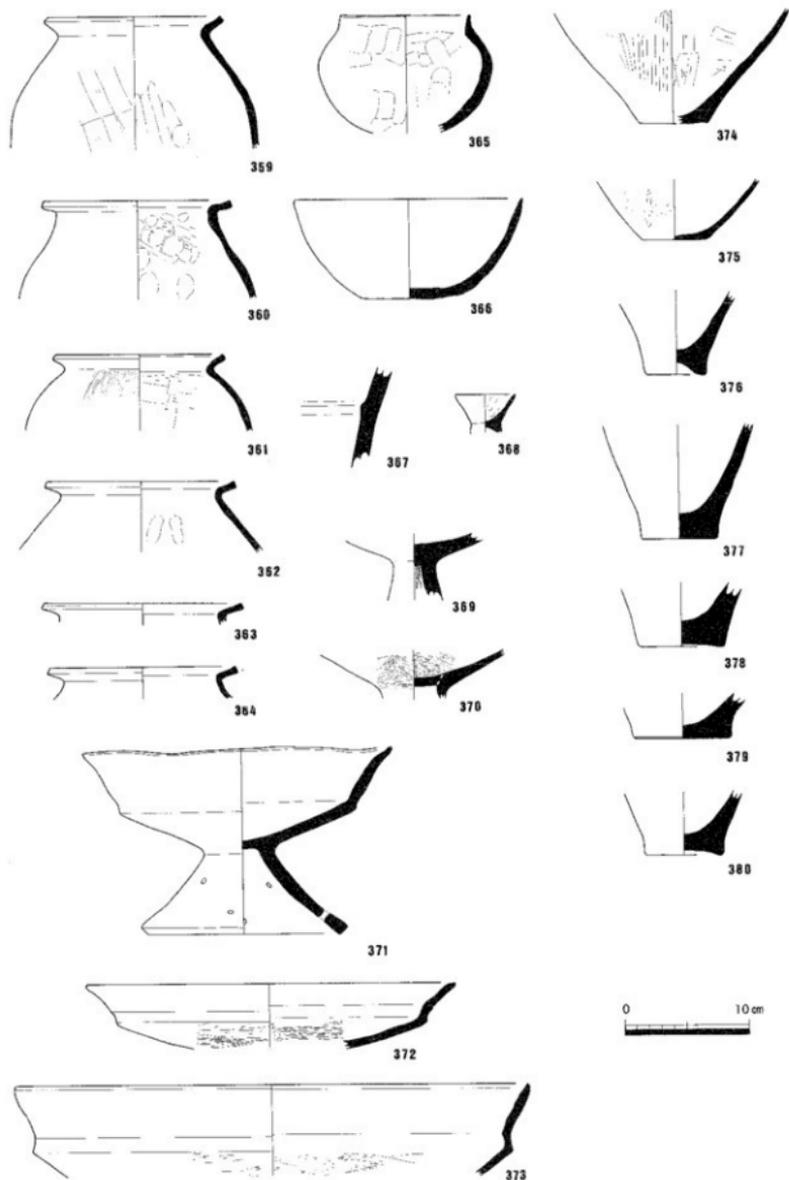
第60图 SD03-1区上層出土遺物実測図(縮尺1/4)



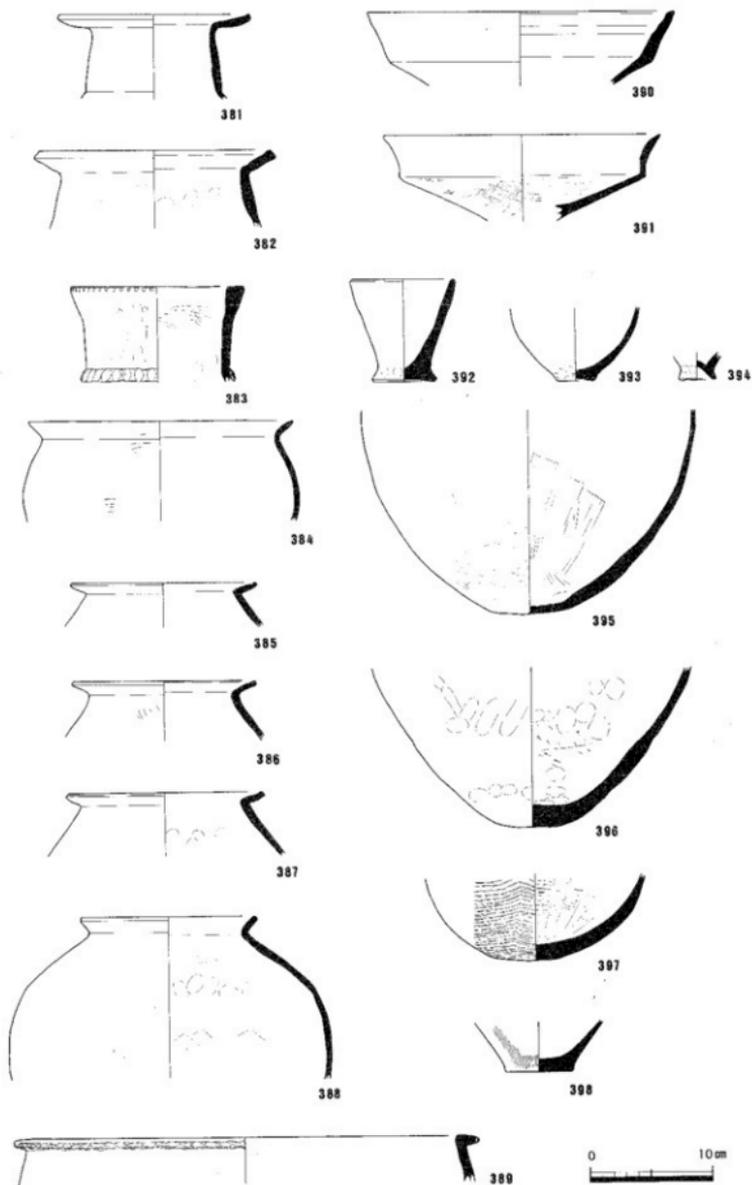
第61图 SD03-2区上層出土遺物実測図(縮尺1/4)



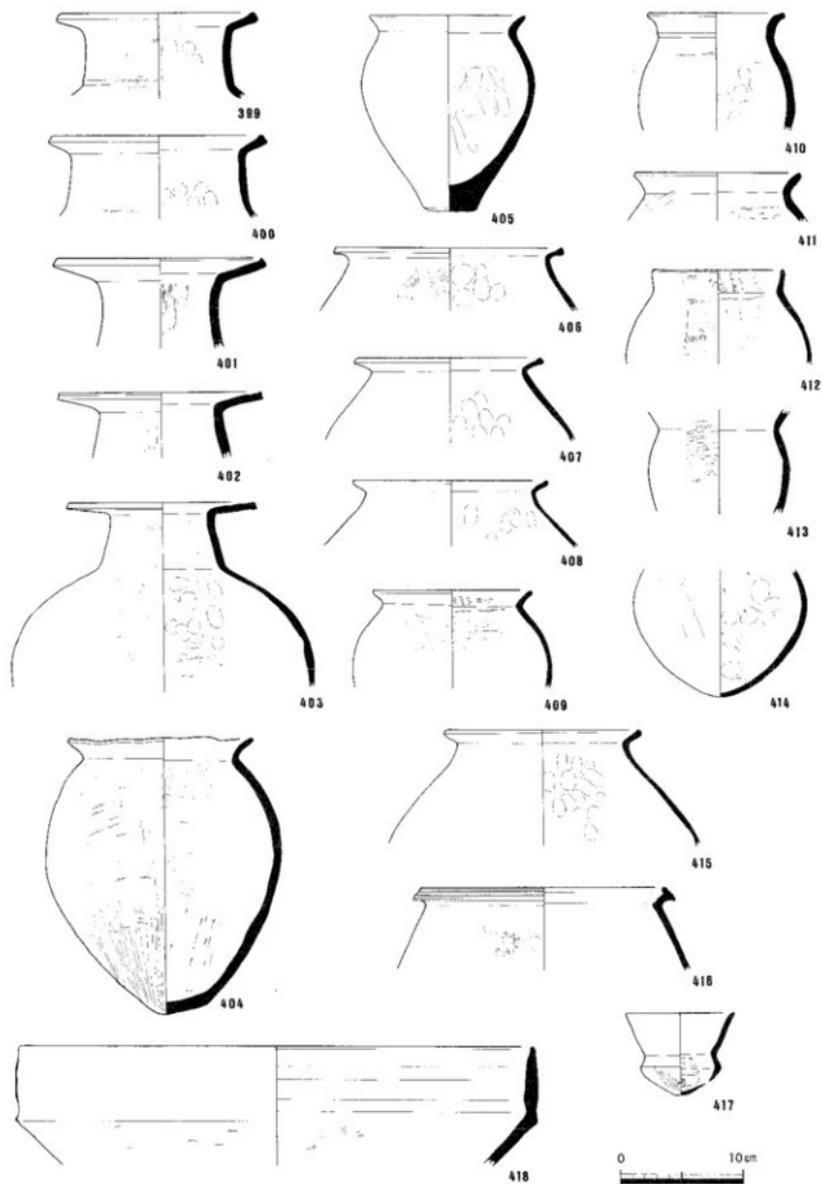
第62图 SD03-6区上層出土遺物実測図(縮尺1/4)



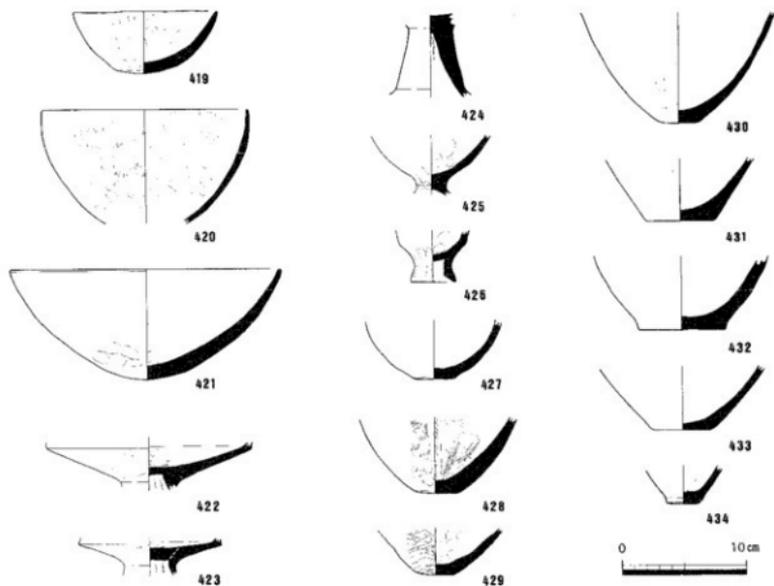
第63图 SD03-5区上層出土遺物実測図(縮尺1/4)



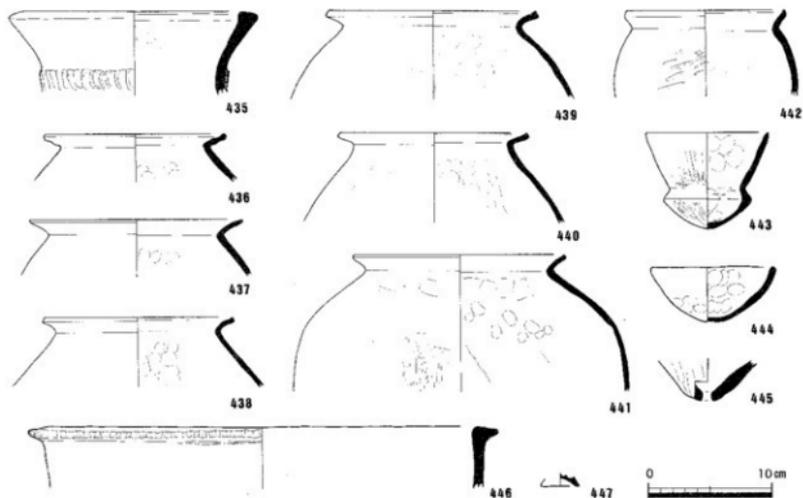
第64图 SD03-7区上層出土遺物実測図(縮尺1/4)



第65图 SD03-8区上层出土遗物实测图①(缩尺1/4)



第66图 SD03-8区上層出土遺物実測図② (縮尺1/4)



第67图 SD03-7·8区上層出土遺物実測図 (縮尺1/4)

第5節 古墳時代後期後半～鎌倉・室町時代の遺構と遺物

古墳時代後期後半～鎌倉・室町時代と考えられる溝8条・集石(橋状遺構)1基をⅡ・Ⅲ区の小谷で検出した。小谷が埋没していく過程で、掘削および構築されたものである。谷底に掘削されたSD03(弥生時代後期末～古墳時代前期初頭)が完全に埋没した後、小谷の堆積土層は大きく2つに分かれる(第4図)。上層は第Ⅰ・Ⅱ層、下層はⅢ・Ⅳ層である。遺構面は3面確認しており、第3面はSD03埋没土の上面で掘削および構築されたSD19・24・集石、第2面は第Ⅲ層上面に掘削されたSD14～17・25、第1面は第Ⅰ・Ⅱ層上面に掘削されたSD10・11である。

SD19(第7・70図) 第3面

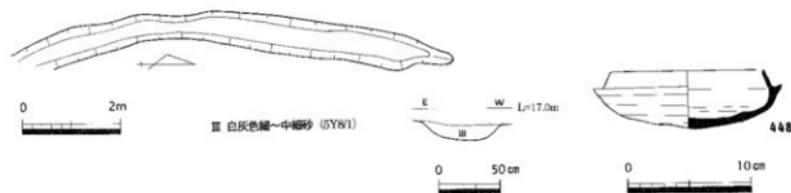
Ⅲ区北部で検出した幅約2.0～2.4m、深さ約20cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約20mである。平面は地形に沿って緩やかな弧を描く。埋土上部にSD16・17が掘削されている。SD03から出土した弥生土器小片の混入が認められるが、第Ⅲ層によって埋もれていることから、次項で報告するSD24と同じ古墳時代後期後半の時期が考えられる。

SD24(第68図) 第3面

Ⅱ区SD03-3・4区で検出した幅約60～80cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約9mである。平面は緩やかな弧を描く。SD03の埋土を掘削しており(第48図SD03-3・4区間断面)、第Ⅲ層によって埋もれている。溝肩より出土した須恵器杯身(448)は田辺編年TK10(出辺昭三1981)に相当し、古墳時代後期後半の時期が考えられる。

集石(橋状遺構)(第6・69図) 第3面

Ⅱ区南東隅、SD03上面で検出した幅約2.2m、高さ約10～20cmを測る集石で、調査区内で検出した



第68図 SD24平面・断面図(縮尺1/100,1/40) 出土遺物実測図(縮尺1/4)

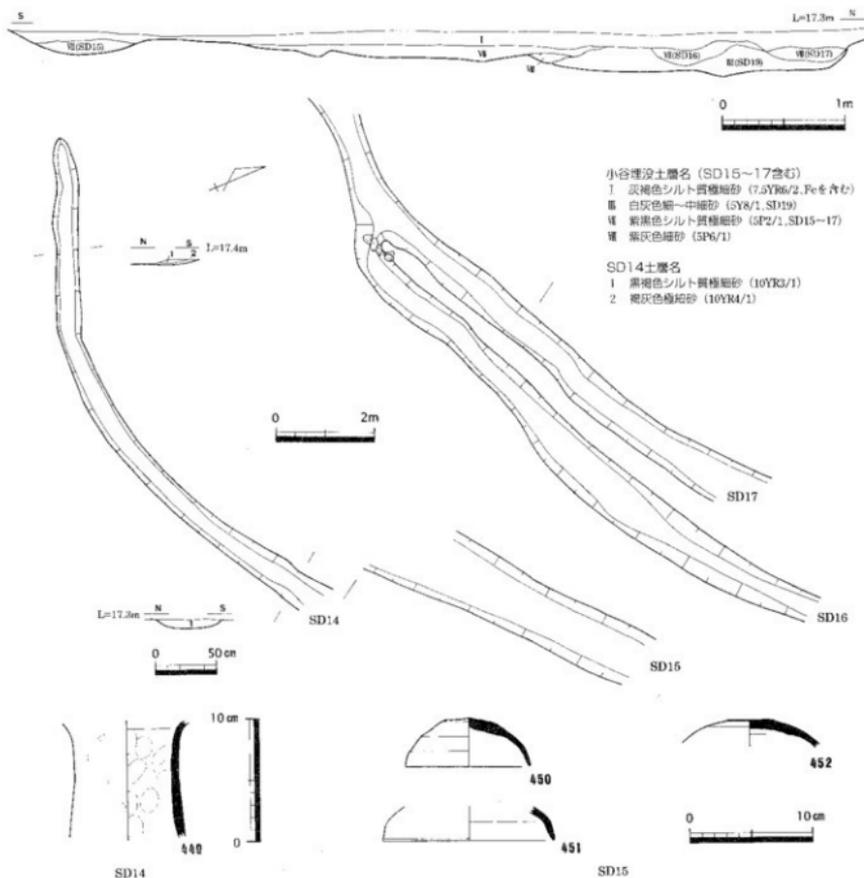


第69図 集石(橋状遺構)平面図(縮尺1/60)

長さは8mである。調査区外の東へさらに続いている。SD03埋土直上に、直径約10~30cmの川原石を置いており、第Ⅲ層によって覆われている(第48図SD03-5・6区間断面)。おそらく、北と南の微高地を行き来する際に、SD03埋土の締りが弱く通行しにくかったため、川原石を置いて橋としての機能をもたせたものと想定される。SD03より混入した弥生土器片を含むが、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭のSD03が埋没した後に構築され、同じ第Ⅲ層によって覆われるSD24が古墳時代後期後半であることから、SD24と同じ古墳時代後期後半に近い時期が考えられる。

SD14・25 (第7・70図) 第2面

SD14は、Ⅲ区北部、微高地の縁辺で検出した幅約40~60cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、検出した長さは約12mである。平面は地形に沿って弧を描く。埋土は2層確認している。埋土から弥生



第70図 SD14~17平面・断面図 (縮尺1/100, 1/40) 出土遺物実測図 (縮尺1/4)

土器壺(449)が出土しているが、SD06・07を壊して掘削されていること、平面がSD15~17と同じ曲線を描くことを考慮すると、SD15~17と同じ古墳時代後期末の時期を想定できる。

SD25は、SD14の北隣で検出した幅約40~50cmを測る溝で、検出した長さは約11mである。Ⅲ区調査終了間際に検出したため、詳細は不明である。SD14に隣接し、SD14同様に平面が地形に沿って弧を描くことから、同じ古墳時代後期末の時期と考えられる。

SD15 (第70図) 第2面

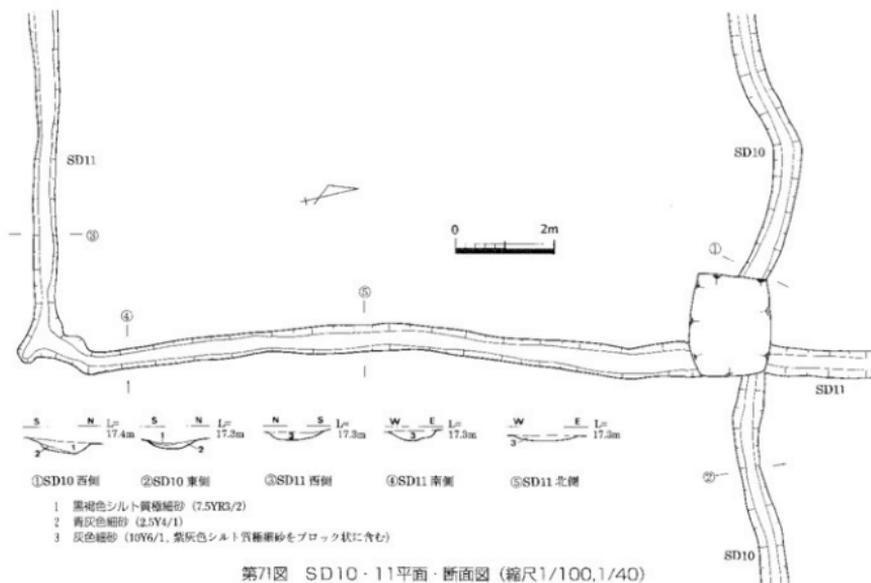
Ⅲ区北部で検出した幅1.2m、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約6mである。埋土は、第Ⅶ層である。埋土から出土した須恵器杯蓋(450~452)は田辺編年TK217(田辺昭三1981)に相当し、古墳時代後期末の時期が考えられる。

SD16・17 (第70図) 第2面

Ⅲ区北部、小谷埋没土第Ⅲ層上面で検出した幅約0.6~1.0m、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、検出した長さは両溝とも約12mである。SD16は、SD17に合流するが、合流地点には直径約10~20cmの川原石を環状に並べている。出土遺物には弥生土器小片が見られるが、第Ⅲ層を掘削していること、埋土はSD15と同じ第Ⅶ層であることから、古墳時代後期末の時期が考えられる。

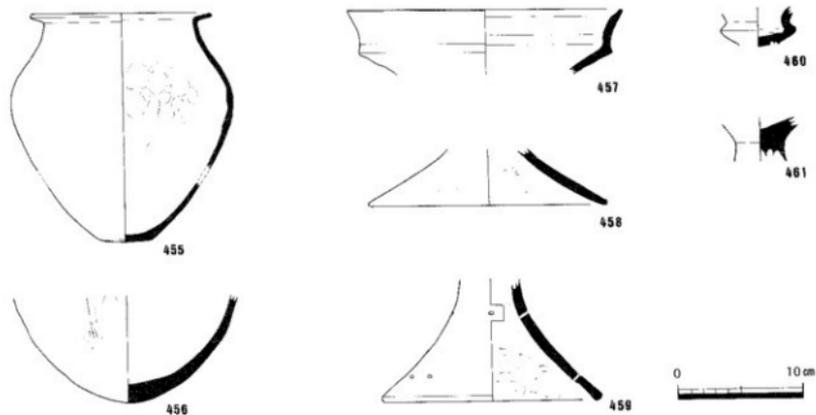
SD10 (第71図) 第1面

Ⅲ区北部で検出した幅約50cm、深さ約10cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約12mである。小谷埋没土第Ⅰ層上面で検出した。平面は蛇行しながらも、方位はN81°Wと調査区周辺に残る条里地割とはほぼ一致する。SD11とはほぼ直角に交差しているが、交差部分が後世の掘乱によって壊されており、前後関係は不明である。第Ⅰ層から出土した須恵器(第72図453・454)が古墳時代後期末と平安時代に属するものであること、条里地割と方位を同じくすることを考慮すると、鎌倉・室町時代を中心とする時期が考えられる。

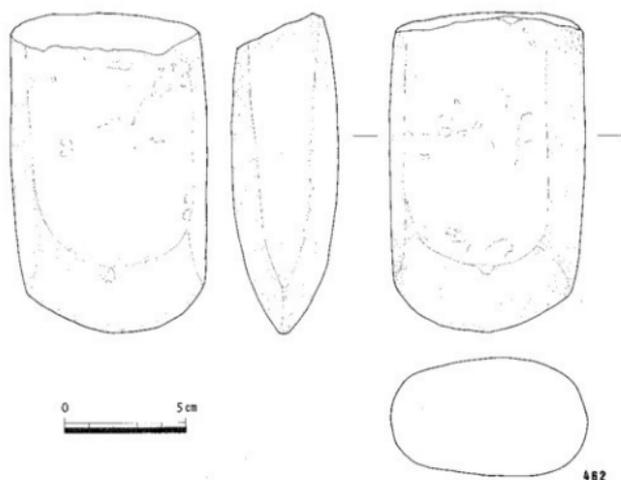




第72図 小谷埋没土（第Ⅰ層）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第73図 小谷埋没土（第Ⅱ層，SD03直上）出土遺物実測図①（縮尺1/4）



第74図 小谷埋没土（第Ⅱ層，SD03直上）出土遺物実測図②（縮尺1/2）

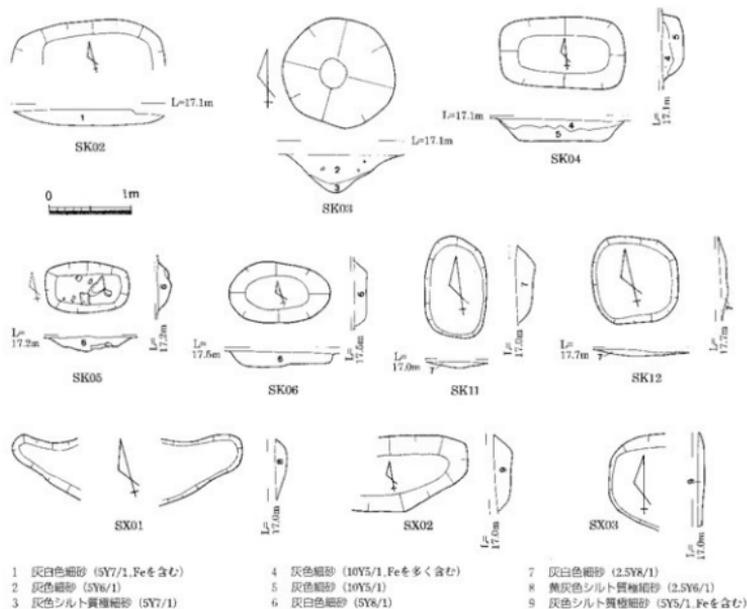
第6節 江戸時代の遺構と遺物

江戸時代と考えられる溝3条・土坑7基・不明遺構3基を、調査区全域で確認した。これら遺構は主に灰色細砂を埋土としているが、この埋土は高松平野で通例見られるもので、堆積してからの年月が短いため褐色や黒色のシルト質極細砂になるまで土壌化が進んでいない。江戸時代の陶磁器片を出土する場合が多く、凹原遺跡でもSK05からいぶし瓦片が出土している。以上のことから、混入と考えられる弥生土器小片を含む遺構もあるが、灰色細砂およびこれに類するものを埋土とする遺構は江戸時代を中心とする時期のものとして扱った。第71図SD11、第75・76図掲載の遺構が該当する。紙面の都合上、代表的なSD12のみ詳細を報告し、他は図面のみを報告とする。

SD12は、Ⅲ区南端で東西方向にのびる溝である。隣接するSD13を一部壊しており、SD13埋没後に再掘削する目的でSD12を掘削したものである。SD12はやや蛇行するものの、SD13と合わせて考えると方位はN81°Wである。この方位は、調査区周辺に残る条里地割と同じである。Ⅲ・Ⅳ区の間には現有水路があり、条里呼称に従えば、この水路は香川郡1条15里4坪と9坪の坪界線に相当する。以上のことから、SD12・13は条里の坪界線として設定されたものであり、長い年月の間に坪界線が微妙にずれていき、今も現有水路がその役割を担っているものと考えられる。



第75図 SD05・12断面図 (縮尺1/40)



第76図 SK02～06・11・12、SX01～03平面・断面図 (縮尺1/60)

第7節 その他の遺構と遺物

時期不明の遺構として横列7列・溝5条・土坑16基・不明遺構1基を、調査区全域で確認した。中には弥生土器小片を含むものもあるが、これら時期不明の遺構が弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺構を壊している場合もあることから、弥生土器小片は混入したものと考えられる。ただし、混入であるか否か判断し難い事例もあり、判断し難い遺構は本節で扱った。なお、紙面の都合上、代表的な遺構のみ詳細を報告し、他は図面をみの報告とする。

SA01 (第77図)

I区北端、SH01に隣接して検出した横列である。直径40～50cm、深さ約20cmの円形柱穴を4基並べ、柱穴の中心間距離は約90cmを測る。他の横列に比べ柱穴の規模が大きく、他遺跡の事例から推測すると、弥生時代～平安時代の時期幅が考えられる。

SA02～07 (第7・77図)

II区中央で横列SA02～05、III区北西隅で横列SA06・07を検出した。調査区は違うが、同じ北微高地上に立地する。平面で分類すると、柱穴の並びが直線的なもの(SA05・06)、ゆるやかに弧を描くもの(SA02・03)、大きく弧を描くもの(SA04・07)に分けられる。一方、柱穴の規模で分類すると、直径が約20～30cmのもの(SA02・03・05・07)、約20～30cmのもの(SA04・07)に分けられる。弧を描きながら柱穴が並ぶ横列は一般的でないことから注目でき、さらにSA03は1列5基の柱穴が2列に並んでいる珍しい事例である。SA03が2列の原因については、当初から2列だったのか、建替えを行ったのかは不明である。

SD13 (第7・78図)

III区南端で検出した幅約1.0～1.2m、深さ約30cmを測る断面U字形の溝で、調査区内で検出した長さは約17mを測る。調査区周辺に残る条里地割と同じN81°Wの方位をもって東西方向にのびる。隣接するSD12により北肩を一部壊され、交差するSD07・09の上部を壊している。54頁SD12の項で報告したとおり、SD13は香川郡1条15里4坪と9坪の坪界線に相当し、条里の坪界線として掘削されたものである。3層ある埋土のうち第2・3層が灰白色細砂と土壌化が進んでないこと、江戸時代と推定されるSD12より古いことを考えると、鎌倉～室町時代の時期幅が考えられる。

SD08・20・22・23 (第6・7・78図)

SD08はII区北部で検出した溝で、SH02の馬溝を一部壊して掘削されている。SD20は、IV区北西隅で検出した溝で、西端は調査区外にのびる。SD22はIV区中央で検出した溝で、SH12と重なっているが前後関係は不明である。SD23はIV区中央北寄り検出した溝で、SD21と交差しているが、前後関係は不明である。

SK01・07～09・13～24 (第79図)

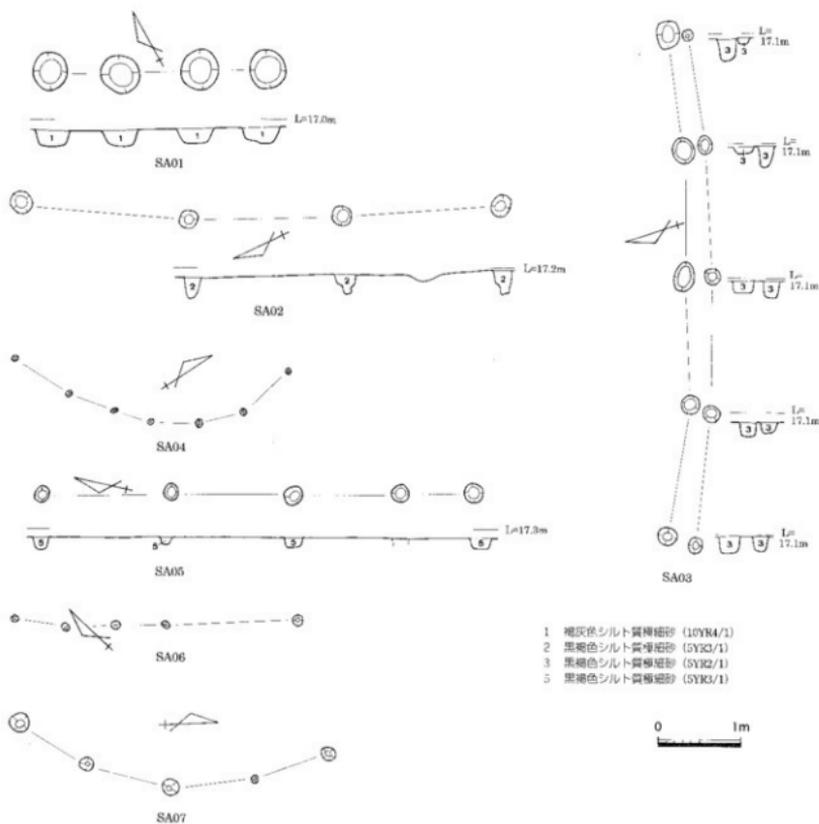
I区中央で検出した土坑SK01を除いて、SK07～09・13～24の土坑15基はすべてIV区中央に集中している。形態・規模により分けると、平面が長方形のもの(SK07～09・16～18・21)、円形および不整な円形のもの(SK01・13～15・23)、1m未満の小型のもの(SK19・20・22)、不明なもの(SK24)に分類できる。

平面が長方形のものは、もっとも小規模のSK17を除いて、南北または東西に方位を振っており規格性が認められる。0.8m×1.1m以上のSK17を最小に、1.1×3.3mのSK09や1.8×2.8mのSK07といった大きな規模をもつものがある。土墳墓の可能性も考えられるが、断定はできない。

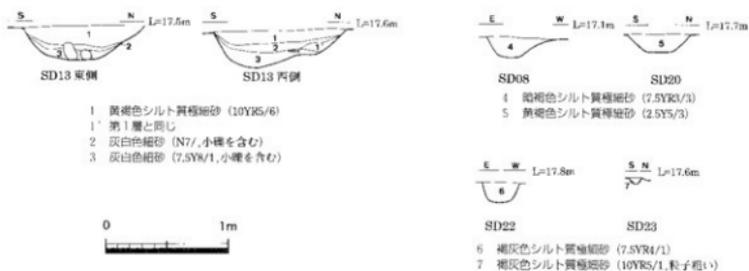
平面が円形のもの、深さ約10～20cmのものが大部分であるが、SK23のみが深さ約70cmを測る。

SX07 (第79図)

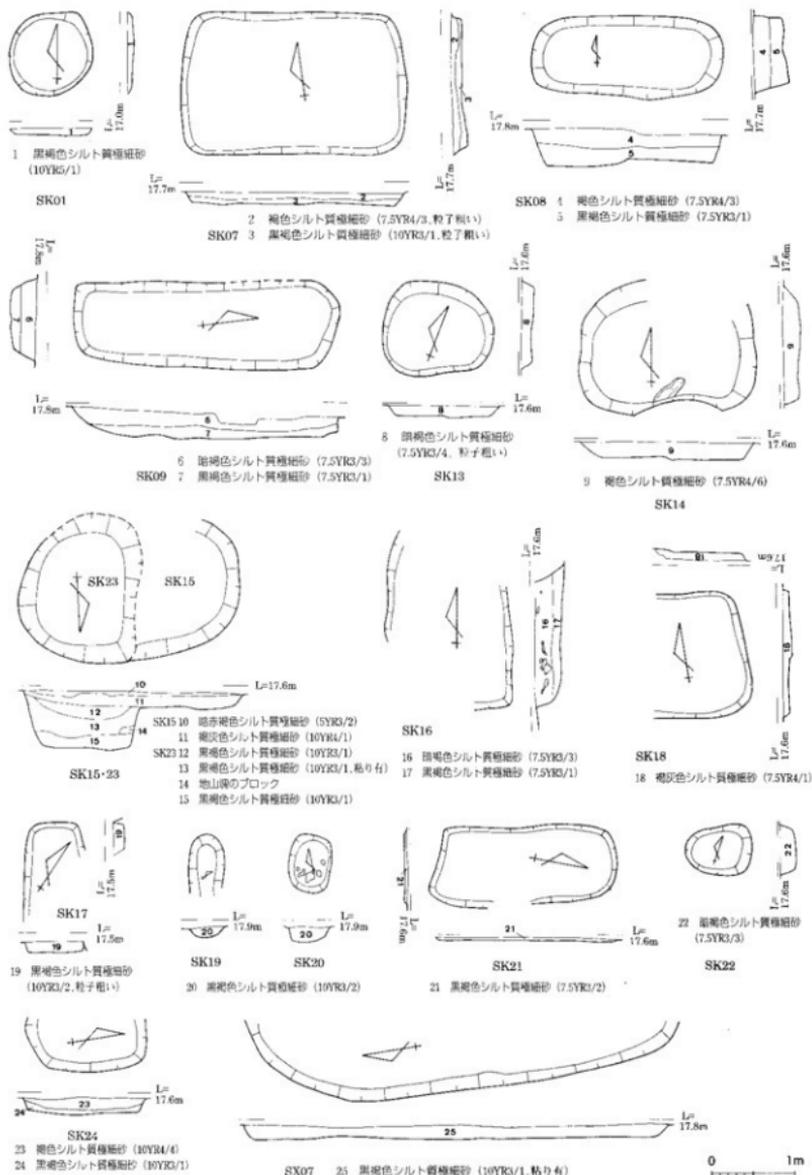
IV区中央東端で検出した南北約5.3m、東西約1.0mを測る不明遺構である。遺構の大部分が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。おそらく隅丸方形の堅穴住居である可能性が高いと考えられるが、後世の削平により深さ約20cmしか残ってなく、埋土も1層しか確認できなかったため不明遺構に分類した。



第77図 SA01~07平面・断面図 (縮尺1/60)



第78図 SD08・13・20・22・23平面・断面図 (縮尺1/40)

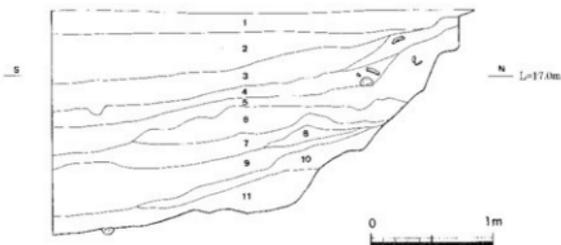


第79図 SK01・07~09・13~24, SX07平面・断面図 (縮尺1/60)

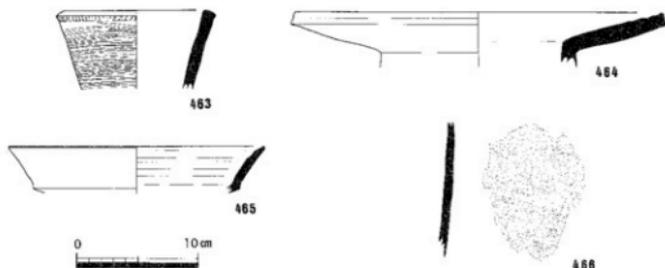
旧河道（第7・80図）

Ⅳ区南端で検出した旧河道である。検出した川幅は8m以上を測るが、第5図に示したとおり、凹原遺跡周辺の微地形分析では、川幅は約80mにも及ぶ。この旧河道は、かつて高松平野の各所を蛇行していた香東川の旧流路である。凹原遺跡より北東約1km下流には「さこ・長池遺跡」「さこ・松ノ木遺跡」が所在し、両遺跡では弥生時代中期頃には川としての機能を失い、古墳時代には旧河道内で水田経営がなされていたことが明らかになっている。このことは、凹原遺跡周辺においてもこの旧河道が弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の集落が存在したときには、すでに川としての機能を失っていたと考えられる。ただし、弥生時代後期末～中期初頭のS D18が洪水砂によって埋もれていることを考慮すると、この時にはまだ川の機能を維持していたと考えられる。

この旧河道に長さ3.5mの試掘トレンチを設定し掘削した。調査区内では、深さ約1.8mを測り、埋土は全部で11層確認した。ただし、これは川岸の一部を掘削したに過ぎない。埋土中より、弥生時代中期の壺(463、第4層)、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の壺・高杯(464・465、それぞれ第4層・第7層)、詳細な時期は不明の弥生土器壺(466、地山直上である第11層)が出土した。



- 1 暗赤灰色シルト質粘細砂 (5K3/1, Fe・小石を含む、粒子やや粗い)
- 2 灰黄色シルト質粘細砂 (5RF2/1, Feを少し含む)
- 3 暗青灰色シルト質粘細砂 (5PF4/1, 灰白粘土(N7/, 地山塊?)をブロックに含む)
- 4 暗青灰色シルト質粘細砂 (5PF3/1, 第4層をブロックに多く含む、土層片を少量含む)
- 5 黒色シルト質腐植土 (5V2/1, 植物遺体・土層片を多く含む)
- 6 暗灰色シルト質粘細砂 (N3/, 土器片を少量含む、粒子が細かい、深い所では下部が泥炭層になる)
- 7 オリーブ灰色中砂～細砂 (2.5GYS/1, 網膜・植物遺体・暗灰色粘質土をブロック状に含む)
- 8 灰色シルト質粘細砂 (N4/, 植物遺体・土器片を少量含む、粒子粗い)
- 9 明オリーブ灰色シルト質粘細砂 (5GY7/1, 第7層に含まれるブロック)
- 10 黄灰色シルト質粘細砂 (5P35/1, 網膜・植物遺体・灰白色粘質土をブロック状に含む)
- 11 オリーブ黒色シルト質腐植土 (5V3/1, 植物遺体・土器片を多く含む)

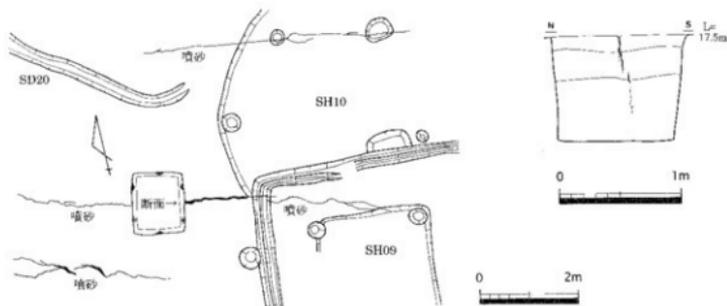


第80図 旧河道断面図（縮尺1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）

噴砂 (第81図)

IV区北西部で検出したもので、ほぼ東西方向にのびる3条の噴砂を確認した。噴砂は、SH09・10埋土を割っているが、近世～近代と想定しているイ・ロ層によって削平されており、古墳時代前期～中世頃の間起こった地震によるものと推定される。噴砂の一部に試掘トレンチを設定・掘削し、断面観察を行ったが、噴砂が細く地層下部からの明確な吹き上がりは確認できなかった。

この噴砂は、地震による液状化現象の一つであり、震度6以上で発生することが知られている。凹原遺跡から南西約500mの位置にある松林遺跡では、弥生時代中期の噴砂が確認されている。



第81図 噴砂平面・断面図 (縮尺1/100.1/40)

第8節 廃土置場の遺構と遺物

凹原遺跡調査時に発生した廃土を仮置場のため、北西約120mの場所に廃土置場を確保した(第82図)。平成2年11月9日、廃土置場で作業中、偶然に土器棺墓2基を確認した。急速、専業主体者である太田第2土地区画整理事務所と協議を行い、土器棺墓2基については緊急調査を実施し、土器棺墓周辺に所在が予想される遺構については、これ以上の掘削を行わず保存することで合意に達した。同月10・15日に調査を実施した。

土器棺墓1 (第83～85・87図)

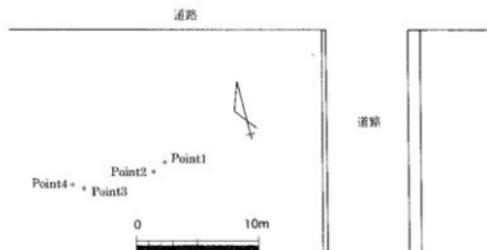
小児用土器棺墓で、大型壺2個の口頸部を打ち欠き連結して横たえている。さらに、一方の大型壺の底部を打ち欠いて、口径約35cmの高杯杯部(鉢の可能性もあり)で蓋をしている。高杯杯部は焼成不良だったためか周囲の土と一体化しており、取り上げは不可能であった。墓壙は南北約80cm、東西約110cmの楕円形を呈する。上部は後世の削平を受けており、深さ約20cm分が残る。土器棺は東北東に蓋を向けている。この土器棺墓横より、伴出するものかどうかは不明だが、弥生土器壺口縁部(467)が出土している。出土した弥生土器大型壺(468・469)・壺口縁部(467)は下川津V式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

土器棺墓2 (第83・86・88図)

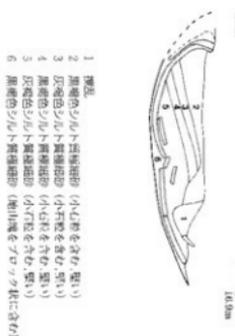
土器棺墓1より約6m西に離れた位置で検出された。小児用土器棺墓で、大型壺の口頸部を打ち欠き、大型鉢で蓋をしている。墓壙は南北約60cm、東西約80cmの楕円形を呈する。上部は後世の削平を受けており、深さ約35cm分が残る。土器棺は東南東に蓋を向けている。出土した弥生土器大型壺(470)・大型鉢(471)は下川津V式に相当し、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



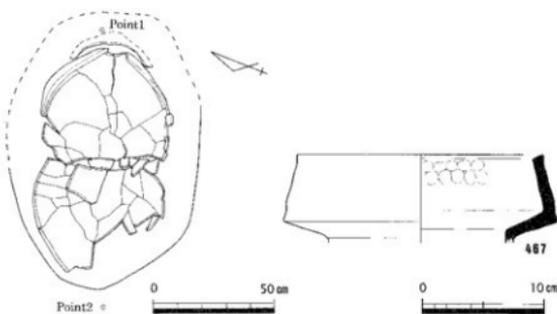
第82図 鹿土置場位置図 (縮尺1/10,000)



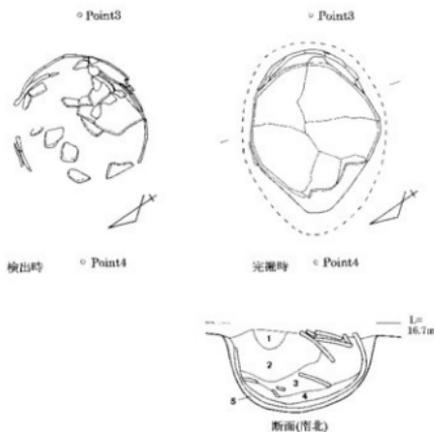
第83図 土器棺墓位置図 (縮尺1/400)



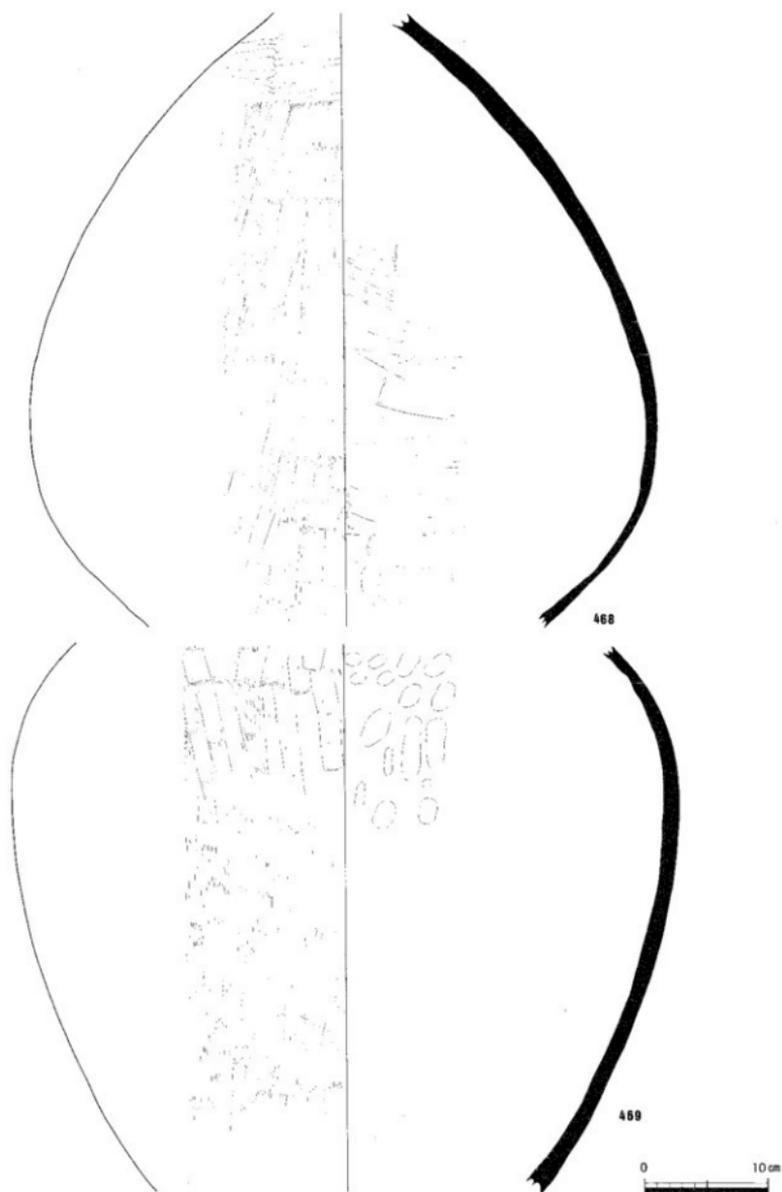
第84図 鹿土置場土器棺墓1
平面・断面図 (縮尺1/20)



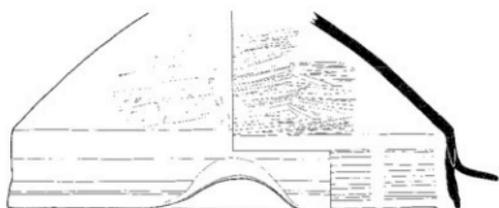
第85図 鹿土置場土器棺墓1横
出土遺物実測図 (縮尺1/4)



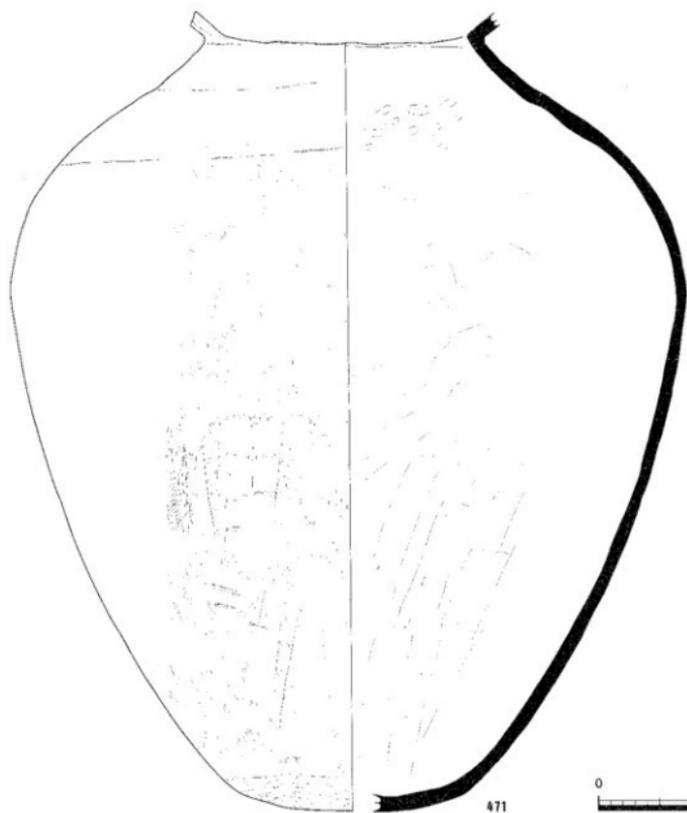
第86図 土器棺墓2平面・断面図 (縮尺1/20)



第87図 鹿土置場土器棺蓋1出土遺物実測図(縮尺1/4)



470



471



第88図 鹿土園場土器棺壟2出土遺物実測図(縮尺1/4)

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷

凹原遺跡は、5時期に分かれる。ここでは、簡単に遺跡の変遷を報告し、凹原遺跡の最盛期である弥生時代後期末～古墳時代前期初頭については次節で詳細に報告する。

第1期【弥生時代前期末～中期前葉】（第89図）

凹原遺跡に初めて人が住み始める。南微高地北辺に環濠の可能性があるSD18が掘削され、微高地上に堅穴住居SH10や土坑SK25、柱穴IV区SP22が見られる。微高地南辺は、旧河道であるため環濠を一周させなかったのかもしれない。

第2期【弥生時代後期末～古墳時代前期初頭】

もっとも多くの遺構・遺物を確認した時期である。南北微高地合わせて堅穴住居14棟・井戸1基・溝8条・土器棺墓1基が掘削され、集落が南北微高地上に存在する。南北微高地間の小谷底には、水路SD03が掘削され、取水・排水の目的を果たしていたものと想定される。

第3期【古墳時代後期後半】

南北微高地間の小谷が埋没していく過程で集石(橋状遺構)や小規模な溝が構築・掘削されている。集落は認められず、溝の用途も不明である。第Ⅲ層によって遺構面が分かれ、下面がSD19・24・集石で古墳時代後期後半に属し、上面がSD14～17・25で古墳時代後期末に属する。

第4期【鎌倉・室町時代】

南北微高地間の小谷はほぼ埋没し、調査区内はほぼ平坦地となっていた。小規模な溝SD10が掘削されており、遺跡周辺に残る条里地割と方位がほぼ一致する。時期不明としたSD13も、この時期に属する可能性があり、SD13は香川郡1条15里4坪と9坪の坪界線に相当する。集落は認められない。

第5期【江戸時代】

溝SD05・11・12、土坑SK02～06・11・12、不明遺構SX01～03と比較的遺構数は多いが、集落を構成する遺構は認められない。野蕪と想定されるSK03があることから、農地として利用されていたと考えられる。なお、SD12はSD13同様に香川郡1条15里4坪と9坪の坪界線に相当する。

第2節 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭における集落の変遷

凹原遺跡から出土した当該期の土器は、おおむね下川津Ⅳ～Ⅴ式に相当する。この土器型式と遺構の前後関係・類型から、当該期の集落変遷を考える。

堅穴住居の変遷

まず、集落を構成する要素のうち、重要な堅穴住居について検討を行う。堅穴住居は、平面形態・規模によって次の四つに分類できる。

1類 円形のもの

(SH01・05、参考として中期前葉のSH10はこの分類に入る)

2類 隅丸方形のもの (SH03・06)

3類 一辺4mを超える方形のもの (SH09・12)

4類 一辺4m未満の方形のもの (SH02・04・11・14)



第89図 弥生時代前期末～中期前葉の遺構
(縮尺 1/900)

なお、内部構造は分かるが平面形態が不明なもの(SH07・08)は検討材料に入れ、ごく一部しか検出しておらず内容が不明なもの(SH13・15)は除外する。

次に、出土遺物から時期が明らかな堅穴住居は次のとおりである。

下川津Ⅳ式 SH05・07(中でもSH05は古相を呈する。)

下川津Ⅳ～Ⅴ式 SH03(周溝をもつ第1段階とベッド状遺構を新設する第2段階がある。)

下川津Ⅴ式 SH04・06・09・12・14(中でもSH06・12は古相を呈し、SH14は新相を呈する。)

さらに、遺構の前後関係を見た場合、SH12よりSH11が新しいことが分かっている。

以上のことを踏まえ、さらに近年の県内における研究成果(蔵本晋司1999、松本和彦2000、森下英治2001)を取り入れて、堅穴住居を時期別に並べたのが第90図である。全体の傾向として、平面が円形→隅丸方形→中型方形→小型方形へと変遷している。

第2-1小期(下川津Ⅳ式相当)では、前代以降続く平面円形の堅穴住居(SH05)が小型ながらも営まれている。同じ平面・規模をもつSH01もほぼ同時期と思われる。一方、この時期終末に一辺4mを超える規模をもつ隅丸方形の堅穴住居(SH03第1段階)が出現する。SH08は、SH06・07と同じ柱穴5基を有することから、この時期かもしくは次期に属すると考えられる。

第2-2小期(下川津Ⅴ式(古相)相当)では、隅丸方形の堅穴住居(SH03第2段階・06)がこの時期まで存続する。一方、一辺4mを超える規模をもつ中型方形の堅穴住居(SH09・12)が出現する。SH09は、出土した土器も新しい様相を見せるだけでなく、中央柱穴を有しないことから、SH12より少し遅れるものと考えられる。また、この時期はベッド状遺構が出現する時期でもある。第2-1期から存続するSH03はベッド状遺構をわざわざ新設しているが、この時期に建てられたSH09ではベッド状遺構を地山削り出しにより成形しており、SH09建築時には当初からベッド状遺構が計画されていたと考えられる。

第2-3小期(下川津Ⅴ式(新相)相当)では、小型方形の堅穴住居(SH14)が出現する。SH11はSH12より新しいこと、SH14と類似することからこの期に含めた。小型方形のSH02・04も同様とした。ただし、SH02はSH04・11・14に比べ4本支柱を維持していることから、若干古い様相をもっている。また、ベッド状遺構はSH14のように形骸化している。

以上のように、凹原遺跡における堅穴住居の変遷を明らかにしていった。しかしながら、周辺に所在する同時期の集落跡である日暮・松林遺跡、多肥松林や空港跡地遺跡では、凹原遺跡とは違った様相を示しており、集団単位での検討が今後必要である。

集落の変遷

堅穴住居の変遷に他の遺構を加えて、集落の変遷を平面的に表わしたのが第91図である。

第2-1小期では、北微高地に堅穴住居SH01・05が建てられ、南微高地では堅穴住居SH07・08が建てられる。南北微高地間の小谷底には水路SD03が掘削されており、南微高地にある排水用溝SD06がSD03に注いでいる。北微高地のSD02もこの時期である。なお、第2小期としたSD01がこの時期すでに掘削されている可能性もある。

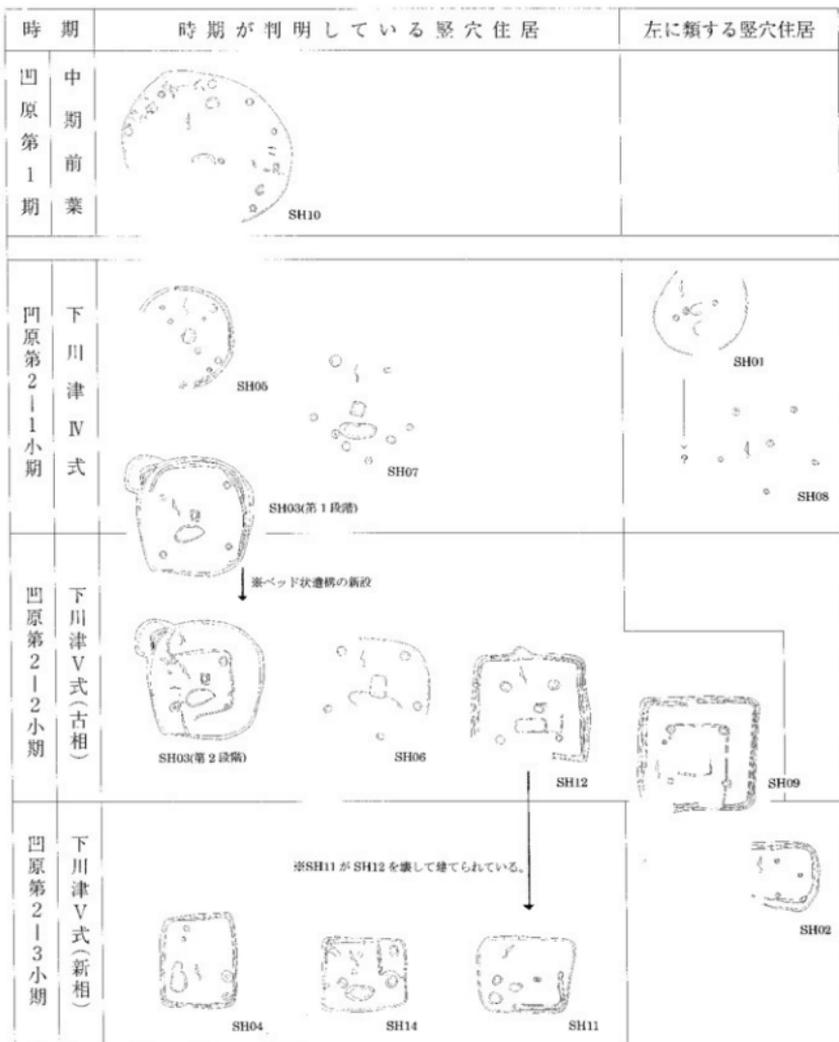
第2-2小期では、北微高地に堅穴住居SH03が第1小期末より建てられ、南微高地では堅穴住居SH06・09・12が建てられる。小谷底の水路SD03は前代から引き続いて存在している。北微高地に排水用溝SD01が掘削され、南微高地ではSD06が埋没し代わって排水用溝としてSD07が掘削される。

第2-3小期では、北微高地に堅穴住居SH02・04が建てられ、南微高地では堅穴住居SH11・14が建てられる。小谷底の水路SD03は、この時期を最期にして埋没が始まる。南北微高地の排水用溝SD01・07は、機能を失っており埋没が始まるか埋没している。

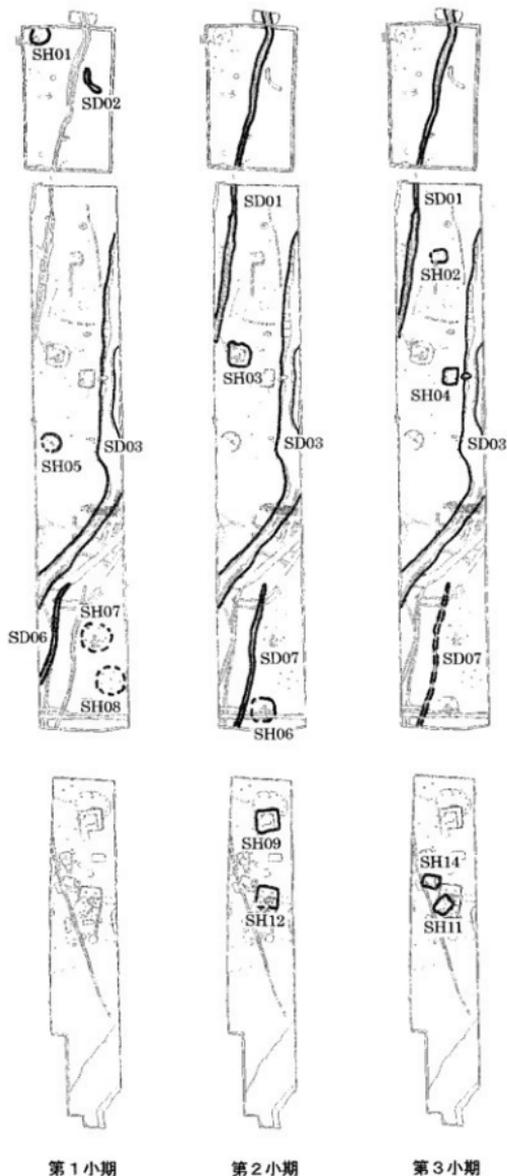
なお、SD09・21は、下川津Ⅴ式でも古相に近い土器が出土し、SH11・14と切り合っていること、SD07とも切り合う可能性があることを考えると、第2・3小期の間のごく短い期間に掘削され埋没した可能性がある。

竪穴住居のグループ化

竪穴住居は、所在地と細部の特徴からグループ化が可能である。北微高地南部にいるグループ（SH 02～05）は、他のグループと比較して第3小期まで周溝を維持している。SH 05→03→02・04と建替えを行っている可能性がある。南微高地北部にいるグループ（SH 06～08）は、5本支柱を基本としている。



第90図 竪穴住居変遷図（縮尺1/200）



第91図 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の集落変遷図（縮尺1/900）

S H07・08→06と建替えを行っている可能性がある。南微高地中央部にあるグループ（S H09・11・12・14）は、方形の平面プランをもつものばかりである。S H09・12→11・14と建替えを行っている可能性がある。以上のように、大きく分けて3グループとなる。これは、集落という一つの大きな集団を構成している小集団であり、同じ区域で住居の建替えを繰り返していることを考慮すれば、家族単位の可能性が指摘できる。

第3節 凹原遺跡周辺における弥生集落の動向

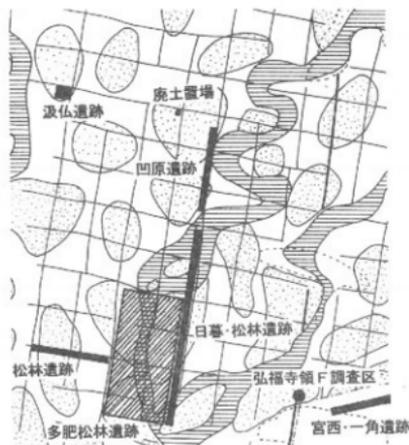
最後に、凹原遺跡周辺の弥生集落について触れる。第92図のように、凹原遺跡周辺では発掘調査が実施されている。

まず、弥生時代前期中葉（第93図）に汲込遺跡で環濠集落が出現する。その後、前期末～中期前葉にかけて凹原遺跡南微高地、宮西・一角遺跡と集落が相次いで出現するが、どれも短期間に終わる。多肥松林遺跡、松林遺跡、弘福寺領F調査区でもこの時期の遺構が見られる。

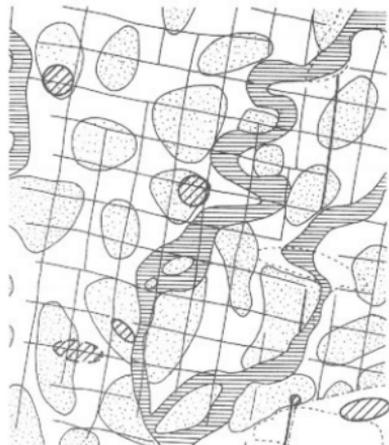
中期中葉～後葉（第94図）になると、日暮・松林遺跡、多肥松林遺跡、松林遺跡と遺跡名は分かれているが、松林地区に大規模な集落が出現する。

松林地区では、一時期集落が途絶えた後、後期中葉（第95図）に再び集落が出現し、古墳時代前期初頭まで存続している。また、凹原遺跡でも後期末～古墳時代前期初頭にか

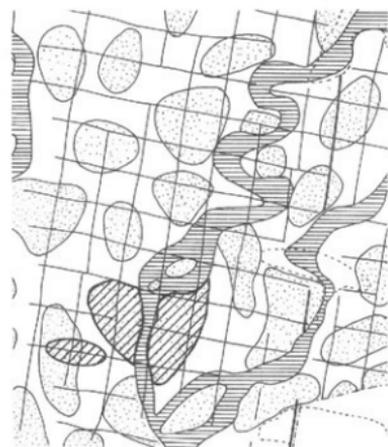
けて大規模集落が出現する。汲仏遺跡でも、同時期の集落が存在したようである。このように、弥生時代後期に多くの集落が出現するが、古墳時代前期になると集落は途絶えてしまう。集落廃絶の原因は明らかにできないが、少なくとも弥生時代では集落が絶えず移動していることがわかる。今後、未調査地域の発掘が進めば、集落の移動パターンの解明などが期待できる。



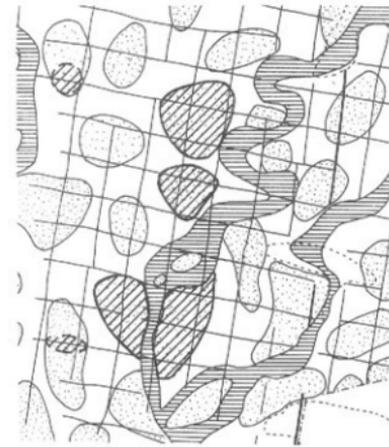
第92図 凹原遺跡周辺の遺跡位置図 (縮尺1/16,000)



第93図 弥生時代前期～中期前葉の集落



第94図 弥生時代中期中葉～後葉の集落



第95図 弥生時代後期～古墳時代前期の集落

凹原遺跡出土遺物観察表

※表頭の()は、埋蔵層を表す。

遺物番号	品名	法量 (cm)			形態・手法の特徴	色	埋蔵層	備考
		口径	胴径	高さ				
1	弥生土器	18.5		(7.7)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/6.0黄褐色 内周：10Y8/10白	石瓦、灰石を含む	口縁部内周：磨光面 口縁部外周：磨光面 器底：磨光面・灰文
2	打製石器 石鏃(石鏃)	長さ 2.80	幅 2.2	厚さ 0.4	両面研削	外周：10G5/1緑灰 内周：10Y8/10白	サメガイ	
3	打製石器 石鏃(石鏃)	長さ 3.1	幅 2.2	厚さ 0.5	両面研削	外周：10G4/1緑灰 内周：10Y8/10白	サメガイ	
4	弥生土器	17.0		(14.3)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/10白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦を含む	内外面：黒炭
5	弥生土器	18.4		(6.0)	口縁部外周：磨光面、なで 内周：なで	外周：2.5Y/1.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
6	弥生土器			(9.7)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：10Y7/3.1黄褐色	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
7	弥生土器	26.0		(11.0)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/7.3黄褐色	石瓦、灰石を含む	
8	弥生土器	32.6		(16.7)	外周：なで、磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
9	弥生土器	12.6		(6.8)	外周：なで、磨光面 内周：なで	外周：10Y7/3.1黄褐色 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
10	弥生土器	15.0		(6.7)	外周：なで 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
11	弥生土器			(6.6)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、赤色砂粒を含む	黒炭
12	弥生土器			(5.6)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：10Y8/4.3黄褐色	石瓦、灰石を含む	口縁部内周、器底
13	弥生土器	9.8		(5.0)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
14	弥生土器	19.2		(6.8)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
15	弥生土器	15.8		(9.1)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y7/3.1黄褐色 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
16	弥生土器	21.8		(3.7)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
17	弥生土器	14.4		(5.0)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：10Y8/3.1黄褐色	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
18	弥生土器	40.4		(7.8)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
19	弥生土器	8.9		(4.4)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、赤色砂粒を含む	器底：磨光面
20	弥生土器	8.4		(4.2)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
21	弥生土器	8.1		(3.4)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：10Y20/3.1黄褐色	石瓦、灰石を含む	
22	弥生土器	6.2		(2.0)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：10Y20/3.1黄褐色	石瓦、灰石を含む	
23	弥生土器	6.8		(9.3)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：10Y7/3.1黄褐色	石瓦、灰石を含む	器底：磨光面
24	弥生土器	8.8		(4.9)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
25	弥生土器	8.4		(2.3)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
26	弥生土器	6.8		(5.7)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
27	弥生土器	8.0		(5.7)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：10Y8/3.1黄褐色	石瓦、灰石、赤色砂粒を含む	
28	弥生土器	7.3		(4.6)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	器底内外面：磨光面・灰文
29	打製石器 スクレイパー	長さ 11.3	幅 7.2	厚さ 1.5	両面研削	外周：10G4/1緑灰 内周：10Y8/10白	サメガイ	
30	弥生土器	17.4		(6.1)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、角閃石を含む	
31	弥生土器	17.8		(7.9)	外周：磨光面 内周：磨光面、なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、角閃石を含む	
32	弥生土器	16.5		(4.7)	外周：磨光面 内周：磨光面、角閃石	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、角閃石、黄褐色を含む	
33	弥生土器	16.2		(2.8)	外周：磨光面 内周：磨光面	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、角閃石を含む	
34	弥生土器	体部14 25.8		(21.1)	外周：磨光面 内周：磨光面	外周：2.5Y/2.6白 内周：10Y7/3.1黄褐色	石瓦、灰石を含む	
35	弥生土器	13.4		(20.2)	外周：磨光面 内周：磨光面	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、角閃石、赤色砂粒を含む	内面：黒炭・角閃石
36	弥生土器	42.0		(12.1)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、角閃石を含む	
37	弥生土器	13.0		(5.5)	外周：磨光面 内周：磨光面	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	
38	弥生土器	11.2		3.2	外周：磨光面 内周：磨光面	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：10Y8/3.1黄褐色	石瓦、灰石を含む	口縁部磨光面
39	弥生土器	15.4		7.8	外周：磨光面 内周：磨光面	外周：2.5Y/2.6白 内周：10Y8/3.1黄褐色	石瓦、灰石、赤色砂粒を含む	
40	打製石器	長さ 13.4	幅 5.6	厚さ 2.1	両面研削	外周：10G4/1緑灰 内周：10Y8/10白	結晶質	器底の上で磨光面：浅い凹
41	弥生土器	17.0		(6.7)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、角閃石を含む	
42	弥生土器	11.4		(4.6)	外周：磨光面 内周：なで	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：10Y8/3.1黄褐色	石瓦、灰石、角閃石を含む	
43	弥生土器	15.5		(3.9)	口縁部外周：磨光面 口縁部内周：磨光面 器底：磨光面	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石、角閃石を含む	
44	弥生土器	5.6		(2.8)	外周：磨光面 内周：磨光面	外周：10Y8/3.1黄褐色 内周：10Y8/3.1黄褐色	石瓦、灰石、角閃石を含む	
45	弥生土器	3.6		(2.1)	外周：磨光面 内周：なで	外周：2.5Y/2.6白 内周：2.5Y/2.6白	石瓦、灰石を含む	

番号	品名	品種	法 量 (cm)		形 態・下部の特徴	色 澤		土 質	備 考
			門 径	厚 径		厚 高	外 面		
46	赤生土器 白片鉢		4.6	(2.4)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR7/1R10 内面：7.5YR6/1R10	石炭を含む		
47	赤生土器 小形鉢	13.4		(2.3)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/3/1-10 内面：7.5YR6/3/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
48	赤生土器 高脚鉢	22.0		(3.9)	外面：縦筋彫り 内面：厚縁	外面：5YR6/4/1-10 内面：厚縁	石炭、炭片を含む		
49	赤生土器 小形鉢	23.2		(2.7)	外面：滑り 内面：なで	外面：7.5YR6/4/1-10 内面：7.5YR6/4/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
50	赤生土器 小形鉢	13.2	5.4	7.6	外面：右上方が厚縁 内面：縦筋彫り、なで	外面：10YR6/4/1-10 内面：10YR6/3/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
51	赤生土器 小形鉢	9.0		3.5	外面：なで、縦筋毛目 内面：なで	外面：5YR6/3/1-10 内面：10YR6/4/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
52	赤生土器 鉢	17.0		(6.0)	外面：縦筋毛目 内面：厚縁	外面：10YR6/3/1-10 内面：10YR7/3/1-10	石炭、炭片を含む		
53	赤生土器 高脚鉢		4.5	(2.4)	外面：縦筋毛目 内面：なで	外面：7.5YR6/1R10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片、角閃石を含む		
54	赤生土器 高脚鉢		5.0	(4.0)	外面：右上方が厚縁 内面：縦筋彫り	外面：10YR6/4/1-10 内面：10YR6/4/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
55	赤生土器 高脚鉢		10.5	(22.3)	外面：縦筋彫り、縦筋毛目 内面：縦筋彫り、縦筋毛目	外面：10YR7/2/1-10 内面：10YR6/3/1-10	炭片、石炭を含む		
56	赤生土器 高脚鉢	19.8		(7.7)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/6R10 内面：10YR6/4/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
57	赤生土器 高脚鉢	15.2		(5.1)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/2R10 内面：10YR7/2/1-10	炭片、石炭を含む		
58	赤生土器 高脚鉢	12.3		4.7	外面：なで 内面：厚縁	外面：10YR6/3/1-10 内面：10YR6/3/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
59	赤生土器 高脚鉢			(3.8)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/3/1-10 内面：7.5YR6/3/1-10	炭片、赤褐色角閃石を含む	口縁部：割欠文	
60	赤生土器 高脚鉢		5.1	(1.7)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5YR6/4/1-10 内面：10YR6/2/1-10	石炭、炭片を含む		
61	赤生土器 高脚鉢		4.0	(3.1)	外面：縦筋毛目 内面：縦筋彫り	外面：7.5YR6/3/1-10 内面：10YR7/2/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
62	赤生土器 高脚鉢	6.0	1.5	1.5	外面：なで 内面：なで	外面：2.5YR6/2R10 内面：2.5YR6/2R10	石炭、炭片を含む		
63	赤生土器 高脚鉢	2.1		(3.1)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2/1-10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片を含む		
64	赤生土器 高脚鉢	38.6		(6.0)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR6/3/1-10 内面：10YR6/3/1-10	石炭、炭片を含む		
65	赤生土器 高脚鉢	16.6		(3.2)	口縁部外縁：厚縁 口縁部内縁：厚縁 口縁部外縁：厚縁 口縁部内縁：厚縁	外面：7.5YR6/4/1-10 内面：7.5YR6/4/1-10	石炭、炭片を含む		
66	赤生土器 高脚鉢	14.4		(8.0)	外面：内上方が厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/2R10 内面：7.5YR6/2R10	石炭を含む		
67	赤生土器 高脚鉢	19.4		7.2	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/4/1-10 内面：7.5YR6/4/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
68	赤生土器 高脚鉢	4.4		7.2	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/4/1-10 内面：7.5YR6/4/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
69	赤生土器 高脚鉢	11.0		6.0	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5YR6/1R10 内面：2.5YR6/1R10	石炭、炭片を含む		
70	赤生土器 高脚鉢	15.4	4.0	17.3	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2/1-10 内面：10YR6/1R10	炭片、石炭を含む	内面下部、外面縁部：割欠	
71	赤生土器 高脚鉢	15.4		(1.3)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/3/1-10 内面：10YR6/3/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
72	赤生土器 高脚鉢	21.4		(3.9)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/3/1-10 内面：10YR6/3/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
73	赤生土器 高脚鉢			(3.7)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/3/1-10 内面：2.5YR6/2R10	石炭、炭片を含む		
74	赤生土器 高脚鉢	13.4		(9.0)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5YR6/2R10 内面：7.5YR6/4/1-10	石炭、炭片を含む		
75	赤生土器 高脚鉢			(7.5)	外面：なで 内面：厚縁	外面：7.5YR6/1R10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片を含む		
76	赤生土器 高脚鉢		3.3	(6.6)	外面：厚縁 内面：なで	外面：10YR7/1R10 内面：10YR7/1R10	石炭、炭片を含む	縦筋彫文(横目)	
77	赤生土器 高脚鉢	16.4		(3.3)	外面：厚縁 内面：なで	外面：10YR6/2R10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片を含む	縦筋彫文(横目)	
78	赤生土器 高脚鉢			(4.0)	外面：厚縁 内面：なで	外面：10YR7/2/1-10 内面：10YR7/3/1-10	石炭、炭片を含む	山形文、波線文	
79	赤生土器 高脚鉢			(4.0)	外面：厚縁 内面：なで	外面：10YR7/2/1-10 内面：10YR7/3/1-10	石炭、炭片を含む	山形文	
80	赤生土器 高脚鉢	高さ 2.8 幅 2.3 厚 1.2		(2.8)	外面：なで 内面：厚縁	外面：5YR6/1R10 内面：5YR6/1R10	石炭、炭片、角閃石を含む		
81	赤生土器 高脚鉢		7.8	(6.3)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/4/1-10 内面：7.5YR6/4/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
82	赤生土器 高脚鉢		5.6	(4.7)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：5YR6/2/1-10 内面：7.5YR6/2/1-10	石炭、炭片、角閃石を含む		
83	赤生土器 高脚鉢		3.8	(3.1)	外面：なで、縦筋毛目 内面：厚縁	外面：10YR6/2/1-10 内面：2.5YR6/2R10	石炭、炭片を含む	縦筋彫文	
84	赤生土器 高脚鉢		3.8	(4.1)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/2R10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片、角閃石を含む	縦筋彫文	
85	赤生土器 高脚鉢		2.6	(4.1)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/2/1-10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片、角閃石を含む		
86	赤生土器 高脚鉢			(5.4)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2R10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片を含む	縦筋彫文	
87	赤生土器 高脚鉢		7.8	(2.0)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2/1-10 内面：10YR6/2R10	石炭、炭片を含む		
88	赤生土器 高脚鉢	16.2		(6.8)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/4/1-10 内面：7.5YR6/4/1-10	石炭、炭片を含む		
89	赤生土器 高脚鉢	17.0		(3.4)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2/1-10 内面：10YR6/2/1-10	石炭、炭片を含む	縦筋彫文	
90	赤生土器 高脚鉢	18.0		(8.8)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2/1-10 内面：10YR6/2/1-10	炭片を含む	縦筋彫文	
91	赤生土器 高脚鉢	14.0		(3.0)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：7.5YR6/2/1-10 内面：10YR6/2/1-10	石炭、炭片を含む		
92	赤生土器 高脚鉢	16.2		(2.7)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2R10 内面：10YR6/2/1-10	石炭、炭片を含む		

遺物番号	品 種	法 量 (cm)			形 態・手法の特徴	色	調	土	備 考
		口 径	底 径	底 径					
94	弥生土器 赤土器	14.1			外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR5/6R 内面: 7.5YR5/6R	石灰・灰石・炭粉を含む		
95	弥生土器 赤土器	16.0			外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/3C・10YR6/2C	石灰・炭石・砂粒を含む		
96	弥生土器 赤土器	17.0		(4.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5YR7/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/3C・10YR6/2C	石灰・灰石・角閃石を含む		
97	弥生土器 赤土器	22.5		(5.5)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
98	弥生土器 赤土器	17.0		(4.4)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/2R 内面: 7.5YR7/4C・10YR6/2C	石灰・灰石・角閃石を含む		
99	弥生土器 赤土器	21.8		(5.7)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR8/2C・刷毛目 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
100	弥生土器 赤土器	23.0		(5.2)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
101	弥生土器 赤土器	12.5		(6.5)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR8/2C・刷毛目 内面: 10YR8/3C・10YR6/2C	石灰・灰石・角閃石を含む		
102	弥生土器 赤土器	3.4		(4.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/1R 内面: 10YR8/3C・10YR6/2C	石灰・灰石・角閃石を含む		
103	弥生土器 赤土器	4.9		(3.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/1R 内面: 10YR8/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
104	弥生土器 赤土器	24.6		(5.2)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/1R 内面: 10YR8/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
105	弥生土器 赤土器	26.6		(5.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/1R 内面: 10YR8/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
106	弥生土器 赤土器	高さ 7.0 幅 3.9		(2.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5B6/4・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/3C	石灰・灰石・炭粉を含む	注録1表	
107	弥生土器 赤土器	17.4		(7.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR6/6R 内面: 10YR7/2C・10YR6/2C	石灰・灰石・角閃石を含む		
108	弥生土器 赤土器	7.2		(5.2)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/6R 内面: 7.5YR6/6R	石灰・灰石を含む	注録1表	
109	弥生土器 赤土器	4.0		(2.4)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
110	弥生土器 赤土器	5.6		(30.5)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/2R 内面: 2.5YR5/2R	石灰・灰石を含む		
111	弥生土器 赤土器			(7.6)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
112	弥生土器 赤土器	32.8		(9.3)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/6R 内面: 2.5YR6/6R	石灰・灰石・炭粉を含む		
113	弥生土器 赤土器	29.0		(11.5)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石・炭粉を含む		
114	弥生土器 赤土器	14.6		(2.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
115	弥生土器 赤土器	15.0		(3.4)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 5YR6/6R・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
116	弥生土器 赤土器	13.0		(3.1)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
117	弥生土器 赤土器	14.0		(2.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
118	弥生土器 赤土器	14.8		(4.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
119	弥生土器 赤土器	15.0		(5.4)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石・角閃石を含む		
120	弥生土器 赤土器	14.2		(5.2)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/3C・10YR6/2C 内面: 10YR8/2C・刷毛目	石灰・角閃石を含む		
121	弥生土器 赤土器	14.2		(7.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
122	弥生土器 赤土器	13.0		(11.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5YR6/6R・10YR6/2C 内面: 5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
123	弥生土器 赤土器	13.4		(12.6)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
124	弥生土器 赤土器			(7.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR8/1R 内面: 10YR8/1R	石灰・灰石を含む		
125	弥生土器 赤土器	20.0		(6.2)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR8/2C・刷毛目 内面: 10YR8/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
126	弥生土器 赤土器	9.9		(5.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
127	弥生土器 赤土器	14.0		(4.3)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5YR7/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む	内面は刷毛目	
128	弥生土器 赤土器	10.3		(2.8)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石・角閃石を含む		
129	弥生土器 赤土器	高さ 9.4		(4.3)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
130	弥生土器 赤土器			(1.7)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
131	弥生土器 赤土器			(1.1)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
132	弥生土器 赤土器	12.2		(3.9)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5YR6/2R 内面: 5YR6/2R・刷毛目	石灰・灰石を含む		
133	弥生土器 赤土器	18.0		(4.7)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5YR6/6R 内面: 5YR6/6R	石灰・灰石・角閃石を含む		
134	弥生土器 赤土器	21.0		(6.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR8/2C・刷毛目 内面: 10YR8/3C・刷毛目	石灰・灰石を含む		
135	弥生土器 赤土器	26.6		(5.5)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/6R 内面: 7.5YR6/6R	石灰・灰石を含む		
136	弥生土器 赤土器	16.0		(10.7)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/1R 内面: 7.5YR6/2R・10YR6/2C	石灰・灰石を含む	口縁部: 竹葉文 胴部: 刷毛目	
137	弥生土器 赤土器	18.2		(9.1)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C 内面: 10YR8/2R・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
138	弥生土器 赤土器			(5.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5YR7/4C・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C	石灰を含む		
139	弥生土器 赤土器			(8.7)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 2.5YR5/2R 内面: 2.5YR5/2R	石灰・灰石を含む	注録1表、注録2表	
140	弥生土器 赤土器			(4.5)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 10YR7/2C・10YR6/2C 内面: 10YR7/3C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
141	弥生土器 赤土器			(3.0)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 7.5YR6/4C・10YR6/2C 内面: 10YR8/2C・10YR6/2C	石灰・灰石を含む		
142	弥生土器 赤土器	高さ 4.3 幅 1.2		(5.3)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5B6/4・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/3C	サセカイ		
143	弥生土器 赤土器	高さ 2.7 幅 1.2		(0.5)	外面: 刷毛目 内面: 刷毛目	外面: 5B6/4・10YR6/2C 内面: 7.5YR6/3C	サセカイ		

動物 番号	器 種	尺 法 (cm)			形 態・寸法の特徴	色 調		備 考
		口 径	尺 法	高 度		外 面	内 面	
144	赤牛土器 高杯	14.7	0.4	14.0	外底外面：縦線白目 外底外面：白で 内面：白で 内面下半：黒褐色	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
145	赤牛土器 高杯	13.6		(4.8)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
146	赤牛土器 高杯	7.9		(4.7)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
147	赤牛土器 高杯	21.8		(2.3)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：10YR7/2.1R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、角閃石を含む	
148	赤牛土器 高杯	27.2		(12.2)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：5YR6/4R2 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
149	赤牛土器 高杯	19.8		(4.0)	外面：縦線 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
150	赤牛土器 高杯	12.0		(3.3)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：10YR7/2.1R1 内面：10YR7/2.1R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
151	赤牛土器 高杯			(6.4)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
152	赤牛土器 高杯	11.0		(6.8)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：10YR8/1.5A1 内面：5YR7/2R1	石灰、灰石を含む	
153	赤牛土器 高杯	7.2		(5.0)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：10YR6/2.5R1	石灰、灰石を含む	
154	赤牛土器 高杯	12.8		(3.3)	外面：白で 内面：白で	外面：5YR6/4R1 内面：10YR7/2.1R1	石灰、灰石を含む	
155	赤牛土器 高杯		1.4	(3.3)	外面：縦線白目 内面：白で	外面：10YR6/1.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
156	赤牛土器 高杯	14.0		(4.6)	外面：白で 内面：白で	外面：10YR6/2.1R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
157	赤牛土器 高杯	22.8		(44.0)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：10YR6/2.5R1	石灰、灰石を含む	
158	赤牛土器 高杯	28.6		(2.2)	外面：白で 内面：白で	外面：5YR6/4R1 内面：5YR7/2.1R1	石灰、灰石を含む	
159	赤牛土器 高杯	13.6	3.9	20.8	外面：縦線白目 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
160	赤牛土器 高杯	11.7	1.6	5.9	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：10YR7/2.1R1	石灰、灰石、角閃石を含む	断面：縦行著
161	赤牛土器 高杯	19.9		(16.7)	外面：白で 内面：白で	外面：5YR6/4R1 内面：5YR6/4R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
162	赤牛土器 高杯	13.3	5.4	35.0	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
163	赤牛土器 高杯	15.2		19.2)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
164	赤牛土器 高杯	13.9		(12.8)	外面：白で 内面：白で	外面：5YR7/2.1R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
165	赤牛土器 高杯	18.0		(15.0)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	
166	赤牛土器 高杯	29.2		(18.3)	外面：白で 内面：白で	外面：5YR6/4R1 内面：5YR6/4R1	石灰、灰石を含む	断面：縦行著
167	赤牛土器 高杯	15.3		(2.1)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	灰石を含む	
168	赤牛土器 高杯	20.7		(6.0)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
169	赤牛土器 高杯	3.6		(5.0)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	断面
170	赤牛土器 高杯	18.0	6.0	30.1	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：10YR7/1.5R1	石灰、灰石、角閃石を含む	断面：縦行著
171	赤牛土器 高杯	12.7	4.9	21.3	外面：白で 内面：白で	外面：5YR7/2.1R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	断面：縦行著
172	赤牛土器 高杯	13.4		(1.9)	外面：白で 内面：白で	外面：10YR7/2.1R1 内面：2.5YR/2.5R1	灰石を含む	
173	赤牛土器 高杯	22.0		(21.6)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母を含む	
174	赤牛土器 高杯	13.9		(17.4)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
175	赤牛土器 高杯	14.2		(29.4)	外面：白で 内面：白で	外面：10YR6/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、角閃石を含む	
176	赤牛土器 高杯	14.8		(19.0)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
177	赤牛土器 高杯	13.3		(10.6)	外面：白で 内面：白で	外面：5YR7/2R1 内面：5YR6/4R1	石灰、灰石、角閃石を含む	
178	赤牛土器 高杯	15.8		(2.9)	外面：白で 内面：白で	外面：10YR7/2.1R1 内面：10YR7/2.1R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
179	赤牛土器 高杯	13.7		(3.3)	外面：白で 内面：白で	外面：10YR7/2.1R1 内面：10YR7/2.1R1	石灰、灰石、雲母、角閃石を含む	
180	赤牛土器 高杯	15.2	3.8	(7.8)	外面：白で 内面：白で	外面：10YR7/2.1R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、雲母を含む	
181	赤牛土器 高杯	4.8		(6.5)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石、雲母を含む	断面
182	赤牛土器 高杯	3.2		(5.8)	外面：白で 内面：白で	外面：10YR7/2.1R1 内面：2.5YR/2.5R1	石灰、灰石を含む	断面
183	赤牛土器 高杯	16.1		(6.8)	外面：白で 内面：白で	外面：2.5YR/2.5R1 内面：5YR6/4R1	石灰、雲母、角閃石を含む	

造形番号	部 種	法 規 (mm)			形造・手法の特徴	色 調	取 上	備 考
		口 径	底 径	高				
184	弥生土器 広口壺			(7.7)	口縁部外周：縁立で口縁内周：縁立で口縁部内周：縁立で 体部：手外周：平内周：面取直線	外周：10YR7/2C-201黄緑 内周：10YR7/2C-201黄緑	灰石・黄砂を含む	
185	弥生土器 小口壺	17.3		32.8	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で 体部：手外周：平内周：面取直線 口縁部内周：縁立で 体部：手外周：平内周：面取直線 口縁部内周：縁立で 体部：手外周：平内周：面取直線	外周：7.5YR7/4C-201黄緑 内周：7.5YR7/4C-201黄緑	灰石、灰石、赤土、角閃石を含む	灰石、赤土、角閃石を含む
186	弥生土器 広口壺		22.6	(19.6)	外周：縁立で、面取直線 内周：面取直線、面取直線	外周：2.5YR7/6黄 内周：10YR7/2C-201黄緑	灰石、灰石、赤土、角閃石を含む	外周：面取直線、面取直線を含む
187	弥生土器 広口壺	22.6		(12.7)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：5YR7/6黄 内周：20YR8/2灰白	灰石、赤土を含む	
188	弥生土器 広口壺	22.8		(2.7)	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：10YR7/4C-201黄緑 内周：7.5YR7/4C-201黄緑	灰石、灰石、角閃石を含む	口縁部外周：無縁
189	弥生土器 広口壺	23.8		(2.0)	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で 体部外周：縁立 口縁部内周：縁立で 体部内周：縁立で 面取直線	外周：10YR8/4C-201黄緑 内周：10YR8/2C-201黄緑	灰石、灰石、角閃石を含む	
190	弥生土器 有口壺	28.4		(11.9)	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で 口縁部内周：縁立で	外周：7.5YR6/4C-201黄緑 内周：7.5YR6/4C-201黄緑	灰石、灰石、赤土、角閃石を含む	
191	弥生土器 甕 広口壺	9.2		(16.7)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：2.5YR7/6黄 内周：5YR7/6黄	灰石、石灰を含む	
192	弥生土器 甕	5.0	26.1		外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：10YR2/6黄 内周：2.5YR7/2C-201黄緑	赤土、黒土、黄砂、角閃石を含む	体部から底部外周：面取直線
193	弥生土器 甕	15.0		(18.9)	体部：縁立で、面取直線 口縁部：縁立で、面取直線 体部：手外周：平内周：面取直線	外周：7.5YR7/4C-201黄緑 内周：10YR8/2C-201黄緑	灰石、石灰を含む	
194	弥生土器 甕 広口壺	17.4		(8.3)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：7.5YR6/6黄 内周：10YR8/2C-201黄緑	灰石、石灰、赤土、角閃石を含む	
195	弥生土器 甕	15.0		(16.7)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：5YR7/6黄 内周：5YR7/6黄	灰石を含む	
196	弥生土器 甕	15.6		(12.5)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：7.5YR7/4C-201黄緑 内周：2.5YR7/2C-201黄緑	灰石、石灰、角閃石を含む	
197	弥生土器 甕	14.2		(5.6)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：10YR7/4C-201黄緑 内周：10YR7/4C-201黄緑	灰石、石灰、黄砂、角閃石を含む	
198	弥生土器 甕	15.7	3.4	26.0	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：2.5YR7/6黄 内周：7.5YR7/4C-201黄緑	灰石、石灰、黄砂、角閃石を含む	体部から底部：黒土
199	弥生土器 甕	14.2	2.0	21.9	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：5YR6/6黄 内周：5YR6/6黄	灰石、石灰、黄砂、角閃石を含む	
200	弥生土器 甕	13.3		(15.1)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：10YR8/2C-201黄緑 内周：10YR8/2C-201黄緑	灰石、灰石、赤土、角閃石を含む	体部から底部：無縁
201	弥生土器 甕	11.7		(12.3)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：2.5YR7/6黄 内周：2.5YR7/6黄	灰石、赤土を含む	外周：面取直線
202	弥生土器 甕	14.8		(20.9)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：5YR7/6黄 内周：2.5YR7/2C-201黄緑	灰石、石灰を含む	
203	弥生土器 甕	15.5	2.8	(18.3)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：2.5YR6/8黄 内周：10YR7/6黄	灰石、石灰等を含む	底部：面取直線
204	弥生土器 甕	10.7	3.4	15.0	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：5YR7/6黄 内周：5YR6/6黄	灰石、石灰を含む	体部：手外周：縁立
205	弥生土器 甕	8.3		7.1	外周：面取直線 内周：面取直線、面取直線	外周：7.5YR7/2C-201黄緑 内周：2.5YR7/6黄	灰石、黄砂を含む	外周：面取直線
206	弥生土器 甕	10.9		(8.9)	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で 体部外周：縁立で	外周：10YR7/2C-201黄緑 内周：10YR7/2C-201黄緑	灰石、石灰を含む	
207	弥生土器 甕	11.0		(16.0)	外周：縁立で、面取直線 体部：手外周：縁立で、面取直線 口縁部：縁立で、面取直線	外周：5YR7/6黄 内周：2.5YR7/6黄	灰石、石灰等を含む	
208	弥生土器 甕		3.0	(23.0)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：5YR7/6黄 内周：5YR7/2黄緑	灰石、石灰を含む	体部下面から底部：黒土
209	弥生土器 甕	16.5	4.0	18.0	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：2.5YR7/6黄 内周：2.5YR7/6黄	灰石、石灰等を含む	口縁部：面取直線
210	弥生土器 甕	15.2		(20.4)	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で 体部外周：縁立で	外周：10YR8/2C-201黄緑 内周：10YR8/2C-201黄緑	赤土を含む	
211	弥生土器 甕 広口壺	3.0		(8.0)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：2.5YR7/6黄 内周：2.5YR7/6黄	石灰を含む	
212	弥生土器 甕			(8.1)	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で 体部外周：縁立で	外周：2.5Y7/2黄 内周：2.5YR7/2C-201黄緑	灰石、石灰を含む	
213	弥生土器 甕	14.0		(2.4)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：2.5YR7/6黄 内周：5Y7/16C	灰石、石灰等を含む	
214	弥生土器 甕	18.0		(2.1)	口縁部外周：縁立で、面取直線 口縁部内周：縁立で	外周：2.5YR7/6黄 内周：7.5YR7/4C-201黄緑	灰石、石灰、黄砂を含む	
215	弥生土器 甕			(5.9)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：2.5YR7/6黄 内周：2.5YR7/6黄	灰石を含む	
216	弥生土器 甕			(5.7)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：10YR7/2C-201黄緑 内周：2.5Y7/2黄	灰石、石灰を含む	
217	弥生土器 甕	4.4		(3.1)	口縁部外周：縁立で口縁部内周：縁立で 体部外周：縁立で 体部内周：縁立で	外周：7.5YR7/2C-201黄緑 内周：10YR8/2C-201黄緑	灰石、石灰、黄砂、角閃石を含む	
218	弥生土器 小型壺	8.6	2.3	4.8	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：10YR7/2C-201黄緑 内周：10YR8/2C-201黄緑	灰石、石灰等を含む	
219	弥生土器 甕	16.4	2.0	11.0	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：5YR7/4C-201黄緑 内周：5YR7/4C-201黄緑	灰石、石灰等を含む	底部内周：面取直線
220	弥生土器 甕	20.2	5.0	12.0	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：5YR7/6黄 内周：7.5YR7/4C-201黄緑	灰石、石灰、黄砂、角閃石を含む	
221	弥生土器 甕			(3.3)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：10YR8/4C-201黄緑 内周：10YR8/4C-201黄緑	灰石、石灰等を含む	黒土
222	弥生土器 甕			(1.5)	外周：縁立で、面取直線 内周：縁立で、面取直線	外周：10YR8/4C-201黄緑 内周：10YR8/4C-201黄緑	灰石、石灰等を含む	
223	弥生土器 甕	19.4		(2.3)	外周：平内周：縁立で口縁部内周：縁立で	外周：5YR6/4C-201黄緑 内周：7.5YR6/4黄	灰石、石灰等を含む	

番号	器種	法重 (kg)			形制・手法の特徴	色調	動主	備考
		口径	高さ	底径				
224	吹生土器 高杯	12.0			口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹 口縁部内周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
225	吹生土器 短頸杯	24.6			口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹 口縁部内周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	黒斑
226	吹生土器 高	13.0			口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
227	吹生土器 高	12.9			口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹 口縁部内周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
228	吹生土器 高	15.8			口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹 口縁部内周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
229	吹生土器 高杯	24.8			口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	口縁部から杯部内面：黒斑
230	吹生土器 高杯		16.0		口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	同形透かし
231	吹生土器 高杯	25.7	18.1	18.6	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	頸部部・頸部部：3箇所の透かし
232	吹生土器 大形杯	41.6		17.1	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	外周：黒斑
233	吹生土器 大形杯	49.6		(19.0)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
234	吹生土器 大形杯	28.9	6.7	(41.0)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
235	吹生土器 大口壺	12.7		(11.6)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
236	吹生土器 大口壺	17.8		(6.8)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
237	吹生土器 大口壺	16.0		(5.4)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石を含む	
238	吹生土器 大口壺		5.6	26.7	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
239	吹生土器 大口壺	11.4		(3.2)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
240	吹生土器 高	13.0		(7.3)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
241	吹生土器 高	14.0		(8.1)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石を含む	
242	吹生土器 高	14.3		(4.5)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
243	吹生土器 高	15.3		(12.4)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	杯部：透かし
244	吹生土器 高	13.6		(12.4)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
245	吹生土器 高	13.2		(7.4)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	石英・長石を含む	
246	吹生土器 高	17.0		(7.9)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：5X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石を含む	
247	吹生土器 高	17.2		(6.0)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
248	吹生土器 高	14.8		(10.0)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	
249	吹生土器 高	16.4		(8.0)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英を含む	
250	吹生土器 高	22.7		(6.5)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石・金 箔片を含む	
251	吹生土器 高	14.0		(6.3)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	石英・長石・角閃石を含む	
252	吹生土器 高	23.4		(4.6)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：10X87/41.2の1縹 内周：7.5X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石を含む	頸部部・長石・角閃石・金 箔片を含む
253	吹生土器 高	23.8		(3.5)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：7.5X87/41.2の1縹 内周：10X87/41.2の1縹	長石・石英・角閃石・金 箔片を含む	
254	吹生土器 高	7.8		(3.4)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：2.5X7/25縹 内周：3.5X7/25縹	長石・石英を含む	
255	吹生土器 高	7.8		(2.0)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：2.5X7/25縹 内周：3.5X7/25縹	石英を含む	
256	吹生土器 高	5.4		(5.3)	口縁部外周：縹で 内周：縹 内面：縹	外周：2.5X7/25縹 内周：3.5X7/25縹	石英を含む	

遺物番号	部 種	寸法 (cm)			形態・手法の特徴	色 調	動 土	備 考
		口 径	口 径	底 径				
257	弥生土器 高脚杯	4.4		(4.0)	外面：なで、磨面 内面：なで、刷毛目	外面：2.5YR6/6R 内面：2.5YR6/6R	灰石・石膏、金型等を 含む	
258	弥生土器 高脚杯	3.0		(4.5)	外面：なで、刷毛目 内面：なで、刷毛目	外面：2.5YR8/3R 内面：2.5YR7/2.5R	灰石・石膏等を含む	外面：刷毛
259	弥生土器 高脚杯	4.0		(3.4)	外面：厚縁 内面：刷毛目	外面：2.5YR8/2R 内面：2.5YR8/2R	灰石を含む	
260	弥生土器 高脚杯	3.5		(3.2)	外面：厚縁 内面：刷毛目	外面：10YR37/2.1 内面：2.5YR8/2R	灰石・灰石・角閃石を含む	
261	弥生土器 高脚杯			(4.0)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR5/1 内面：10YR8/3.5	石膏・薬石を含む	
262	弥生土器 高脚杯	4.8		(5.1)	外面：厚縁 内面：なで	外面：10YR37/2.1 内面：10YR8/2.5	灰石・石膏・薬石を含む	
263	弥生土器 高脚杯	5.8		(2.6)	外面：厚縁 内面：なで	外面：10YR5/2.1 内面：10YR8/3.5	灰石・角閃石、花崗岩を含む	外面：刷毛
264	弥生土器 高脚杯	5.6		(3.1)	外面：厚縁 内面：なで、磨面	外面：5Y2.2/2.5 内面：2.5YR8/2.1	灰石・灰石・角閃石を含む	
265	弥生土器 高脚杯	16.2		(3.8)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：なで	外面：10YR5/2.1 内面：10YR8/3.5	石膏・薬石を含む	
266	弥生土器 高脚杯	13.2		(8.0)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：なで、磨面	外面：10YR5/2.1 内面：10YR8/3.5	石膏・薬石を含む	
267	弥生土器 高脚杯			(10.2)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5YR6/4R 内面：10YR4/3	石膏を含む	
268	弥生土器 高脚杯	11.4		(6.3)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：なで	外面：10YR6/2.1 内面：10YR8/2.1	灰石・角閃石等を含む	
269	弥生土器 高脚杯	11.0		(9.2)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：なで	外面：2.5YR6/6R 内面：10YR5/2.5	灰石・灰石・角閃石、薬 石を含む	
270	弥生土器 高脚杯	13.4		(8.7)	外面：なで、刷毛目 内面：なで、磨面	外面：10YR6/2.1 内面：2.5YR6/2.1	灰石・石膏・薬石を含む	
271	弥生土器 高脚杯	16.0		(5.3)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：なで	外面：2.5YR6/4R 内面：2.5YR6/4R	灰石、石膏、薬石を含む	
272	弥生土器 高脚杯	17.6		(3.2)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：なで	外面：2.5YR7/4.1 内面：2.5YR7/4.1	灰石を含む	
273	弥生土器 小瓶	7.8		2.1	外面：厚縁 内面：なで	外面：10YR5/2.1 内面：2.5YR8/2.1	灰石、灰石を含む	外面：刷毛
274	弥生土器 小瓶	3.4		(5.1)	外面：厚縁 内面：なで	外面：2.5YR7/4.1 内面：2.5YR7/4.1	石膏、灰石、角閃石を含む	
275	弥生土器 高脚杯			2.1 (7.0)	外面：厚縁、刷毛目 内面：磨んで、磨面	外面：10YR7/2.1 内面：10YR7/2.1	石膏、灰石、金型等を 含む	外面：刷毛
276	弥生土器 高脚杯	4.2		(5.3)	外面：厚縁 内面：刷毛目	外面：2.5YR8/2.1 内面：2.5YR8/2.1	灰石、灰石・薬石等を含む	
277	弥生土器 高脚杯	4.2		(4.4)	外面：厚縁 内面：なで	外面：2.5YR7/2.5 内面：10YR7/2.1	灰石、石膏を含む	
278	弥生土器 高脚杯	5.9		(2.4)	外面：厚縁 内面：なで	外面：2.5YR6/2.1 内面：2.5YR6/2.1	灰石、石膏を含む	
279	弥生土器 高脚杯	18.0		(8.8)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：磨んで、なで	外面：10YR6/4.1 内面：2.5YR8/4.1	石膏、角閃石、薬石を含む	
280	弥生土器 高脚杯	16.2		(6.0)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：磨面	外面：10YR6/4.1 内面：2.5YR8/4.1	灰石、角閃石、薬石を含む	
281	弥生土器 高脚杯	31.4		(2.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：10YR8/4.1 内面：2.5YR8/2.1	灰石、石膏を含む	口縁部外面：刷毛
282	弥生土器 高脚杯			(4.8)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR5/2.5 内面：10YR4/1	灰石、石膏を含む	口縁部外面：刷毛
283	弥生土器 高脚杯	22.0		(5.3)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：なで	外面：10YR5/2.1 内面：10YR8/3.5	石膏を含む	
284	弥生土器 高脚杯	16.5		(6.4)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：刷毛目 口縁部内面：磨んで 器内内面：磨面	外面：2.5YR6/4.1 内面：2.5YR6/4.1	石膏、灰石、角閃石を含む	
285	弥生土器 小瓶	3.6		5.6	口縁部外面：厚縁 厚縁外面：なで 口縁部内面：磨んで 器内内面：刷毛目	外面：2.5YR8/2.1 内面：10YR7/2.1	灰石、石膏を含む	内面：刷毛
286	弥生土器 高脚杯	20.6		7.2	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：なで、刷毛目 口縁部内面：磨んで 器内内面：刷毛目	外面：10YR8/2.5 内面：10YR8/2.5	灰石、石膏を含む	外面：刷毛
287	弥生土器 高脚杯	12.1		(4.9)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5YR6/6R 内面：2.5YR6/6R	石膏、灰石、角閃石、薬 石を含む	
288	弥生土器 高脚杯	21.8		(4.8)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：刷毛目 口縁部内面：磨んで 器内内面：磨面	外面：10YR6/2.1 内面：10YR8/3.5	灰石、石膏、薬石を含む	
289	弥生土器 高脚杯			(4.7)	口縁部外面：磨んで 厚縁外面：磨面 口縁部内面：磨んで 器内内面：磨面	外面：10YR8/2.1 内面：10YR8/3.5	灰石、石膏、薬石を含む	
290	弥生土器 高脚杯			(6.4)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/2.1 内面：10YR8/3.5	石膏、灰石、角閃石を含む	
291	弥生土器 小瓶	1.6		(4.8)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5YR7/2.1 内面：10YR8/2.1	灰石・角閃石、金型等 を含む	
292	磨石	長さ 6.8		幅 4.1	厚さ 3.7	外面：N6/R1	石膏	
293	弥生土器 大加	33.8		22.0	口縁部外面：厚縁 厚縁外面：厚縁 口縁部内面：厚縁 器内内面：厚縁	外面：2.5YR7/2.1 内面：10YR7/2.1	石膏、灰石、角閃石を含む	

番号	品名	法 尺 (cm)			形態・寸法の特徴	色 調		備 考
		口 径	厚 げ	高 さ		外 色	内 色	
254	赤生土器 甕	13.2		(22.7)	外色：黄褐色 口縁部内面：緑色で 残存下部内面：黒褐色	外色：7.5/97/6 内面：3/98/6/104	長石・石英・花崗岩等を 含む	体部外面：黒褐色
295	赤生土器 甕			(12.8)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/11-2/11 内面：10/98/2/11-2/11	石質・長石・角閃石・雲 母を含む	
295	赤生土器 甕	22.3		(34.0)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/3/1-2/11 内面：7.5/98/3/1-2/11	石質・長石・角閃石を含む	
297	赤生土器 甕	7.2	(6.8)		外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：10/98/1/1 内面：10/98/1/1	長石・花崗岩を含む	
298	赤生土器 甕	4.7	(4.1)		外色：緑色で 内面：黄褐色	外色：10/98/3/1-2/11 内面：10/98/3/1-2/11	石英・長石を含む	外面：黒褐色
299	赤生土器 甕	5.0	(2.7)		外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：7.5/98/1/1 内面：7.5/98/1/1	小石を含む	
300	赤生土器 甕	4.2	(3.2)		外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：10/98/1/1 内面：10/98/2/1	石英を含む	
301	赤生土器 甕	5.0	(2.1)		外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：7.5/98/3/1-2/11 内面：7.5/98/3/1-2/11	石質を含む	
302	赤生土器 甕	2.8	(2.8)		外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：10/98/2/1-2/11	石英・長石・角閃石を含む	外面：黒褐色
303	赤生土器 甕	2.4	(2.3)		外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：10/98/3/1-2/11 内面：10/98/3/1-2/11	石英・長石を含む	
304	赤生土器 甕	6.4	(3.3)		体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：10/98/4/1-2/11 内面：10/98/4/1-2/11	小石を含む	
305	赤生土器 甕	17.0		(14.6)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：10/98/2/1-2/11	長石・石英・角閃石・雲 母を含む	
306	赤生土器 甕			(6.2)	体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：10/98/2/1-2/11	石英・長石・角閃石を含む	体部外面：黄褐色
307	赤生土器 甕	13.8		(4.3)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/4/1-2/11 内面：10/98/4/1-2/11	長石・角閃石・雲母を含 む	
308	赤生土器 三つ又土器	10.0		(5.6)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：7.5/97/2/1-2/11 内面：7.5/97/2/1-2/11	長石・石英を含む	
309	赤生土器 甕		8.5	(5.5)	体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：10/98/1/1 内面：10/98/1/1	長石・石英を含む	
310	赤生土器 甕		5.0	(3.3)	体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/2/1 内面：7.5/98/2/1	石質を含む	
311	赤生土器 甕	体部径 16.2		(6.4)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/3/1-2/11 内面：2/98/4/1-2/11	長石・石英を含む	体部外面：黄褐色
312	赤生土器 甕	9.8		(9.3)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：10/98/2/1-2/11	長石・石英を含む	体部外面：黄褐色
313	赤生土器 甕	16.4		(6.0)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/4/1-2/11 内面：2/98/4/1-2/11	長石・石英を含む	
314	赤生土器 甕	18.0		(2.1)	外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：10/98/3/1-2/11 内面：10/98/3/1-2/11	長石・石英を含む	口縁部：緑褐色
315	赤生土器 甕	17.3		(6.8)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/4/1-2/11 内面：7.5/98/4/1-2/11	長石・石英を含む	
316	赤生土器 甕	13.0		(8.4)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/3/1-2/11 内面：2/98/4/1-2/11	長石・角閃石を含む	
317	赤生土器 甕	16.1		(7.1)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/1/1 内面：2.5/97/6/8	長石・石英を含む	
318	赤生土器 甕		9.0	(3.8)	体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：7.5/97/8/8 内面：10/98/4/1-2/11	石英を含む	
319	赤生土器 甕		13.0	(5.3)	体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：10/98/1/1 内面：10/98/2/1	石英を含む	
320	赤生土器 甕			(4.1)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：2.5/98/3/1-2/11	長石・石英を含む	
321	赤生土器 小砂甕	2.6		(6.9)	体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：10/98/2/1-2/11	長石・角閃石を含む	体部内面：黒褐色
322	赤生土器 小型鉢	4.2		(5.0)	体部外面：黄褐色 口縁部外面：黄褐色 口縁部内面：黄褐色 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/3/1-2/11 内面：7.5/98/3/1-2/11	石英・角閃石・雲母を含 む	体部下面4箇所に 鉄質の跡
323	赤生土器 甕	2.6		(3.0)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：10/98/2/1-2/11	長石・雲母を含む	
324	赤生土器 甕		3.2	(2.3)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/2/1 内面：7.5/98/2/1	石英・雲母・角閃石を含 む	
325	赤生土器 甕	20.0		17.5	外色：黄褐色 内面：黄褐色	外色：2.5/97/3/8赤褐色 内面：2.5/97/3/8赤褐色	長石・石英を含む	体部：黒褐色
326	赤生土器 甕	24.9		(3.0)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：7.5/98/2/1 内面：5/98/2/1	長石・石英を含む	
327	赤生土器 甕	15.0		(3.0)	口縁部外面：緑色で 体部外面：黄褐色 口縁部内面：緑色で 体部内面：黄褐色	外色：10/98/2/1-2/11 内面：10/98/2/1-2/11	石英・長石・角閃石を含 む	

動物番号	種	法 量 (cm)			形態、手法の特徴	色 調	新 上	備 考
		肩 高	体 長	尾 長				
328	赤牛十郎 高松	21.0		(4.7)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：50YR3/21:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石、雲母を含む	
329	赤牛十郎 大宮	42.0		(7.0)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：2.5YR7/21:2.0+縷	石灰、角閃石、雲母を含む	
330	赤牛十郎 成田		3.8	(4.0)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：50YR3/21:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石を含む	
331	赤牛十郎 成田			(5.0)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：2.5Y7/21		外周：縷赤縷赤、縷赤
332	赤牛十郎 成田	18.6		(8.3)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：10YR7/21:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石を含む	体毛内周：縷赤縷赤、縷赤縷赤
333	赤牛十郎 成田	26.4		(9.2)	外周：縷赤縷赤、縷赤 内周：縷赤	外周：10YR6/21:2.0+縷 内周：10YR7/21:2.0+縷	石灰、石灰を含む	外周：縷赤縷赤、縷赤
334	赤牛十郎 成田	31.4		(14.0)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：2.5YR6/41:2.0+縷	石灰、石灰を含む	外周：縷赤縷赤、縷赤
335	赤牛十郎 成田	体部延 17.9		(14.0)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR6/21:2.0+縷 内周：10YR6/21:2.0+縷	石灰、雲母を含む	体毛内周：縷赤縷赤
336	赤牛十郎 成田		2.4	(7.0)	体毛内周：縷赤 口縁部外周：縷赤 内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：2.5YR6/41:2.0+縷	石灰、角閃石を含む	
337	赤牛十郎 成田			(4.2)	体毛内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR6/21:2.0+縷 内周：10YR6/21:2.0+縷	石灰、石灰、雲母を含む	
338	赤牛十郎 成田	18.0		(6.2)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：2.5YR6/31:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石、雲母を含む	
339	赤牛十郎 成田			(4.2)	体毛内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR6/21:2.0+縷 内周：10YR6/21:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石、雲母を含む	
340	赤牛十郎 成田	34.0		(4.1)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：2.5YR6/41:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石、雲母を含む	
341	赤牛十郎 成田		7.5	(2.8)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：10YR6/21:2.0+縷	石灰、石灰を含む	
342	赤牛十郎 成田		3.3	(4.0)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：2.5YR6/21:2.0+縷 内周：2.5YR6/21:2.0+縷	石灰を含む	
343	赤牛十郎 成田	体部延 10.8		(14.2)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：10YR7/21:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石、雲母を含む	
344	赤牛十郎 成田	16.0		(17.8)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：2.5YR6/21:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石を含む	体毛内周：縷赤
345	赤牛十郎 成田	体部延 20.0		(18.4)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：2.5YR6/21:2.0+縷 内周：10YR6/21:2.0+縷	石灰、角閃石、雲母を含む	
346	赤牛十郎 成田	20.4		(5.5)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/31:2.0+縷 内周：10YR6/31:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石を含む	
347	赤牛十郎 成田		7.0	(4.6)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR6/21:2.0+縷 内周：2.5YR6/21:2.0+縷	石灰、石灰を含む	
348	赤牛十郎 成田	15.0		(8.1)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR6/41:2.0+縷 内周：10YR6/41:2.0+縷	石灰、赤石を含む	
349	赤牛十郎 成田	12.6		(8.3)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/21:2.0+縷 内周：2.5YR6/21:2.0+縷	石灰、赤石を含む	内周：縷赤
350	赤牛十郎 成田	13.6		(14.1)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/21:2.0+縷 内周：10YR6/21:2.0+縷	石灰を含む	
351	赤牛十郎 成田	4.2		(2.8)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR6/21:2.0+縷 内周：2.5YR6/21:2.0+縷	石灰、雲母を含む	
352	赤牛十郎 成田	30.0		3.0	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR6/41:2.0+縷 内周：10YR6/21:2.0+縷	石灰、角閃石、雲母を含む	口縁部内周：縷赤縷赤
353	赤牛十郎 成田	21.6		(7.3)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/8 内周：2.5YR6/41:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石を含む	
354	赤牛十郎 成田	12.8		(5.5)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：2.5YR6/41:2.0+縷	石灰を含む	
355	赤牛十郎 成田		2.8	(2.9)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：2.5YR6/41:2.0+縷	石灰、角閃石、雲母を含む	
356	赤牛十郎 成田	29.6		(6.5)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：5YR5/41:2.0+縷 内周：2.5YR6/21:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石、雲母を含む	
357	赤牛十郎 成田	18.8		(7.7)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：5YR5/41:2.0+縷	石灰、赤石、角閃石を含む	体毛内周：縷赤縷赤、縷赤縷赤
358	赤牛十郎 成田	5.8		(5.0)	外周：縷赤 内周：縷赤	外周：10YR7/21:2.0+縷 内周：10YR7/21:2.0+縷	石灰を含む	
359	赤牛十郎 成田	11.0		(10.9)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/21:2.0+縷 内周：2.5YR6/21:2.0+縷	石灰、赤石を含む	
360	赤牛十郎 成田	15.0		(8.1)	口縁部外周：縷赤で 体毛内周：縷赤 口縁部内周：縷赤 体毛内周：縷赤	外周：2.5YR6/41:2.0+縷 内周：2.5YR6/11:2.0+縷	石灰、赤石、雲母を含む	

産物	部 種	決 量 (cm)			形 質、寸法の特徴	色 調	断 上	備 考
		口 径	汎 径	高 度				
381	引手土器 鉢	13.6		(6.2)	口縁部外周：縷文で 膝上・下半部：縷毛目 縷文・縷毛目 体部：半円蓋、蓋取付	外面：10YR2/21・L1黄緑 内面：10YR2/21・L1黄緑	石炭、灰石を含む	
382	引手土器 蓋	14.8		(5.8)	外面：厚縁 内面：縷文で、蓋で	外面：7.5YR5/41・L1黄 内面：7.5YR5/21・L1黄	石炭、灰石を含む	
383	引手土器 蓋	16.0		(1.8)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：7.5YR5/21・L1黄 内面：7.5YR2/31・L1黄	石灰、雲母を含む	
384	引手土器 蓋	15.2		(2.6)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：10YR8/41・L1黄緑 内面：10YR8/41・L1黄緑	灰石を含む	
385	引手土器 灰皿	10.4		(9.6)	口縁部外周：縷文で 体部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：10YR8/21・L1黄緑 内面：10YR8/21・L1黄緑	石灰、灰石を含む	外面：縷文
386	引手土器 鉢	18.5	7.4	8.2	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR6/31・L1黄緑 内面：10YR6/31・L1黄緑	灰石、角閃石を含む	
387	引手土器 蓋			(8.1)	体部：上半部：縷文で 下半部：縷文で	外面：10Y2/21・L1黄緑 内面：10Y2/21・L1黄緑	石灰、灰石を含む	外面：縷文 下半部：縷文
388	引手土器 小鉢	4.9		(3.2)	外面：厚縁 体部内面：蓋で	外面：7.5YR5/21・L1黄 内面：7.5YR5/21・L1黄	長石、角閃石を含む	
389	引手土器 高鉢			(2.5)	外面：厚縁 内面：縷毛目	外面：2.5Y8/11白 内面：2.5Y8/11白	石灰、灰石を含む	
390	引手土器 鉢			(4.0)	外面：厚縁 内面：縷文	外面：10YR8/21・L1黄緑 内面：10YR8/21・L1黄緑	石灰、灰石を含む	
391	引手土器 高鉢	21.9	15.0	15.3	外面：厚縁 内面：縷文	外面：7.5YR5/21・L1黄 内面：7.5YR5/21・L1黄	石灰、灰石、角閃石を含む	内径L×L(断面)X2層
392	引手土器 鉢	20.0		(5.6)	口縁部外周：蓋で 口縁部内面：蓋で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：7.5YR4/31黄 内面：7.5YR5/41・L1黄	石灰、灰石、角閃石、雲 母を含む	
393	引手土器 鉢	42.0		(7.4)	外面：縷文で、蓋取付 内面：縷文で、蓋取付	外面：7.5YR5/6黄 内面：7.5YR5/6黄	石灰、長石、角閃石、雲 母を含む	
394	引手土器 鉢		5.4	(8.2)	体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：7.5YR6/21・L1黄 内面：10YR6/21・L1黄	花崗岩、長石を含む	
395	引手土器 鉢		2.0	(4.8)	体部外周：縷文で、蓋で 体部内面：縷文で	外面：2.5Y7/21黄 内面：2.5Y7/21黄	花崗岩、長石、角閃石を 含む	
396	引手土器 鉢		1.7	(6.9)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5Y7/21黄 内面：2.5Y7/21黄	石灰、灰石を含む	
397	引手土器 鉢		6.0	(8.4)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：2.5Y6/21黄 内面：2.5Y6/21黄	石灰、灰石を含む	
398	引手土器 鉢		7.0	(5.2)	外面：蓋で 内面：蓋で	外面：2.5Y6/6黄 内面：2.5Y6/6黄	石灰を含む	
399	引手土器 鉢		7.3	(3.7)	外面：厚縁 内面：厚縁	外面：10YR8/11白 内面：10YR8/11白	石灰、灰石を含む	底面外周：縷文
400	引手土器 鉢		6.0	(5.2)	外面：蓋で 内面：蓋で	外面：10R5/4.5黄 内面：10YR8/21・L1黄	石灰を含む	
381	引手土器 灰皿	15.8		(6.9)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：5YR8/6黄 内面：5YR8/6黄	石灰を含む	
382	引手土器 山笠	18.8		(8.2)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：10YR8/21・L1黄緑 内面：10YR8/21・L1黄緑	石灰、角閃石、雲母を含む	
383	引手土器 蓋	14.0		(7.2)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：10YR2/21・L1黄 内面：10YR2/21・L1黄	石灰、長石、角閃石、雲 母を含む	断面外周：縷毛目 口縁部外周：縷毛目
384	引手土器 蓋	21.6		(8.1)	体部外周：縷毛目 体部内面：厚縁	外面：10YR8/21・L1黄 内面：10YR8/21・L1黄	石灰、長石を含む	
386	引手土器 蓋	14.8		(4.9)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：2.5Y6/11白 内面：10YR2/11白	石灰を含む	
387	引手土器 蓋	7.9		(3.2)	口縁部外周：蓋で 口縁部内面：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：7.5YR6/41・L1黄 内面：7.5YR6/41・L1黄	石灰、角閃石、雲母を含む	
388	引手土器 蓋	14.0		(13.3)	口縁部外周：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：10YR6/21・L1黄 内面：10YR6/21・L1黄	石灰、灰石、角閃石、雲 母を含む	断面外周：縷文
389	引手土器 蓋	38.0		(3.7)	口縁部外周：蓋で 口縁部内面：蓋で	外面：10YR8/21・L1黄 内面：10YR8/21・L1黄	石灰、鉄石を含む	口縁部外周：縷毛目
390	引手土器 鉢	25.0		(6.0)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：10YR8/41・L1黄 内面：10YR8/41・L1黄	石灰、長石を含む	
391	引手土器 高鉢	22.6		(6.9)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：10YR2/21・L1黄 内面：10YR2/21・L1黄	石灰、石灰、雲母を含む	
392	引手土器 小鉢	8.2	5.0	8.2	外面：縷文 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：10YR8/21・L1黄 内面：10YR8/21・L1黄	石灰、雲母を含む	
393	引手土器 小鉢		3.2	(5.8)	体部外周：縷文で 体部内面：縷文で 口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：7.5YR8/21・L1黄 内面：10YR8/21・L1黄	石灰を含む	
394	引手土器 製印土器		3.0	(2.2)	体部外周：縷文で 体部内面：縷文で 口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：10YR5/21・L1黄 内面：10YR5/21・L1黄	石灰、雲母、角閃石を含む	
395	引手土器 灰皿		6.7	(16.5)	外面：縷毛目 内面：縷毛目、縷毛目	外面：7.5YR5/21・L1黄 内面：7.5YR5/21・L1黄	石灰、長石を含む	外面：縷文
396	引手土器 灰皿			(13.0)	体部：下半部：縷毛目 下半部：縷毛目	外面：2.5Y8/11白 内面：2.5Y7/11白	石灰、灰石を含む	断面外周：縷文
397	引手土器 灰皿			(7.9)	外面：縷毛目 内面：縷毛目	外面：10YR2/21・L1黄 内面：10YR2/21・L1黄	石灰、長石を含む	外面：縷文
398	引手土器 灰皿		5.4	(4.1)	外面：縷毛目 口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で	外面：7.5YR5/21・L1黄 内面：10YR2/21・L1黄	石灰、石灰、角閃石、雲 母を含む	
399	引手土器 灰皿		13.2	(7.0)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：10YR8/21・L1黄 内面：10YR8/21・L1黄	石灰、長石、雲母を含む	口縁部内面：縷文
400	引手土器 灰皿		16.8	(6.8)	口縁部外周：縷文で 口縁部内面：縷文で 体部外周：縷文で 体部内面：縷文で	外面：10YR2/21・L1黄 内面：10YR2/21・L1黄	石灰、長石を含む	

動物種	種	法 量 (cm)		形態、手法の特徴	色 調		胎 上	備 考
		体 長	尾 長		外 色	内 色		
401	野生十郎 上型雄	16.4	(7.4)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR6/3C-1.5 内側：10YR6/4C-1.5	黒石、石灰、歯骨を含む		
402	野生十郎 上型雄	16.4	(5.4)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：7.5YR6/2.5	黒石を含む		
403	野生十郎 上型雄	15.0	(12.0)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：7.5YR6/2.5	石灰、黒石、角閃石を含む		
404	野生十郎 雄	14.9	3.0 (23.2)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR7/2.5 内側：7.5YR7/4.5	石灰、花崗石、歯骨を含む		
405	野生十郎 雄	12.5	4.2 16.0	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR2/2.5 内側：10YR6/3C-1.5	石灰、黒石を含む	内側：黒泥	
406	野生十郎 雄	18.2	(5.1)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR7/2C-1.5 内側：10YR7/3C-1.5	黒石を含む		
407	野生十郎 雄	14.6	(6.9)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：7.5YR6/4C-1.5	歯骨を含む		
408	野生十郎 雄	15.6	(5.5)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR7/2C-1.5 内側：10YR7/3C-1.5	石灰、黒石、角閃石を含む		
409	野生十郎 雄	12.4	(6.0)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：7.5YR6/3C-1.5	石灰、黒石、角閃石を含む		
410	野生十郎 雄	10.6	(9.6)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/2.5 内側：10YR6/2.5	石灰、黒石、歯骨を含む	顔部内側：泥	
411	野生十郎 雄	13.0	(4.0)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR7/2.5 内側：7.5YR7/2.5	石灰、黒石を含む		
412	野生十郎 雄	10.2	(7.7)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/3C-1.5 内側：7.5YR6/3C-1.5	石灰、角閃石、歯骨を含む		
413	野生十郎 雄	体長12.5 尾長13.8	(8.5)	外側：黒毛目 内側：黒毛目 体部下内側：黒毛目 体部下内側：黒毛目	外側：10YR7/2C-1.5 内側：7.5YR6/3C-1.5	石灰を含む	体部下内側：黒泥	
414	野生十郎 雄	体長13.8 尾長13.8	(10.5)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/3C-1.5 内側：7.5YR6/3C-1.5	石灰を含む		
415	野生十郎 雄	15.6	(6.4)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：10YR7/2C-1.5	石灰、黒石、角閃石、歯骨を含む		
416	野生十郎 雄	19.4	(6.4)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：7.5YR6/4C-1.5	石灰、黒石、角閃石を含む	口縁部内側：黒泥	
417	野生十郎 小型雌雄	8.8	6.7	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR7/2C-1.5 内側：10YR7/2C-1.5	石灰、黒石を含む	体部下内側：黒泥	
418	野生十郎 大型雄	42.2	(9.7)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR6/3C-1.5 内側：7.5YR6/4C-1.5	石灰、黒石、角閃石、歯骨を含む		
419	野生十郎 小型雄	11.0	3.1	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR6/2.5 内側：10YR6/3C-1.5	石灰、黒石を含む		
420	野生十郎 雄	16.8	(8.3)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：7.5YR6/4C-1.5	石灰、黒石、角閃石を含む		
421	野生十郎 雄	22.0	9.1	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR7/3C-1.5 内側：7.5YR7/3.5	石灰を含む		
422	野生十郎 雄		(3.9)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/2C-1.5 内側：7.5YR6/3C-1.5	石灰、黒石、角閃石を含む		
423	野生十郎 雄		(3.1)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR6/4C-1.5 内側：7.5YR6/4C-1.5	石灰、黒石、角閃石を含む		
424	野生十郎 雄		(6.7)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：2.5YR/1.5 内側：2.5YR/2.5	石灰、黒石を含む		
425	野生十郎 雄		(4.0)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR7/2C-1.5 内側：7.5YR7/2C-1.5	石灰、石灰、歯骨を含む		
426	野生十郎 雄		3.6 (3.2)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR6/4C-1.5 内側：10YR6/4C-1.5	石灰、石灰、歯骨を含む	顔部内側：黒泥	
427	野生十郎 雄		3.4 (1.8)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR2/2.5 内側：10YR6/3C-1.5	石灰、石灰、角閃石を含む		
428	野生十郎 雄		3.7 (6.2)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：7.5YR7/2C-1.5 内側：2.5Y/1.5	石灰、黒石、角閃石を含む		
429	野生十郎 雄		3.0 (3.8)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR4/1.5 内側：7.5YR6/2.5	石灰、歯骨を含む		
430	野生十郎 雄		3.2 (9.1)	口縁部外側：黒色で 顔部外側：黒毛目 口縁部内側：黒色で 頸部内側：黒色で	外側：10YR6/2.5 内側：5YR6/6.5	石灰、石灰を含む	内側：黒泥	

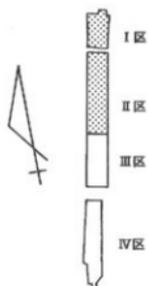
通称 番号	部 種	造 量 (m)			形制・手法の特徴	色 調	積 止	備 考
		口 径	底 径	高 点				
421	常生土器 高杯	5.3	(5.1)		底面外周：磨毛目 底面内周：なで	外周：10YR6/1黒灰 内周：10YR6/1黒灰	長石、石炭、雲母を含む	
422	常生土器 高杯	7.9	(6.0)		外周：摩滅 内周：摩滅	外周：2.5Y/7 内周：2.5Y/2黄赤	石灰、炭石を含む	
423	常生土器 高杯	4.6	(5.2)		外周：磨滅 底面内周：磨毛目 底面外周：磨毛目	外周：2.5Y/7 内周：2.5YR5/4紅・赤 底面：2.5Y/2黄赤	長石、石炭、雲母を含む	
424	常生土器 高杯	2.8	(2.6)		外周：摩滅 内周：磨毛目	外周：7.5YR6/2紅・赤 内周：10YR6/2赤黄緑	石灰、花崗岩等を含む	内周面：磨滅
425	常生土器 高杯	20.0	(8.9)		外周：磨毛目 内周：なで、磨毛目	外周：2.5Y/7 内周：2.5YR2/2赤黄	石灰、炭石を含む	外周：阿波山文
426	常生土器 高杯	14.6	(3.9)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：2.5Y/7 内周：2.5Y/2黄赤	長石、炭石を含む	
427	常生土器 高杯	17.4	(4.7)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：5YR6/4紅・赤 内周：10YR6/2赤黄緑	長石、石灰、炭石を含む	
428	常生土器 高杯	15.4	(6.7)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：2.5Y/7 内周：10YR7/2紅・赤黄緑	長石、石灰、内関石、雲母を含む	
429	常生土器 高杯	16.8	(7.2)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：2.5Y/7 内周：10YR7/2紅・赤黄緑	石灰、炭石を含む	
440	常生土器 高杯	15.0	(7.4)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：2.5YR6/2紅・赤 内周：2.5YR6/2紅・赤	長石、石灰、内関石、雲母を含む	
441	常生土器 高杯	16.6	(11.2)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：2.5YR6/2紅・赤 内周：2.5YR6/2紅・赤	長石、石灰、内関石、雲母を含む	
442	常生土器 高杯	12.8	(7.0)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：5YR8/6黄緑 内周：2YR8/4黄緑	長石を含む	
443	常生土器 小型片	9.8	7.9		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部内周：磨毛目	外周：10YR7/2紅・赤 内周：2.5Y/2黄赤	長石、石灰、雲母を含む	体部外周：磨毛目
444	常生土器 小型片	9.9	4.5		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部内周：磨毛目	外周：2.5YR6/4紅・赤 内周：2.5YR6/4紅・赤	長石、石灰、雲母を含む	
445	常生土器 小型片	1.4	(3.4)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：2.5YR6/2紅・赤 内周：2.5Y/2黄赤	長石、石灰、雲母を含む	内周面：磨滅
446	常生土器 高杯	38.0	(5.1)		外周：摩滅 内周：摩滅	外周：5Y/1オリーブ 内周：2.5Y/2黄赤	石灰、炭石を含む	口縁部面：割れ欠
447	常生土器 高杯	3.1	(1.0)		外周：摩滅 内周：摩滅	外周：5YR6/4紅・赤 内周：5YR6/4紅・赤	長石、内関石を含む	
448	常生土器 高杯	12.3	4.7		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部内周：磨毛目	外周：N5/灰 内周：N6/灰	長石を含む	
449	常生土器 高杯	造器径 8.1	(9.5)		外周：なで、磨毛目 内周：なで、磨毛目	外周：5YR6/4紅・赤 内周：5YR6/4紅・赤	石灰、炭石、内関石を含む	
450	常生土器 高杯	10.2	(4.0)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：N8/灰 内周：N8/灰	石灰、炭石を含む	
451	常生土器 高杯	14.0	(2.8)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：N7/灰 内周：N7/灰	石灰を含む	
452	常生土器 高杯	12.2	(2.2)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：N8/灰 内周：N8/灰	石灰、炭石を含む	
453	常生土器 高杯	11.4	(3.3)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：5Y/1 内周：2.5Y/1灰白	炭石を含む	
454	常生土器 高杯	17.0	(3.3)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：N7/灰 内周：N7/灰	炭石を含む	
455	常生土器 高杯	14.4	4.0	13.7	口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：5YR6/4紅・赤 内周：2.5YR6/4紅・赤	石灰、炭石を含む	
456	常生土器 高杯	16.1	(8.8)		底面外周：磨毛目 底面内周：磨毛目	外周：10YR7/1灰白 内周：2.5Y/2黄赤	石灰、炭石を含む	底面外周：磨滅
457	常生土器 高杯	22.0	(5.3)		外周：摩滅 内周：摩滅	外周：5YR6/4紅・赤 内周：5YR6/4紅・赤	石灰、炭石を含む	
458	常生土器 高杯	19.0	(4.5)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：5YR7/2紅・赤 内周：2.5Y/2黄赤	石灰、炭石を含む	
459	常生土器 高杯	17.0	(10.0)		口縁部内周：磨毛目 口縁部外周：磨毛目	外周：2.5YR6/4紅・赤 内周：2.5YR6/4紅・赤	石灰、炭石を含む	上段：内径1.0、高1.0 下段：内径2.0、高1.0
460	常生土器 高杯	13.1	(5.3)		外周：なで 内周：なで	外周：5Y/2 内周：5Y/2	石灰、炭石、雲母を含む	
461	常生土器 高杯	13.6	(3.6)		外周：なで 内周：磨毛目	外周：10YR7/1灰白 内周：10YR7/1灰白	石灰を含む	
462	常生土器 高杯	造器径 9.2	径 5.3	径 3.4	外周：なで 内周：磨毛目	外周：5Y/6 内周：5Y/6	砂状	
463	常生土器 高杯	11.2	(6.1)		外周：なで 内周：磨毛目	外周：10YR4/1黒灰 内周：10YR7/1灰白	石灰、炭石を含む	口縁部面：粗目目文 口縁部外周：磨滅(径4.5)欠
464	常生土器 高杯	30.0	(4.4)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目	外周：10YR6/2赤黄緑 内周：10YR6/2赤黄緑	長石、内関石、雲母を含む	
465	常生土器 高杯	21.0	(3.8)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：10YR6/2赤黄緑 内周：10YR6/2赤黄緑	石灰、炭石、内関石を含む	
466	常生土器 高杯	10.5	(10.5)		外周：なで 内周：なで	外周：10YR6/2赤黄緑 内周：10YR6/2赤黄緑	石灰、炭石を含む	外周：磨滅
467	常生土器 高杯	19.9	(7.1)		口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目	外周：2.5YR6/4紅・赤 内周：2.5YR6/4紅・赤	長石、雲母を含む	
468	常生土器 高杯	体部径 50.8	(50.0)		上・下内周：磨毛目 口縁部外周：磨毛目 口縁部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：2.5YR6/4紅・赤 内周：2.5YR6/4紅・赤	石灰、炭石、内関石を含む	
469	常生土器 高杯	体部径 34.0	(44.7)		体部内周：磨毛目 体部上・下内周：磨毛目	外周：2.5YR6/4紅・赤 内周：10YR6/4紅・赤	石灰、炭石、内関石を含む	体部上・下内周：磨滅
470	常生土器 高杯	36.8	(15.8)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：5Y/2 内周：5Y/2	石灰、長石、内関石を含む	口縁部外周：磨滅(径2.5)欠 内周：磨毛目
471	常生土器 高杯	体部径 35.2	(64.7)		外周：磨毛目 内周：磨毛目	外周：5YR6/4紅・赤 内周：5YR6/4紅・赤	石灰、炭石、内関石を含む	体部外周：磨滅

参考文献

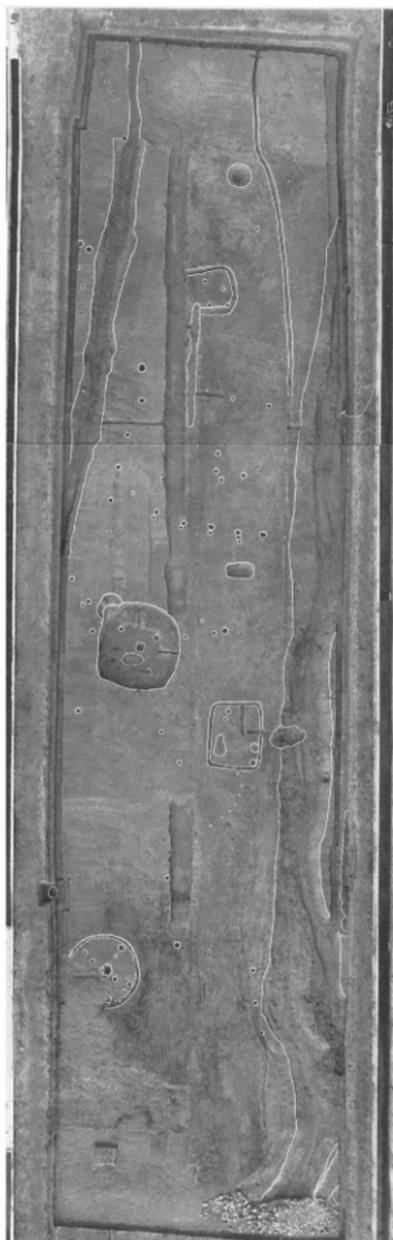
- 蔵本哲司 1999 「弥生時代終末期の讃岐地域の土器様相について」『中間西井坪遺跡Ⅱ』香川県教育委員会ほか
松本和彦 2000 「松並・中所遺跡整穴住居について」『松並・中所遺跡』香川県教育委員会ほか
森下英治 2001 「旧連兵場遺跡の集落構造」『旧連兵場遺跡』普通寺市教育委員会ほか



▲ 1 I区 (縮尺約1/300, 上が略北)

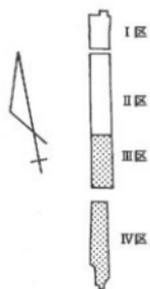


2 II区 (縮尺約1/300, 上が略北) ▶

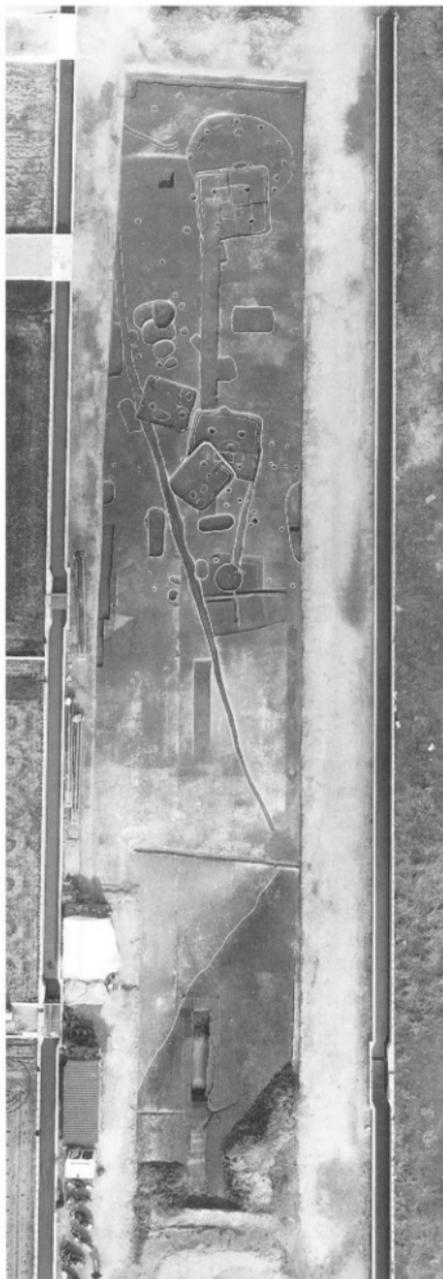




▲ 1 III区 (縮尺約1/300, 上が略北)



2 IV区 (縮尺約1/300, 上が略北) ▶





1 I区全景 (西から)



2 II区全景 (西から)



3 III区全景 (西から)



4 IV区全景 (西から)



1 I・II区全景 (南から)



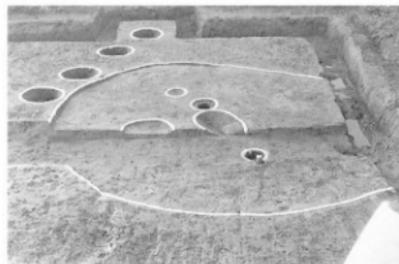
2 III区全景 (南から)



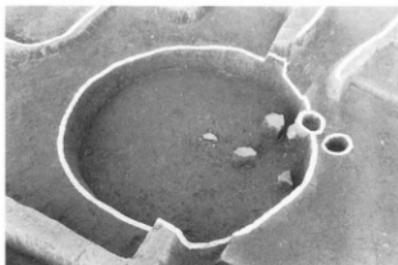
3 IV区全景 (北から)



1 SD18完掘状況 (東から)



5 SH01完掘状況 (東から, 奥がSA01)



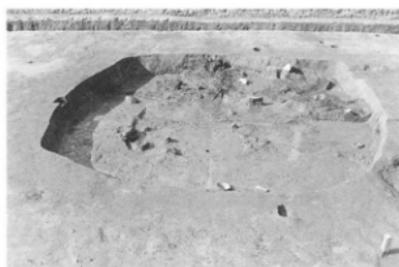
2 SK25完掘状況 (南から)



6 SH02完掘状況 (東から)



3 SH10完掘状況 (東から)



7 SH03遺物出土状況 (東から)



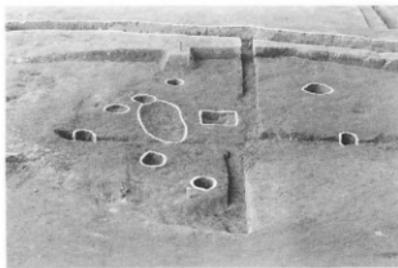
4 SH10炭化材出土状況 (北から)



8 SH03完掘状況 (西から, ベッド状遺構あり)



1 SH03完掘状況 (東から、ベッド状遺構除去時)



5 SH07完掘状況 (東から)



2 SH04完掘状況 (東から、手前はSE01)



6 SH08完掘状況 (北東から)



3 SH05完掘状況 (東から)



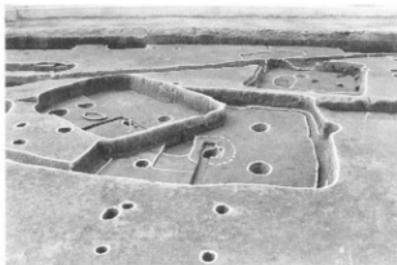
7 SH09完掘状況 (東から)



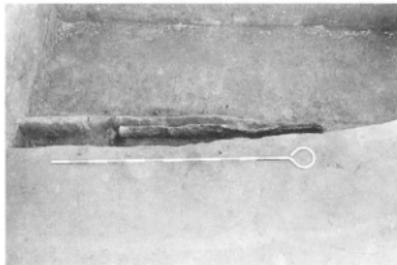
4 SH06完掘状況 (東から、SD12・13)



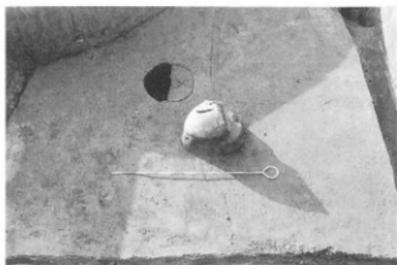
8 SH09遺物出土状況 (北から)



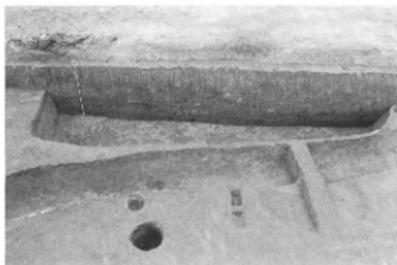
1 SH11・12完掘状況 (東から)



5 SH14間仕切板出土状況 (東から)



2 SH12遺物出土状況 (東から)



6 SH13完掘状況 (東から)



3 SH14完掘状況 (西から)



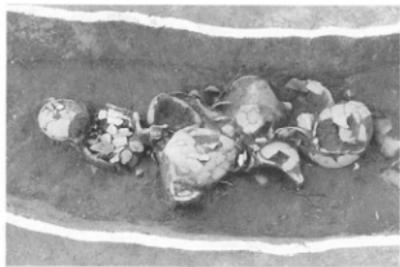
7 SD01完掘状況 (北から)



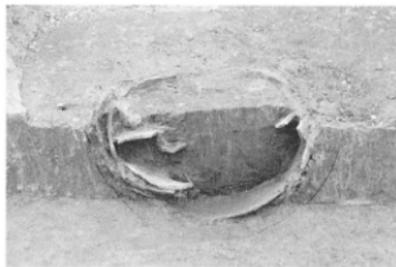
4 SH14炭化材出土状況 (西から)



8 SD01断面 (北から、Ⅱ区北側)



1 SD07上層遺物出土状況 (東から)



5 II区土器棺墓検出状況及び断面 (東から)



2 SD07断面 (北から、北側)



6 II区土器棺完掘状況 (東から)



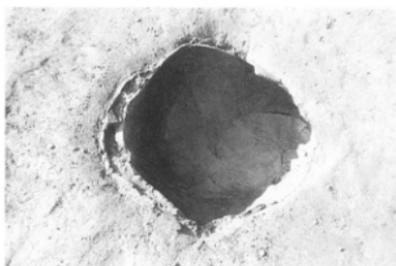
3 SD03完掘状況 (4・5区、北・西から)



7 廃土置場土器棺1完掘状況 (東から)



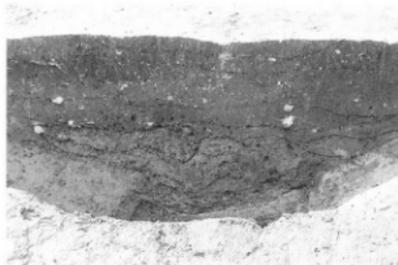
4 SD03断面 (東から、8区西側)



8 廃土置場土器棺2完掘状況 (北から)



1 集石(橋状遺構)全景 (東から)



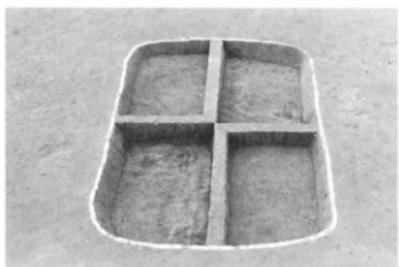
5 Ⅲ区小谷断面 (北から, SD03・18含む)



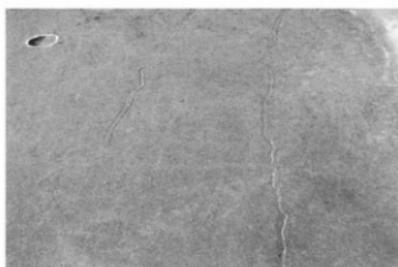
2 SD15~17完掘状況 (西から)



6 SD10・11完掘状況 (南から)



3 SK07完掘状況 (東から)



7 噴砂検出状況 (東から)



4 SK18完掘状況 (北から)



8 Ⅳ区旧河道断面 (東から)



68



62



70



162



159



170



171



185



173



187



175



192



193



199



195



200



198



201



202



208



204



209



207



231



232



238



233



343



234



371



404



40



468



470



469



471

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひっこんばらいせき							
書名	凹原遺跡							
副書名	太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五冊							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第56集							
編集者名	川畑 聡							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL 087(839)2636							
発行年月日	平成13年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
ひっこんばらいせき 凹原遺跡	たかまつし たひ 高松市多肥 しもまち 下町673番地 ほか	37201		34° 17' 47"	134° 3' 39"	H 2.11.5 ～ H 3.2.28	3,274 m ²	道路建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
凹原遺跡	集 落	弥生時代前期末 ～ 弥生時代中期前葉	竪穴住居, 溝, 土坑	弥生土器, 石器		環濠?		
		弥生時代後期末 ～ 古墳時代前期初葉	竪穴住居, 井戸, 溝	弥生土器		竪穴住居群		
		古墳時代後期後半	集石, 溝	須恵器				
		江戸時代	溝, 土坑	瓦				

凹 原 遺 跡

太田第2土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 第五冊

編集・発行 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号

発 行 日 平成13年12月28日
印 刷 高東印刷株式会社

凹原遺跡遺構配置図（縮尺 1/100）

